事業者名	秋田県

補助事業の実績

Ⅰ　目的

これまでの事業の成果を踏まえ、教育・保育アドバイザーを配置する市町村の拡充を進めるなど、市町村における幼児教育推進体制の構築を促進し、市町村の主体的な取組が推進されることにより、幼稚園・保育所・認定こども園等の施設類型等にかかわらない一体的な地域内における教育・保育の質の向上を図る。

幼保小連携に向けた基盤づくりを促進し、架け橋期にふさわしいカリキュラムを開発・実施するなど「幼保小の架け橋プログラム」の取組が推進されることにより、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるこの時期の教育・保育の質の向上を図る。

Ⅱ　方法

「県（幼児教育センター）の取組」「県と市との連携による取組」「市町村の取組」を実施

Ⅲ　実施内容

【幼児教育アドバイザーの配置・育成など、体制の充実】

県（幼児教育センター）の取組　県と市町村との連携による取組　配置市町村の取組

※配置市町村：大館市、男鹿市、横手市、潟上市、仙北市、大仙市、にかほ市、能代市、北秋田市、東成瀬村

1　アドバイザー配置市町村の主体的な取組の推進

（1）県教育・保育アドバイザー等による配置市町村への伴走型の支援

（2）アドバイザー間のネットワークを構築

①目的

県教育・保育アドバイザーを核とした市町村教育・保育アドバイザーの育成・支援や、市町教育・保育アドバイザーのネットワークを構築する。

②内容

ア）県教育・保育アドバイザーの配置

イ）「教育・保育アドバイザー連絡協議会」の開催（５回）、参加者の拡充

・具体事例による保育の見方や保育者に対する助言方法についての演習・協議　等

ウ）指導主事等訪問への市町村アドバイザーの同行

（指導･助言方法についての理解、園や保育者の課題や情報の共有）

エ）市町村の要請による県指導主事・県教育・保育アドバイザー等の訪問支援

（園や保育者の課題に対する市町村アドバイザーの関わり方や支援の仕方、悩みに対する指導･助言、市主催の研修会の企画・運営等への指導･助言等）

オ）県主催所管研修会へ参加

（市町村アドバイザーの専門性の向上を図る機会、研修の企画･運営方法を学ぶ機会）

（市町村の保育者の実態をつかむ）

カ）「他市町村のアドバイザーに学ぶ研修会」の開催

（他市町村のアドバイザーの取組を参観、園や保育者との関わりについて学ぶ。全員で保育を参観し、保育についての協議を行い、保育の見方を共有する）

③内容の詳細

ア）県教育・保育アドバイザーの配置（市町村教育・保育アドバイザーの育成・統括的役割）

市教育・保育アドバイザーの育成と活動支援を担う目的で、県に教育・教育アドバイザーを配置している。統括的役割を担い、園や保育者の課題の共有、課題解決に向けた協議を進めるとともに、教育・保育内容に関する指導の方向性の統一を図るための取組を進めている。市教育・保育アドバイザーとのネットワークを構築し相談役にもなり、その存在が精神的な支えとなっている。

イ）「教育・保育アドバイザー連絡協議会」の開催（５回）、参加者の拡充

実践的な内容を取り入れ、年５回実施した。保育者に対する具体的な指導・助言に向けたロールプレイによる演習や協議、事例検討、情報交換を行った。ロールプレイの事例は、アドバイザーが訪問していて課題だと感じた事例を基に行った。乳幼児保育については、３歳未満児と３歳児以上の接続をテーマとした講義を受け、乳幼児期にふさわしい生活とその援

助について演習・協議を行った。特別な配慮を必要とする子どもへの教育・保育に関する事例検討では、特別支援コーディネーターと一緒に協議を行い、園や保育者の課題に対するよりよい指導･助言や支援の在り方、関わり等について考える機会とした。

【参加者】（計 15 名）

県教育・保育アドバイザー（以下　県ＡＤ）１名
事業実施市教育・保育アドバイザー（市負担ＡＤ含　以下　市ＡＤ）13 名
指導主事１名

【実施日程・場所・主な内容】

	期　日（曜）	場　所	主　な　内　容（予定）
1	令和６年 ４月 23 日（火） 10:00～16:30	秋田地方総合庁舎６階 総 601 会議室	・令和６年度の事業について ・県と実施市町村の連携・協力体制の確認 ・教育・保育アドバイザーに求められること ・架け橋プログラム研修Ⅰ受講
2	６月 23 日（金） 10:00～16:00	秋田県庁第二庁舎５階 52 会議室	・特別な配慮が必要とする子どもへの教育・保育について」説明・事例検討・協議 ・幼保小の接続に関する事例検討・協議 ・各市町村開催の研修会等への取組に関する情報共有
3	８月 24 日（木） 10:00～16:00	秋田地方総合庁舎６階 総 610 会議室	・【講義・演習】「発達の連続性を考える～２歳児と３歳児の保育について～」 ・事例検討・協議「不適切な保育の未然防止のための教育・保育アドバイザーの役割とは」 ・事例検討・協議「好奇心を支える保育者の関わりとは」 ・各市町村の取組について情報共有
4	10 月 24 日（火） 10:00～16:00	秋田地方総合庁舎６階 総 610 会議室	・ロールプレイによる事例検討 ・保育者に対する助言方法についての協議 ・各市町村の取組について情報共有
5	令和７年 １月 23 日（火） 10:30～16:00	秋田地方総合庁舎６階 総 605 会議室	・令和６年度の成果と課題の共有 ・令和７年度の取組について ・架け橋プログラムに関する研修の推進について

事業報告

テーマに基づいて協議・演習

【教育・保育アドバイザーの声】

・ロールプレイによる協議では、具体的な事例から解決策を探る中で、アドバイザーとしての関わり方、支援のあり方について多くのことを学ぶことができた。事例は、訪問の中で、疑問に思ったり、課題として感じていたりしたことであり、これからの支援に生かしていきたい。

・県幼保指導員による講義・演習の事例から、園で行っている「当たり前」になってきていることに対して、どんなことを切り口としながら接するかをアドバイザーとして考えていきたいと思った。

・特別な配慮が必要な子どもへの教育・保育については、年々支援を必要とする子どもが増えてきているため、学びが多かった。

・具体的な遊びについてのグループ協議は、互いの見方の違いに気付け、有意義なものになった。このような協議の有効性を実感した。

・各市町村の研修や取組について、様々な情報を得ることができ、自市にどのように反映させていくのかを考える際の参考になった。とてもよい機会である。

・初めてこの仕事に携わり、見ること聞くこと一つ一つが全て知らないことばかりで、とても勉強になった。

ウ）指導主事等訪問への市町村アドバイザーの同行

（指導･助言方法についての理解、園や保育者の課題や情報の共有）

実施市における、園種の垣根を越えた全園種を対象とした各種訪問時に、市町村アドバイザーが県指導主事及び幼保指導員に同行し、保育の見方や園及び保育者に対する指導・助言方法について理解を深めた。

市町村アドバイザーは県指導主事等と園や保育者の課題解決に向け指導・支援するポイントを共有し、園へ継続的に指導・支援を実施した。

【市町村ＡＤの同行数】

配置市町村	回数	前年比
大　館　市	20	0
男　鹿　市	6	-3
横　手　市	3	-5
潟　上　市	5	0
仙　北　市	8	-5
大　仙　市	25	+3
にかほ　市	0	0
能　代　市	11	0
北秋田市	5	
東成瀬村	4	

R6.4～R7.3

エ）市の要請による県指導主事・県アドバイザー等の訪問支援

園や保育者の課題に対する市町村アドバイザーの関わりや支援の仕方、悩みに対する指導･助言、市町村主催の研修会の企画･運営等の具体的内容に関することなど、

市町村教育･保育アドバイザーへの支援を行った。

オ）県主催所管研修会へ参加

（市町村アドバイザーの専門性の向上を図る機会、研修の企画･運営方法を学ぶ機会）（市町村の保育者の実態をつかむ）

市町村アドバイザーが幼保推進課主催の研修会に参加する中で、教育・保育内容等の理解を深めたり、研修会開催の企画や運営方法を学んだりした。また、所管研修で学んだことを市町村主催研修会及び園訪問で活用し、研修内容の充実に努めた。各市町村の園に在籍する保育者の実態把握の場にもなっている。

この他、他市町村主催の研修会にも参加しているアドバイザーが増えてきている。

市町村アドバイザーの代替わりや新規の方の参加、配置人数の違いにより回数にばらつきが見られるが、意欲的に研修に参加している。

【市町村ＡＤの県所管研修参加数】

配置市町村	回数	前年比
大　館　市	10	+2
男　鹿　市	17	+7
横　手　市	10	+6
潟　上　市	7	+1
仙　北　市	7	+2
大　仙　市	17	+4
にかほ　市	9	+6
能　代　市	5	+2
北秋田市	3	
東成瀬村	5	

R6.4～R7.3

カ）「他市町村のアドバイザーに学ぶ研修会」の開催

（他市町村のアドバイザー活動を参観、園や保育者との関わりについて学ぶ、）

【市町村アドバイザーに学ぶ研修会】

期 日	場 所	主な内容・参加者
９月 13 日（月）	社会福祉法人はなさき仙北角館こども園　角館庁舎	保育参観・仙北市保育研修会・保育の振り返り・アドバイザー協議会 市町村ＡＤ４名、県ＡＤ
９月 19 日（木）	社会福祉法人仁賀保保育会つぼみ保育園	保育参観・保育の振り返り・経営説明・アドバイザー協議会 市町村ＡＤ２名、県ＡＤ
10 月 8 日（火）	大館市立扇田保育園	保育参観・アドバイザー協議会 市町村ＡＤ６名、県ＡＤ、指導主事１名
10 月 15 日（火）	社会福祉法人大曲保育会大曲中央こども園	保育参観・保育の振り返り・協議に向けて・アドバイザー協議会 市町村ＡＤ８名、県ＡＤ
10 月 17 日（木）	社会福祉法人明照福祉会明照保育園	保育参観・保育の振り返り・ワークショップ参観・市指導主事指導助言参観・研修の振り返り・アドバイザー協議会 市町村ＡＤ３名、県ＡＤ
10 月 23 日（水）	男鹿市立若美南保育園	保育参観・保育の振り返り・園内研修参観・園内研修の振り返り・管理職との話し合い・アドバイザー協議会 市町村ＡＤ２名、県ＡＤ
10 月 30 日（水）	能代市立第一保育所	保育参観・経営説明・所内研修参観・アドバイザー協議会 市ＡＤ５名、県ＡＤ
11 月 21 日（木）	潟上市立追分保育園	保育参観・保育の振り返り・アドバイザー協議会 市ＡＤ５名、県ＡＤ

【教育・保育アドバイザーの声】

・他市町村の保育やアドバイザーの関わり方等を直接参観することで、参考になることが多かった。
・子どもが育つ環境、保育者の意識によって素晴らしい保育が展開される実際を目の当たりにして学びの多い研修になった。
・協議会は、新しく教育・保育アドバイザーになった方の悩みに答える形で進めることができた。アドバイスはもちろん、自分の取組の改善点も浮き彫りにすることができた。県教育・保育アドバイザーの話は、いつも興味深く、学ぶことが多い。
・協議会では、保育の振り返りの手法を工夫しながらやってみることや保育を変えるきっかけ作りなどを具体的に学ぶことができた。その中から自市にあったもの、自分自身ができることを始めたいと感じた。

市町村アドバイザーに学ぶ研修会

（３）市町村主催研修会の支援

①目的

県からの指導者（幼児教育担当指導主事、小学校生活科担当指導主事等）派遣により、市町村主催研修会を支援し、市町村の課題や園のニーズに応じた研修会を市町村が主体的に企画・運営できるようにする。

②方法

教育・保育アドバイザー配置市及び未配置市町村の要請に応じた指導者(指導主事、幼保指導員、県教育・保育アドバイザー)の市町村主催研修への派遣

③実施内容

市町村や園の課題やニーズに応じた研修会を主体的に企画・運営できるように、市町村の要請に可能な限り対応した。県から指導者（県指導主事、幼保指導員、県教育・保育アドバイザー）を派遣し、市町村主催研修会を支援した。
保育実践や市町村の課題に応じた研修会、人材育成に関する研修会などでの活用があった。

(参考)市町村主催研修会への指導主事等を派遣した研修会

市町村	研　修　会
大館市	ファシリテーター研修会　３回
男鹿市	市就学前・小学校合同研修会、保育実践力向上研修会（２回）
横手市	保育実践力向上研修会（２回）
潟上市	公開保育研究会、保育実践研修会（４回）
仙北市	ファシリテーター研修会、指導計画作成（２回）、乳幼児保育研修会（２回）
大仙市	保育実践力向上研修会
にかほ市	市幼保小合同研修会、保育研修会
能代市	保育実践研修会、就学前・小学校能代地区合同研修会
北秋田市	幼保小連携会議（２回）、幼保小合同研修会、保育要録記載研修
東成瀬村	園内研修支援（３回）、村主催研修会

（４）県と市町村の連携による園の重層的支援

①目的

県と市町村の連携体制を活用し、園の課題解決等に向けた情報提供をするとともに、園訪問で県指導主事等と市町村教育・保育アドバイザーが園の支援方針を共有し、同一の方向性で支援する。

②方法

・外部専門家や関係課・所との連携による情報提供
・指導主事等と市町村アドバイザーとの情報共有による支援の方向性の統一、園への継続的な支援
・未配置市町村の園の要請に応じた支援

③実施内容

・県指導主事による園訪問への動向
・園支援訪問

北地区

	訪　問　園	訪問日	種類	日程	対　象	内　容
1	藤里幼稚園	８/23	計画	午後	・地教委指導主事及び主査 ・義務教育学校前期課程教頭、研究主任、１年担任	藤里町架け橋プログラム実施に向けた第３回合同研修会 ・カリキュラム開発に関する協議 ・地教委のコーディネート

					・園長、教諭	※架け橋プログラム市町村訪問を兼ねる
2	あおぞらこども園	9/5	認定こ	午前	園長、主任、指定クラス担任	・クラス運営と子どもへの関わり方
3	三種たつのこ保育園	12/3	要請	午後	園長、保育者	研究発表資料について（R７年度保育研究大会関連）
4	錦木保育園	1/15	要請	午後	園長、副園長、研究担当職員	令和８年度保育研究大会発表に向けて
5	花輪さくら保育園	1/21	要請	午後	園長、副園長、主任、各クラス担任	11月実施の要請訪問以降の園内研究の取組について

中央地区

	訪　問　園	訪問日	種類	日程	対　象	内　容
1	西目こども園	6/5	認こ	午後	パート保育教諭	パート保育教諭を対象とした研修 ・一人一人のこどもの「らしさ」を大切にした言葉掛けや意図ある見守りと手立ての大切さについて

南地区

	訪　問　園	訪問日	種類	日程	対　象	内　容
1	千畑なかよし園	10/8	計画	一日	保育教諭	研修計画や研修の進め方について
2	六郷わくわく園	10/10	計画	午後	保育教諭	指導計画の見直し改善について
3	仙南すこやか園	12/16	計画	午後	保育教諭	研修計画や研修の進め方について
4	湯沢よつばこども園	12/19	認こ	一日	保育教諭	保育公開・研究協議への指導助言
5	皆瀬保育園	9/17	要請	午後	保育士	研究実践と発表に向けた指導助言

２　幼児教育の質的向上を図るための人材育成

（１）アドバイザーによる各施設の課題やニーズに応じた訪問支援

①目的

市町村教育・保育アドバイザーによる域内の公立及び私立幼稚園・保育所・認定こども園等の園訪問により、園や保育者の主体的な課題解決等の支援を継続的に行い、教育・保育の質の向上を図る。

②方法

ア）域内での教育・保育アドバイザー活用の枠組みの決定

イ）域内の幼稚園・保育所・認定こども園等への周知、理解促進

ウ）教育・保育アドバイザー配置及び継続的な訪問指導

エ）県との連携による園の課題解決に向けた支援

オ）市町村教育・保育アドバイザーの活用に関する評価・分析

③実施内容

ア）域内での教育・保育アドバイザー活用の枠組みの決定

【実施市町村における教育・保育アドバイザーの活用】

・推進体制（各市町村の状況、政策決定、周知方法等）

	対象施設数 a 幼　b 保 c 幼保 d 他	a 指導者の配置 b 外部指導者の活用	実施理由 目指す方向性	政策決定者 a 政策の決定者 b 決定の過程	内容の周知	ＡＤ活用促進の工夫
大館	a. 1 b 公 9 私 1 c 私 8 d 15	aH21 福祉課に保育 AD 配置 H28 教育委員会に市 AD 配置 b 県の指導者、市ＡＤを継続活用	教育･保育の質の向上 教職員の専門性向上 小学校教育との円滑な接続	a 市教育委員会 b 市福祉部局と市の課題を共有し協議	小中学校長会、各園長会、研修会、園訪問時の指導等で周知	リーフレットや、幼保小連携だより「つなぐ」の配付による周知
男鹿	a 私 1 b 公立 7 d 1	a H28 に市 AD 配置 b 県の指導者を継続活用		a 市福祉部局 b 市福祉部局内で協議	市担当者と園長会議で周知	園長会議で基本の活用方法決定、幼保連携通信「ぶらんこ」配付
横手	a 私 4 b 公 3 私 21 c 私 4 d 7	aH28 に市 AD 配置 R1 市指導主事配置 b 市の指導主事が在籍。県の指導者の活用は多くない		a 市教育委員会 b 市福祉部局と協議	独自広報紙発行や施設訪問時による周知	幼小連携だより「よこてのめんこ」配付
潟上	a 私 1 b 公 1 c 公 4 d 7	aR1 に市 AD 配置 b 県の指導者を継続活用	教育･保育の質の向上 教職員の専門性向上 小学校教育との円滑な接続	a 市教育委員会 b 市福祉部局と協議	市担当者と園長会議で訪問周知	毎月の園長会議で活用の基本確認、幼保小連携だより「かたっこすまいる」配付
仙北	b 公 3 c 私 5 d 3	aR1 に市 AD 配置 b 県の指導者を継続活用		a 市福祉部局 b 市福祉部局内で協議	園長会議や園訪問での周知	訪問を通じ基本的な活用を周知
大仙	b 私 17 c 私 9 d 3	aR1 に法人から派遣の市 AD 配置 R2 に市 AD 配置 b 県の指導者を継続活用		a 市福祉部局 b 市福祉部局内で協議	周知パンフレットの配布や施設訪問時による周知	AD 派遣事業実施要項の周知、幼小連携だより「だいせん元気っこ」の配付
にかほ	b 私 5 c 私 4	aR3 に市 AD 配置 b 県の指導者を継続活用		a 市福祉部局 b 市福祉部局内で協議	園長会議や園訪問での周知	訪問を通じ基本的な活用を周知
能	a 私 2 b 公 4 私 8	aR4 に市 AD 配置		a 市教育委員会	就学前施設、	訪問を通じ基本的な活

代	c 私 4 d 1	b 県の指導者を継続活用		b 市福祉部局内で協議	小学校への訪問時による周知	用を周知、幼児教育・保育 AD 通信「てのひら」の配付
北秋田市	b 公 3 私 5 c 私 2	aR6 に市 AD 配置 b 県の指導者を継続活用		a 市教育委員会 b 市福祉部局内で協議	幼保小連携会議、合同研修会、園長会や就学前施設、小学校への訪問時による周知	訪問を通じ基本的な活用を周知、幼保小連携便り「もりのかけはし」配付
東成瀬村	b 私 1	aR６に村 AD 配置 b 県の指導者を継続活用		a 村福祉部局 b 村福祉部局内で協議	就学前施設、小学校への訪問時による周知	訪問を通じ基本的な活用を周知、保小連携だより「かけはしなるせ」配付

イ）域内の幼稚園・保育所・認定こども園等への周知、理解促進
周知数と訪問回数

	大館市	男鹿市	横手市	潟上市	仙北市	大仙市	にかほ市	能代市	北秋田市	東成瀬村
R5 実績（回） 周知数 訪問数	171 269	93 153	449 623	71 246	21 169	50 147	26 84	22 105		
R6 実績（回） 周知数 訪問数	49 167	95 196	396 569	79 245	14 179	78 156	71 114	19 112	98 161	46 119

ウ）教育・保育アドバイザー配置及び継続的な訪問指導
【市町村教育・保育アドバイザー訪問実施率】

	大館市	男鹿市	横手市	潟上市	仙北市	大仙市	にかほ市	能代市	北秋田市	東成瀬村
R4 実績（回）	185	98	757	300	178	148	59	101		
R5 実績（回）	171	93	623	246	169	147	84	105		
R6 目標値（回）	195	132	500	159	115	93	72	100	150	22
R6 実績（回）	167	196	569	245	179	156	114	112	161	119
R6 実績率（%）	85.6	148.4	113.8	154.0	155.6	167.7	158.3	112.0	107.3	540.9

【市町村教育・保育アドバイザー訪問内訳】

	園内研修	保育公開	個別相談	実態把握	周知活動	県と同行	幼保小連携	特別支援	その他
大館	17.0 (8.0)	2.7 (0)	1.1 (2.3)	3.8 (8.2)	26.8 (48.8)	10.9 (5.7)	15.9	0.54	21.3 (27.0)
	+9.0	+2.7	−1.2	−4.4	−22	−5.2			−5.7

男鹿	17.4	0.6	24.8	11.9	21.0	1.3	15.5	2.9	4.6
	(13.4)	(1.6)	(25.9)	(13.3)	(25.3)	(2.5)			(18.0)
	+4.0	−1.0	−1.1	−1.4	−4.3	−1.2			−13.4
横手	7.3	1.6	4.4	0.3	62.4	0.5	3.3	19.4	0.8
	(10.1)	(4.4)	(1.8)	(4.6)	(68.4)	(1.2)			(9.5)
	−2.8	−2.8	−2.6	−4.3	−6.0	−0.7			−8.7
潟上	12.7	8.6	29.0	8.4	18.9	1.2	11.8	4.8	4.6
	(14.4)	(5.9)	(32.7)	(6.8)	(17.3)	(1.2)			(9.5)
	+1.7	+2.7	−3.7	+1.6	+1.6	0			−4.9
仙北	10.3	10.3	6.3	14.8	6.3	3.6	34.1	9.8	4.5
	(18.7)	(7.7)	(20.9)	(17.4)	(8.9)	(5.5)			(20.9)
	−8.4	+2.6	−14.6	−2.6	−2.6	−1.9			−16.4
大仙	10.0	1.5	17.6	17.6	23.6	7.6	11.2	0.6	10.3
	(9.2)	(2.9)	(23.2)	(23.5)	(18.4)	(8.1)			(14.7)
	+0.8	−1.4	−5.6	−5.9	+5.2	−0.5			−4.4
にかほ	6.7	2.2	21.4	5.4	31.7	0	14.7	17.0	0.9
	(23.3)	(7.5)	(38.3)	(5.0)	(21.7)	(0)			(4.2)
	−16.6	−5.3	−16.9	+0.4	+10.0	0			−3.3
能代	24.1	0	0.8	33.1	14.3	8.3	18.0	0.7	0.7
	(11.2)	(0)	(1.3)	(52.3)	(14.6)	(7.3)			(13.3)
	+12.9	0	−0.5	−19.2	−0.3	+1.0			−12.6
北秋田	6.4	1.9	9.0	9.0	36.8	1.9	17.3	17.7	0
東成瀬	11.6	1.5	3.9	14.0	35.7	3.1	27.1	3.1	0

［上段：R6 年度(R5 年度)の％　下段：前年比］

○訪問種別の中に幼保小接続に関わる訪問や会議、特別支援に関する項目を新たに設けたことで、市村の実態やニーズ等がより明らかになった。架け橋プログラムに関する取組が増えてきていることがうかがえる。

（２）地域や施設類型の垣根を越えた人材育成等

・キャリアステージに応じた研修等による人材の育成
・若年層及び中核リーダー、多様な職種に応じた育成支援

（３）専門性の向上のためのニーズに応じた研修の充実

①目的

域内施設の就学前教育・保育内容の状況を踏まえ、市町村や園の課題やニーズに応じた研修等の実施による域内で学び合う体制を構築し、保育者の専門性の向上を図る。

②方法

・域内の公立及び私立幼稚園・保育所・認定こども園等を対象とした専門性の向上を図る研修機会の充実（公開保育研究会等による地域で学び合う体制づくり）
・近隣市町村公立及び私立幼稚園・保育所・認定こども園等への周知による研修機会の提供
・公開保育研究会等による地域で学び合う体制づくり
・近隣市町村への研修機会の提供(地域や園種の垣根を越えた学び合いへの支援)

【実施市町村での研修会の開催数と参加者】

	大館	男鹿	横手	潟上	仙北	大仙	にかほ	能代	北秋田	東成瀬	計
R6開催数（回）	37	13	39	32	12	3	3	7	6	6	158
R5開催数（回）	38	5	34	31	17	3	4	7			139
前年比	−1	+8	+5	+1	−5	0	−1	0			+7
R6参加者（人）	１１５２	177	472	447	348	197	34	172	118	101	３２１８
R5参加者（人）	１１０７	43	628	558	318	146	44	160			３００４
前年比	+45	+134	−156	−111	+30	+51	−10	+12			＋１１６

［上段：R6 年度（R5 年度)の実数　下段：前年比（回数、人数）］

【分野別研修会開催数】

	市町村全体	課題別	キャリアステージ別	担当年齢・職種別	公開保育	その他（幼小研修会他）※	開催数（参加者）
大館	−	13（326）	−	9（248）	12（276）	4（302）	37（1152）
	−	11（268）	−	13（327）	10(228)	4（284）	38(1107)
	−	2（+58）	−	−4（79）	+2（+48）	0（＋18）	−1（+45）
男鹿	−	2（54）	8（70）	−	2（24）	1（29）	13（177）
	−	−	1（8）	2（20）	1(中止)	1（15）	5（43）
	−	+2（+54）	+7（+62）	−2（−20）	+1（+24）	0（+14）	+8(+134)
横手	−	3（88）	1（27）	−	33（472）	1（44）	39（472）
	−	3（135）	1（25）	−	28（412）	2（56）	34（628）
	−	0（−47）	0（＋２）	−	+5（+60）	−1（−12）	+4(−156)
潟上	2（68）	12（98）	−	4（68）	6（70）	8（143）	32（447）
	2（171）	12（146）	−	5（71）	5（59）	7（111）	31（558）
	0（−103）	0（−48）	−	−１（−3）	+1（+11）	+1（+32）	+1(−111)
仙北	1（143）	9（130）	−	1（20）	−	1（55）	12（348）
	−	10（140）	2（16）	4（81）	−	1（81）	17（318）

	+1（+143）	−1（−10）	−2（−16）	−３（−61）	−	0（26）	−5（+30）
大仙	−	2（107）	−	−	−	1（90）	3（197）
	−	2（100）	−	−	−	1（46）	3（146）
	−	0（+7）	−	−	−	0（+44）	0（+51）
にかほ	−	2（22）	−	−	−	1（12）	3（34）
	−	−	−	3（27）	−	1（17）	4（44）
	−	−2（−22）	−	−3（−27）	−	0（−5）	−1（−10）
能代	−	2（46）	1（11）	−	−	4（115）	7（172）
	−	2（38）	1（8）	−	−	4（114）	7（160）
	−	0（+8）	0（+3）	−	−	0（+1）	0（+12）
北秋田	−	3（46）	−	−	−	3（+72）	6（118）
東成瀬	−	5（74）	−	−	−	1（27）	6（101）

［上段：R6 年度の回数（参加者数）、中段：R5 年度、下段：R5 年度比］
※その他：幼小接続に関する研修会・事業、市町村内研究発表会等

○市町村主催の研修として、地域の様々なニーズに対応した研修の開催を目指している。毎年同じ内容ではなく、前年度の評価や反省を生かし、各市町村で実態やニーズ等に応じた様々な研修会を企画している。キャリアアップにも対応している。
○幼小合同の研修会を市町村主催研修として各市町村で実施できるよう、県でも支援をしながら開催した。
○アドバイザーのネットワークを生かし、近隣の市町村での研修会に参加ができるようになっている市町村がある。男性保育士の研修会を一緒に行うなど広域での研修会も実現している。

（４）幼保小連携の推進（「幼保小の架け橋プログラム」の取組）

①目的

域内の幼小接続の状況を踏まえ、市町村の課題に応じた取組を実施し、子どもの育ちや学びを小学校教育に円滑につなぐための接続の体制を整える。

②方法（市町村の実情による）

・接続を見通した教育課程の編成・実施に向けた研修会等の開催
・小学校への円滑な接続に関する理解促進を図る研修会の開催
・部局間連携による幼保小連携の推進
・就学前関係者、小学校関係者、幼児教育行政関係者、小学校教育行政関係者等による開発会議や合同会議等の開催
・架け橋カリキュラムの開発

（５）県との連携体制の確保

①目的

県内大学、幼児教育関係団体、関係各課・所と連携体制と連携体制がある県の幼児教育センター（教育庁幼保推進課、北・南教育事務所総務・幼保推進班）と連携・協力し、教育・保育の課題解決や保育者の専門性の向上を図る推進体制を整備・充実させ、教育・保育の質の向上を図る。

②方法

・就学前教育推進協議会への継続的な参加（行政担当、教育・保育アドバイザー）
・教育・保育アドバイザー連絡協議会への継続的な参加（教育・保育アドバイザー）
・幼保推進課及び北・南教育事務所総務・幼保推進チーム指導主事等との指導内容に関する情報共有
・園の課題解決に向けた相談

【②－①研修支援・巡回訪問、幼保小接続の推進など、体制の活用】

県（幼児教育センター）の取組

３　架け橋カリキュラムを開発・実施する市町村の拡充

（１）幼児教育スタートプラン推進のための会議

①目的

幼保小の接続期の教育・保育の質的向上に向け、「幼保小架け橋プログラム」の在り方等について協議し、以後の幼児教育スタートプラン推進体制の充実強化に資する。

②期日・場所

５月 21 日　秋田県庁第二庁舎
２月４日　　秋田県庁第二庁舎・オンライン

③実施内容

第１回

説明

（ア）わか杉っ子！育ちと学び支援事業について
・わか杉っ子！幼児教育スタートプラン推進事業の概要
・架け橋期のカリキュラムを開発実施する市町村の拡充について

（イ）（市町村版）架け橋期のカリキュラム及び架け橋期のカリキュラム開発に関するガイドライン（初版）について

協議テーマ「架け橋プログラムの理解促進と取組実践について」
協議１：各市町村の実情に応じた架け橋プログラム市町村訪問について
視点：「架け橋プログラム市町村訪問」における伴走型支援を効果的に進めるには、どのようにしたらよいか
協議２：架け橋期のカリキュラム開発・実施について
視点：「架け橋期のカリキュラム開発に関するガイドライン（初版）」の活用の促進や内容の充実を図っていくためには、どのようにしたらよいか

第２回

説明

・わか杉っ子！育ちと学び支援事業「わか杉っ子！幼児教育スタートプラン推進事業」報告

協議テーマ「幼児教育の重要性についての理解啓発及び、幼保小の架け橋プログラムの一層の推進について」
視点１：幼児教育の重要性について、一層の理解啓発を図るためにはどのような取組が考えられるか
視点２：「幼保小の架け橋プログラム」の推進において、市町村の実態に応じた支援をど

のように進めていくべきか

（２）「架け橋プログラム」の理解推進と取組実践に向けた研修会の開催

①目的

架け橋プログラムの理解促進を図るとともに、架け橋期のカリキュラムの開発・実施に向けた研修を実践する市町村を増やし、本県幼児教育・保育の質の向上を図る。

②期日・場所

ア　架け橋プログラム研修会Ⅰ
令和６年４月 23 日（火）　オンライン研修

イ　架け橋プログラム研修会Ⅱ
令和６年６月 21 日（金）　オンライン研修

③参加対象

ア　就学前教育・保育施設の設置者・施設長、小学校長、就学前教育・保育施設担当課職員、教育委員会職員

イ　就学前教育・保育施設の教職員、小学校の教職員

④内容

ア　架け橋プログラムの趣旨・取組・成果や，架け橋期のカリキュラムの開発の意義などを学ぶ管理監督者向けの講話を実施

イ　架け橋期のカリキュラム開発の具体的な取組や、現場での実践方法などを学ぶ教職員向けの実践発表を実施

⑤令和７年度に向けて

・就学前教育・保育施設長、小学校長、就学前教育・保育施設担当課職員、教育委員会職員等向けの研修会と、就学前教育・保育施設の教職員、小学校の教職員向けの研修会に分けて実施することで、受講者の立場に応じた内容の研修となった。引き続き、Ⅱ期に分けて開催していく。

・小学校教員側の理解を図るため、県内全小学校等に引き続き周知していく。

（３）カリキュラムの開発・実施を目指す市町村への支援の強化

①目的

市町村の幼保小連携の現状やニーズ等に応じた訪問による伴走型の支援を実施し、幼保小連携推進委員会（開発会議）や幼保小連携推進協議会（合同会議）の設置など幼保小連携の基盤づくりとともに、架け橋期のカリキュラムの開発・実施を促進する。

②期日

ア　架け橋期のカリキュラムの開発に向けた説明会
令和６年４月 10 日、11 日

イ　架け橋プログラム市町村訪問
令和６年５月～令和７年３月「架け橋プログラム市町村訪問」

【対象市町村】（県内 24 市町村）※大館市（幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業実施市）を除く

□県北地区（８市町村）　→担当：北地区サテライトセンター
鹿角市、小坂町、北秋田市、上小阿仁村、藤里町、能代市、三種町、八峰町

□県央地区（９市町村）　→担当：幼児教育センター
男鹿市、潟上市、にかほ市、大潟村、井川町、八郎潟町、五城目町、秋田市、由利本荘市

□県南地区（７市町村）　→担当：南地区サテライトセンター
横手市、仙北市、大仙市、美郷町、羽後町、湯沢市、東成瀬村

【訪問回数】　原則として、年度内１回

③内容

・市町村主催の組織体制構築に向けた会議等の企画・開催への支援
・市町村主催の幼保小連携の推進に向けた教職員研修会の企画・開催への支援
・開発会議や合同会議等への組織・運営への支援
・カリキュラム開発における支援　等

（４）「就学前・小学校等地区別合同研修会」の開催（県内３地区）

①目的

地域における就学前及び小学校等の教育における円滑な接続の在り方について、幼稚園・保育所・認定こども園等と小学校等の教職員間の相互理解を深めるとともに、教職員の資質の向上を図る。

②期日・場所

北 地 区　令和６年７月 25 日（木）　北秋田市交流センター（北秋田市）
園関係者 17 名、小学校関係者 16 名、行政関係者 10 名　計 46 名
中央地区　令和６年７月 30 日（火）　生涯学習センター（秋田市）
園関係者 30 名、小学校関係者 17 名、行政関係者７名　計 54 名
南 地 区　令和６年７月 26 日（金）　オンライン
園関係者 22 名、小学校関係者 14 名、行政関係者 14 名　計 50 名

③対象（中核市及び事業実施市町村以外の市町村は、市町村の課題・テーマに応じ単独開催）

市教育・保育アドバイザー配置市以外の自治体の公立及び私立幼稚園・保育所・認定こども園等の職員、小学校職員、行政関係者

④内容

接続期の子どもの育ちの共有による双方の教育の理解、小学校教育との円滑な接続に向けた具体的な取組や連携体制について　等

⑤令和７年度に向けて

・県主催と事業実施市町村主催の合同研修会を分けて実施することで、各地区の連携の実態に応じた課題やテーマをもとにした計画で進められ、幼保小の相互理解を含めた研修の充実が図られた。次年度以降も各市町村の連携状況の実態把握を行い継続していく。
・国の幼児教育スタートプランを踏まえ、県としての方向性を示しながら、「幼保小の架け橋プログラム」について全県域に理解啓発を図る。

（参考）本県の幼保小連携･接続の実践状況

「令和６年度及び令和５年度秋田県における就学前教育･保育に関するアンケート調査結果」

№.	質問項目	令和６年度	令和５年度	全年比
1	子ども同士の交流	82.8%	80.1%	+2.7%
2	保育者･教員間の情報交換	91.9%	92.7%	−0.8%
3	架け橋期のカリキュラム開発・実施	32.0%	−	
4	保育者による小学校の授業参観	85.5%	82.1%	+3.4%
5	保育者による小学校の授業参加	25.6%	23.9%	+1.7%
6	小学校教員による保育参観	65.3%	55.1%	+10.2%
7	小学校教員による保育参加	21.9%	18.6%	+3.3%

【②－②人材育成方針の更新（作成等）・活用】

４　教職員の専門性の向上

（１）保育士等が習得すべき資質・能力のガイドライン（改訂版）の活用

①目的

保育士等がキャリアステージに応じて習得すべき資質・能力のガイドラインを活用し、県内就学前・教育保育施設等や県及び市町村就学前教育・保育行政が共通の方向性をもって教職員の人材育成を図ることができるようにする。

②方法

・「教職キャリア指標(保育者)」「自己到達目標評価表」の活用

・年次別研修会で活用（新規採用者、保育実践力習得、５年経験者、中堅教諭等）

（２）保育者の専門性向上を図る研修機会の提供

ア．中核リーダーの育成による園内研修の活性化への支援

イ.「園内研修担当者研修会Ⅰ・Ⅱの開催

①目的

公立及び私立幼稚園・保育所・認定こども園等における園内研修のより一層の充実を図るため、組織的・計画的・継続的な研修を目指した研修リーダーの役割に関する研修を行い、その資質の向上を図る。

②期日・場所

Ⅰ　令和６年７月　９日　　秋田県生涯学習センター（秋田市）

Ⅱ　令和６年 10 月 22 日　　秋田県生涯学習センター（秋田市）

③参加者

県内各施設において中堅的立場にあり、園の研究や園内研修をリードする立場にある幼稚園・保育所・認定こども園教職員等、市町村教育・保育アドバイザー　　212 名

④講師

和洋女子大学　教授　矢藤　誠慈郎　氏

⑤内容

園内研修リーダーと役割、研修計画の作成と研修の進め方、組織的・計画的・継続的な園内研修にするための工夫と取組（講義、実践発表、協議）　等

⑥令和７年度に向けて

園内研修の推進役として、園内研修に関する知識や様々な研修手法を身につけるとともに、自園の園内研修体制の構築と組織的・計画的・継続的な取組につなげるための研修にしていきたい。園内研修リーダーたちがつながり、お互いに学び合う機会とするため、協議やワークを多く取り入れたり、自園の園内研修の取組をまとめて発表し合ったりする機会を設定する。

（３）「学びに向かう力」の育成を図る保育改善の推進

・子どもに「育みたい資質・能力」は何かを考え深め合う機会の提供
（各種園訪問、研修会等における機会提供）

【③都道府県・市（区）町村の連携を含めた域内全体の質向上を図るための仕組み作り】

県（幼児教育センター）の取組

５　アドバイザーを配置する市町村の拡充

（１）「学びに向かう力の育成」を図る幼児教育についての理解啓発

①目的

「幼児教育スタートプラン」を踏まえ、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながる幼児期の教育の重要性について理解啓発を図る。

②方法

・県版幼児教育スタートプラン理解啓発リーフレット配付

・県小学校担当部局との連携

・架け橋プログラムの理解促進と取組実践に係る会議や研修会等での活用
・ＨＰによる周知

③配付対象

５歳児保護者（就学時健診時等に各市町村教育委員会を窓口に配付）、県内全小学校等、県内全就学前教育・保育施設、各市町村教育委員会、各市町村就学前教育・保育施設等所管課

（２）「就学前教育推進協議会」の開催

①目的

本県における乳幼児期及び幼保小接続期の教育・保育の質の向上を図るため、「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」実施市町村の取組や「幼児教育スタートプラン」に基づく施策の実施状況等を基に、地域に適した幼児教育推進体制の在り方や本県ならではの学びや生活の基盤を支える乳幼児期の教育・保育の内容及び、架け橋期のカリキュラムの開発、実施等について協議し、各市町村における幼児教育推進体制を活用した架け橋期のカリキュラムの開発、実施等に向けた取組を促進する。

②期日・場所

令和６年 11 月 22 日(金)　秋田県生涯学習センター(秋田市)

③参集範囲

（ア）就学前教育推進協議会委員
（イ）県内市町村行政関係者（教育委員会、就学前教育・保育施設等担当課）
（ウ）事務局関係者（幼保推進課指導チーム、北・南教育事務所総務・幼保推進チーム、義務教育課担当指導主事）

④内容

（ア）説明・報告等
・令和６年度「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」概要説明
・同事業による取組実践の中間報告（県及び 10 市村）
・質疑応答

（イ）協議Ⅰ【県内市町村行政関係者　他】（市町村の取組について）
協議題：「地域における幼児教育推進体制を活用した、架け橋期のカリキュラムの開発、実施、評価・改善について」
・視点１：乳幼児期の教育・保育と小学校教育との円滑な接続を促進していくための具体的な取組はどのようなものか
・視点２：幼保小が連携・協働し、架け橋期のカリキュラムを開発、実施、評価・改善していくためにはどうあるべきか

【A グループ】

・小学校の先生が保育参観に行くと、何を見てどのように判断してよいかが分かりにくいため、視点をはっきりさせて連携や交流を進められるよう行政が関わること、ねらいを共有することが大切である。行政が関わることで組織と組織の交流となり、円滑な接続の「質」が上がる可能性があるのではないか。

・カリキュラムを単に「紙の製作物」と捉えてしまうと、架け橋期のカリキュラムの主旨から外れ、上手くいかなくなるのではないか。話し合うプロセスを大事にすることにより、PDCA サイクルも上手く機能し、持続的にこの事業を継続させることになるのではないか。

【B グループ】

・既存の会議を活かして話し合いを進めている。行政で会議を開き、目指す子どもの姿を共有することがまず大事であり、そのために園と小学校の先生同士が話し合うことがとても必要になってくる。話し合うことで、同じ子どもを見ているが、園の先生と小学校の先生とでは見ているところが違うところがあるのが分かる。参観シートなどを利用しながら話し合い、保育の意図などをお互いに知っていくことが大事である。

・今後に向けて、架け橋期のカリキュラムの必要性を小学校の先生にどう伝えていくか、スタートカリキュラムとの違いをどのように伝えていくかが必要ではないか。

【C グループ】

・園での育ちをいかに小学校の先生方に理解してもらえるかの取組をしていかなければならない。授業参観・保育参観だけでなく、協議にまで参加し、どういった育ちをしてきて、それがどのように小学校に伝わり、つながっていくのかというところをお互いに理解していくことが必要である。

・カリキュラムを開発、実施、評価・改善していくためには、まずは語り合いを通して、しっかりとカリキュラムを見える化することが大事である。作って終わりではなく、実践し、カリキュラムを基に保育参観・授業参観を進めていくことによって、次回どのように進めていくかについてたくさん見えてくると思われるので、さらに改善を進めていくといった形にしていくとよいのではないか。

【D グループ】

・カリキュラムの作成のみを無理に急ぐのではなく、モデル園を決める、市町村としての目指す子ども像についてアンケートを採るなど、カリキュラム開発に向け計画的に進めていくのがよいのではないか。相互理解については、どうしても園と小学校の先生方の意識にずれがあるため、それを埋めるには相互参観をすることが大事ではないか。小学校の先生が夏休み等を利用して保育体験などをすることも有効である。

・行政側からのアプローチが大事である。他地区の取組を行政側が管理職や現場に情報提供することが、現場を動かすことにつながっている。

・資質・能力のつながりに着眼することにより、カリキュラムはできて終わりではなく、評価・改善を重ねていくものとなる。

【E グループ】

・連携においては、アドバイザーのようなキーマンが重要である。アドバイザー自身が経験していない園または小学校側の教育・保育を理解するのは難しいため、アドバイザー自身も連携して学んでいくということが大切である。

・部局間連携では、所在地が離れていて日常的な連携が難しいところもあるが、園訪問や研修会など具体的なことに一緒に取り組むことで、連携が進んだという例があった。
・人が変わっても連携が途切れないように進むためにフォーマットを作り、このようなことをやっていくという計画を立てられるとよいのではないか。
・作成した市では、実際に実施・評価していく中で、カリキュラムを作成しているときに話をしたことや、選んだ言葉の意味などに気付き、改善している。
・カリキュラムの作成手順について、最初に市町村版フォーマットでたたき台を作り、園と小学校に具体的なものを入れてもらった取組があった。複数の園・小学校が集まる学校では、縦のつながりだけではなく、複数園での横のつながりもでき、カリキュラム作成のための対話が役立っている。

【Ｆグループ】
・より育ちを見たり、子どもを理解したりしていくための手立てとして、園と小学校の先生がペアになって参観している取組があった。相互理解を図るために、縦のつながり・横のつながりを生かして、様々な立場の人が子どもの姿を見て学ぶことが大切である。
・既存のものを生かし、多様な体制の就学前施設同士を結び付けながら学校ともつなげていくような体制づくりを構築することで、保育や授業改善につながる。カリキュラムに関しては、教育委員会と部局間共に動き始めると、やはり１歩２歩と進んでいく。
・カリキュラムの作成については、立派なものを作ることを目的とせず、できたものを基に、あるいはその過程の中で語り合うことを通してお互いを理解していくことが非常に意味のあることである。
・教育・保育の質の向上、授業・保育改善、子どもたちの育ちを支えていくために、自治体と小学校と園と三位一体となって取り組んでいく中で進んでいく。一緒に共同で振り返り、次へというような流れにしていくことが大事なのではないか。

（ウ）協議Ⅱ【就学前教育推進協議会委員】（秋田県が目指す方向について）
協議題：「地域における幼児教育推進体制を活用した、架け橋期のカリキュラムの開発、実施、評価・改善について」
・視点１：各市町村の実態に応じた幼児教育推進体制の充実を図るにはどうあるべきか
・視点２：架け橋期のカリキュラムの開発、実施、評価・改善に向けた取組を促進するには、どのように進めていくべきか

視点１「各市町村の実態に応じた幼児教育推進体制の充実を図るにはどうあるべきか」

市町村行政関係者
・各市町村の実態に応じた推進体制の充実は、市町村規模によってもかなり進め方は違う。それぞれの行政の課に強みがある。
・市町村の実態に応じた体制の充実を図るためにはやはり部局間の連携、それから行政側のアプローチが大事である。アドバイザーが配置されていることも大きな要因となる。

・市町村の実情によって難しいが、皆様が思われている以上に市町村教育委員会と福祉部局は連携が取りにくい部署でもある。その中で、できれば管理職同士の共通理解で、どうやったら進めることができるのかについての話合いを重ねることが大事であることを実態から感じている。
・首長部局は学校の先生たちにアプローチすることは難しく、教育委員会の方で頑張ってアプローチしてほしい。その代わり福祉部局担当課は保育所等の園長に声掛けするという連携を取って実現してきた。
・昨年のこの会議から比べ、幼児教育推進体制はものすごく進んだことが分かった。午前のグループ協議では、アドバイザーの未配置の自治体担当者から、アドバイザーの有無により全然進み方が違うことが分かり驚いたという発言もあった。県が早くからアドバイザーの配置を全市町村に働き掛けながら広げてきたことが、基盤を作ってきたと思われる。
・架け橋期のカリキュラムを作るという新たな課題が出てきた時に、やはりアドバイザーの配置になっているところはすぐに対応できる体制を作ろうとすることができていた。

義務教育関係者

・県としても、今年度の歩みを止めることなく進めていくことがまず大切なのではないか。共有したことをここで止めず、全県的に広めていくことができればよいのではないか。

就学前教育・保育関係者

・保育士の資質を向上するために、研修の充実であったり連続性や架け橋カリキュラムを推進したりすることの大切さを感じている。幼小連携にも足を運んで働き掛けてくれるなど、アドバイザーが中心となって進めてくれていて、恵まれていると感じている。
・架け橋プログラムの中心的な役割を担う政策アドバイザーの存在がとても大きいと実感している。アドバイザーの作る保小連携だよりがとても貴重な資料となっており、保小双方が共通認識するための本当に有効な資料となっている。近隣地域の園と相互で交流しながら園内研修を行っているが、アドバイザーがパイプ役をしてくれたり、他園との研修に同行したりすることで、学び合う体制が整ってきている。園内研修には毎回アドバイザーから助言・指導を受けて質の向上につながっている。
・秋田県の私立園に関しては、幼保推進課をはじめ様々御指導を受けるなど、他県から見れば特異な存在ではないかと思っている。その意味では、小学校との連携も結構うまくいくのではないかと感じている。
・幼保小連携の充実を図る意味では、まず時間とマンパワーが必須である。学校側でうまく連携を取り、1 対 1 のやり取りをする時間が、充実につながる 1 番の近道と思っているが難しい。目の前の子どもたちのためにやらなくてはならないと、お互いがそういう気持ちになって取り組むこと、これが充実に向けての 1 番大事なことであると思う。
・アドバイザーの配置はないが、教育委員会の指導主事に間に入ってもらいカリキュラムの作成に取り組めている。作成をしていく中で、子どもたちをただ見るだけではなく、遊びを通してどんなことを学んでいるか、それがどう小学校でつながっているのかについて協議した。また、学校の方で子どもたちの不足している

部分など、お互いに意見を出し合える対話をたくさんした。従って、つながった後の連携の継続がやはり大事である。短時間でも交流の機会を設けて、話し合う機会、子どもを見つめ直す機会をもつことが必要である。

視点２「架け橋のカリキュラムの開発、実施、評価・改善に向けた取組を促進するためにはどのように進めていくべきか、どうあるべきか」

就学前教育・保育関係者

・アドバイザーがカリキュラム作成の手引きを作ってくれており、道標もできている。
・県の方でフォーマットを作ってくれているのだから、それぞれの学校ので期限を決めて入れられるところを入れて、各保育園に一旦投げ掛ける。そして、各施設か　ら入力され　たものをまた受け止めるというような、実務的な動きを一歩でも踏み出さないといけないと思う。一歩踏み出せないから止まっているのだと思う。
・就学前教育側で本会議をやっているが、このような会議をするときに、小学校側も一緒に会議するということも大事ではないか。
・カリキュラムのことについては、作ったものを活用していく中で、実践して、子どもの姿を見取って改善を繰り返していくことが大事だと思って取り組んでいる。
・小学校との連携に関しては、今までは５歳児の担任がメインという意識があったのだが、 ０歳児からの育ちの連続性の中に架け橋があるのだということを意識付けるようにしている。そのために、カリキュラムの見直しは全職員を巻き込んでいくことが、自分事として理解して、実践していくことにつながると思う。開発会議に携わって、みんながつながるということがとても重要だと感じている。
・開発会議の際は、どちらもアプローチし続けることが大事だと思う。アプローチした後の体制作りも大事だと思う。行政の方に、保育参観だけではなく協議にも参加してもらい、子どもの姿を見てもらうことで、架け橋のカリキュラムの作成がいかに大事なのかということを知ってもらうよい機会になったと思う。

義務教育関係者

・幼保小の連携については、しっかりやっていかなければいけないという校長は多いが、どうやって進めていけばいいのか、どうやって周知していけばいいのかと考えたときに、リードしてくれる方がいないと難しいという話が出ている。部局間で連携して、「このようにしてやっていきましょう」「こういう形で計画して、流していきましょう」「組織として、この地区のよさを利用して小学校区でやっていきましょう」というような、リードする力が必要になってくるのではないか。
・始まりの一歩をどう踏み出すかというところがすごく難しいと思う、やはり前に進めていくためには、そこが一番大事なのではないか。
・架け橋カリキュラムが現場で始まり、理解が進めば、自然に学校の方でも熱量をもって進んでいくと思った事例があった。
・お互いに参観をしているところが増えてきている。それで終えてしまうのではなく、参観したことを基に子どもたちの姿で語り合う、どうしていったらよいかと

いうことを共通理解し合うことで、その後の取組がさらによくなっていくのではないか。

市町村行政関係者

・スタートできていないところには、まず、同じテーブルに小学校の先生方と幼保の先生方がつくようなセッティングを、行政が力強く背中を押してあげればいいと思う。
・1つの小学校に複数の園から子どもが来たり、１つの園から複数の小学校に分かれていったりする。それぞれの実態に応じたカリキュラムの作成や進め方となった際に、カリキュラムをＡ小学校と一緒に作ったが、半分ぐらいの子どもは実はＢ小学校にも行くということになると困る。市として共通版というのを１つ打ち出し、学区ごとに実態に合わせて直していくという手法を取ることによって、地域的にはＡ小学校区で一緒に作業はするがＢ小学校に行く子どもがいたとしても、ベースは市として目指すものに準じているため、それほど大きく違うことはない。
・カリキュラムを作るにあたって、なるべく子どもたちの姿を反映させていかなければいけないと思い、園訪問に同行させてもらった。どんなふうに子どもたちが活動しているのか、どんなふうに指導されているのかということを見せていただいた。単独でそれぞれでやるよりも、お互いがつながることで効果が2倍にも3倍にもなっていく。カリキュラムを作成するということは、つながるための一つの強烈な手立てだと思う。各ブロックで一つのカリキュラムを作る、あるいは市町村で作ることによって共通の研修や子どもたちを見る視点、そういったものができるから大事なのだと思う。なぜ大事なのかということが伝わっていけば、開発をしなければいけないという気持ちも高まってくるし、常に作り直しながら、実態に合った形で進めていかなければいけないというPDCAを回す必要感も自ずと伝わっていくのではないか。
・今年度アドバイザーを導入して、一気に小学校と園の連携を図っていける体制になった。
・カリキュラムの作成にあたっては、お互いに抱える課題を認識した上でカリキュラムを作成していく。私立と公立では状況が違うので、公立保育園のカリキュラムの共通版、私立のカリキュラムの共通版を、それぞれモデル園を導入して作っていく。カリキュラムは手法であって、それを有効に活用していくことを大事にしたい。活用することで効果が見られてくると思うので、 まずは行政として、いろいろな形でつながる仕掛けを考えなければいけないと思っている。

有識者

・PDCAを回すのが大事なのは間違いないが、評価を上手に実施することがポイントであると思う。大体どの組織でも、うまくいかないときは、評価のときに前向きではなく、批判的になってしまったり失敗を許せなくなってしまったりということになりがちなため、評価のところでうまくいかないという現状があると思われる。うまくいかないことをもとに、何が足りなかったのかということを考えて、次に試してみようという、前に進んでいくような姿勢というのがすごく大事だと思われる。
・多少はトップダウンとしてやらなければいけないというところもある一方でボトムアップすべきところもある。

・子どもの姿を共通認識しないと、何のために作っているのかが分からなくなってしまう。そもそも就学前の施設も小学校のカリキュラムもあるはずである。まず、お互い見合うことが大事である。5歳児後半の姿と1年生の4月、5月の姿を比べて、見る視点が違うと表現がこんなにも違うものかと、まず既存のものを見合うことも大切である。スタートカリキュラムも、小学校適応プログラムになってないか、カリキュラムには表れていない子どもの姿を共有し合うなど、そういったことはできると思う。その後の開発、実施、評価・改善は全て子どもの姿が基本となっているので、どういうふうに育っているか、育っていってほしいのかというところは具体的に出していかないと、評価にも改善にもつながらないのではないか。

（3）県アドバイザー等による配置市町村への伴走型の支援（前記1（2）、（3）再掲）

6　市町村の実情に即した推進体制づくりの促進

（1）「学びに向かう力の育成」を図る幼児教育についての理解啓発（前記5（1）再掲）

（2）「就学前教育推進協議会」の開催（前記5（2）再掲）

（3）市町村の実情に即した幼児教育推進体制の構築

・課題等の解決に向けた有識者会議の開催

・県アドバイザー等による市町村への訪問指導

（4）事業内容の発信

（ア）幼保推進課ＨＰ「わか杉っ子元気に！ネット」への取組状況の掲載

・県及び事業実施市町村における取組状況の掲載

・県版幼児教育スタートプラン理解啓発リーフレットの掲載

・教育あきた（3月）事業紹介掲載

①目的

県と市町村の連携による教育・保育の推進体制の拡充の必要性についての理解促進を図る。

②方法

教育・保育アドバイザー配置市の取組状況及び成果等の掲載、就学前教育推進協議会での協議内容等の掲載

③実施内容

・幼保推進課ホームページ「わか杉っ子元気に！ネット」の「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」に前年度の県及び実施市の各事業内容や取組を掲載。次年度以降更に効果的に更新していく。

【掲載及び更新内容】

・事業計画書（県及び実施市）

・事業実施状況（県及び実施市）

※その他必要と思われる内容を随時更新

【ＵＲＬ】https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/77497

(参考)市町村アドバイザー配置年度

年度	県北地域・実施市	中央地域・実施市	県南地域・実施市
令和元年(５市)	大館市	男鹿市　潟上市	横手市　仙北市
令和２年(６市)	大館市	男鹿市　潟上市	横手市　仙北市 大仙市
令和３年(７市)	大館市	男鹿市　潟上市 にかほ市	横手市　仙北市 大仙市
令和４年(８市)	大館市　能代市	男鹿市　潟上市 にかほ市	横手市　仙北市 大仙市
令和６年（10 市）	大館市　北秋田市 能代市	男鹿市　潟上市 にかほ市	横手市　仙北市 大仙市　東成瀬村

7　成果と課題　（○成果、●課題、◇改善の方策）

（１）アドバイザー配置市町村の主体的な取組の推進

①県アドバイザー等による配置市町村への伴走型の支援

○「教育・保育アドバイザー連絡協議会」や「市町村アドバイザーに学ぶ研修会」や市町村アドバイザーへの訪問同行などを通して、個々の教育・保育アドバイザーの抱える課題等に対応し、市町村教育・保育アドバイザーの精神的支えとなっている。

○県指導主事と市町村教育・保育アドバイザーが連携しながら園の情報を共有し、園の課題に対するきめ細かな支援体制を継続している。

○市町村主催の研修会においては、市町村が主体的に企画・運営できるように、市町村　主催の研修会の企画・運営等への指導・助言等を行った。また、市町村教育・保育アドバイザーによる園訪問に県教育・保育アドバイザーが同行する形で、アドバイザー支援を行った。

●県教育・保育アドバイザーが各市町村の実情を把握し、きめ細かな対応をしていくために、全実施市町村を訪問する機会を設けていく。

◇年間に 1 回程度は様々な機会に全実施市町村を訪問できるようにするとともに、県南、県北のサテライトセンターと各市の取組内容や状況を共有する。

②市町村教育・保育アドバイザー間のネットワークの構築

○教育・保育アドバイザー連絡協議会は、保育者への具体的な指導･助言、園内研修への支援方法等を考える機会となっている。具体的な事例を基に協議する時間を設定することで、個々の教育・保育アドバイザーが日頃感じている疑問や課題等への解決につながっている。

○他市町村の取組状況や課題について情報交換する機会を設けることで、教育・保育アドバイザー同士のネットワークの構築に寄与している。他市町村の取組を細かく聞くことができ、市町村教育・保育アドバイザーの意識と意欲の向上につながっている。引き続き、それぞれの市町村の課題解決となるような話合いの時間を設定していく。

○県の所管研修への参加により、教育・保育アドバイザーが、保育の見方・考え方、計画の立て方、記録の仕方、様々な研修手法のスキル等を理解し、園訪問時に指導・助言に役立てることができた。

○「市町村アドバイザーに学ぶ研修会」は、他市町村の保育や保育者と教育・保育アドバイザーとのやりとり、園内研修等を参観することで、園や保育者との関わり方や園内研修への参画の仕方について学ぶ機会となり、他市町村の取組のよさを取り入れていくことにつながっている。

○「市町村アドバイザーに学ぶ研修会」において、参加者全員で保育を参観し保育についての協議を行うことは、保育の見方、子どもにとっての「遊び」とはどのようなものであるかを多面的に理解していくことにつながった。

◇教育・保育アドバイザーの入れ替わりに伴う、就任前の経歴や経験年数の違いに配慮し、教育・保育アドバイザー連絡協議会の内容の計画を立てている。年度末のアンケート結果をもとに、各市町村教育・保育アドバイザーのニーズや要望を取り入れながら、検討する。令和７年度は、県内全ての市町村の幼保小の架け橋プログラム推進担当者等にも協議会に参加いただき、一層のネットワークの構築を図っていく。

③市町村主催研修会の支援

○市町村主体で企画・運営を行うことで、市町村の課題やニーズ、様々なキャリアに応じた研修の充実、キャリアアップ対象の研修の機会の提供など市町村独自の取組が展開されている。県は研修講師や助言者として市町村からの要請を受け支援した。

○教育・保育アドバイザーのコーディネートにより、園種や校種を越えた相互参観等の研修の場が充実しつつある。参観にとどまらず、協議への参加も進んできている。

●教育・保育アドバイザー未配置市町村へも県から支援しているが、まだ偏りがある。

④県と市町村の連携による園の重層的支援

○市町村教育・保育アドバイザーは、県指導主事等の園訪問に同行し、指導主事及び幼保指導員の指導方法を参観し、指導の方向性を共有した。巡回訪問では園や保育者のよさ、課題等を共有し、県と同一の方向性で継続的支援を行った。

○市町村は、組織的・計画的な研修の推進やファシリテーションに関する指導を県指導主事等に依頼し、その指導の視点を基に市町村教育・保育アドバイザーが園内研修支援を継続支援し、保育改善等につなげている。

○市町村教育・保育アドバイザーが私立、認可外施設へ様々な角度からアプローチすることで、教育・保育の充実に向けた訪問への工夫につながっている。架け橋期のカリキュラム作成においても、同じ小学校区での横のつながりが構築されてきている。

（２）幼児教育の質的向上を図るための人材育成

①アドバイザーによる各施設の課題やニーズに応じた訪問支援

○各園の実態やニーズ、課題に対応した訪問がなされたことで、園や保育者と市町村アドバイザーとの信頼関係が構築されている。

○教育・保育アドバイザーは、保育者の悩みや相談等に応じたり、園の実態把握から園内研修の充実を図ったりするなどし、園の保育者の専門性の向上、研修機会の充実につなげることができた。

②地域や施設類型の垣根を越えた人材育成

○地域で学び合う研修会となるよう、公開保育研究会などにおける公・私立、設置形態の区別を越えて学び合う体制づくりが広がっている。小学校区で公開保育または、指導主事訪問、園内研修等に参加し合う体制を整えている市町村が増えてきている。合わせて、小学校教員の参加が増えている。

③専門性の向上のためにニーズに応じた研修の充実

○市町村主催の研修として、地域の様々なニーズに対応した研修の開催を目指している。毎年同じ内容ではなく、前年度の評価や反省を生かし、各市町村で実態やニーズ等に応じ様々な研修会を企画している。キャリアアップにも対応している。

④幼保小連携の推進

○県内各市町村を訪問し、市町村の抱えている課題等に応じて、架け橋期のカリキュラム開発への支援を行った。

⑤県との連携体制の確保

○就学前教育推進協議会では、実施市町村から事業の中間報告書を提出していただき、アドバイザー未配置市町村にも取組が伝えられた。市町村アドバイザーの配置による効果や必要性が配置市町村内に浸透し、他市町村からも関心が高まっている。

（３）架け橋期のカリキュラムを開発・実施する市町村の拡充

①幼児教育スタートプラン推進のための会議

○有識者会議での意見を生かして、訪問先の市町村のニーズに合わせた伴走型の支援を行うことができた。２回目の会議でいただいた意見を受けて、次年度の幼保小の架け橋プログラムへの取組をさらに促進させていきたい。

②「架け橋プログラム」の理解推進と取組実践に向けた研修会の開催

○架け橋期のカリキュラム作成の実際やカリキュラム作成を通して保育改善・授業改善を行った実践は、受講者が幼保小の連携と接続の意義や在り方についての理解を深めることのできる内容であった。

○参加者のアンケートからは、架け橋期のカリキュラム作成の取組を通して、教職員がどのように変わり、授業や保育改善がどのように図られ、その結果、子どもの姿や育ちにどのように変容があったのかを具体的に示していただいたことで、実践につながる研修となったという感想があった。

◇次年度は、行政担当者、就学前教育・保育施設職員、小学校等教職員、それぞれに関係する内容をさらに充実させて行いたい。

③カリキュラムの開発実施への支援の強化

○架け橋プログラム市町村訪問では、市町村として取り組んでいくことを理解してもらうとともに、教育委員会と就学前教育・保育施設等担当課が連携を図って進めていく見通しをもってもらうことができた。また、行政担当者が保育参観する機会を積極的にもとうとする市町村が増えてきている。

○各市町村において既存の組織体制を活用するとともに、これまで行われてきた会議等の内容を検討しようとしている。

○市町村訪問を通した助言等の支援により、幼保小連携の一層の推進に向けた体制づくりにおいて、次のフェーズへ進んでいる市町村が多くあった。

●部局間連携を進めていく際の役割等が明確ではなかったり、カリキュラム開発を進めていく組織体制が整っていなかったりする市町村がある。

④「就学前・小学校等地区別合同研修会」の開催（県内３地区）

○受講者が子どもの育ちと学びの相互理解が円滑な接続につながっていくことを理解し、今後の取組に生かしていこうとする意識を高めることができた。

○遊びを通して得られた育ちや学びが、小学校の生活や学習にどのようにつながっていくのかについて協議する中で、実際の子どもの姿を通して「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに話し合うことの重要性を理解してもらうことができた。

○行政関係者にも参加していただき、各地区の架け橋プログラムへの取組体制づくりの必要性や本研修会での成果を、その後に生かしていくことを確認できた。

●「架け橋プログラム」の取組促進に向け、行政関係者の本研修会への参加について今後も引き続き呼び掛けていく。

●地区ごとに幼小連携の実態が異なる。各地区それぞれの課題に応じた協議等を工夫し、その後の連携につなげていく必要がある。

（４）教職員の専門性の向上

①保育士等が習得すべき資質・能力のガイドライン（改訂版）の活用

○「教職キャリア指標(保育者)」「自己到達目標評価表」を年次別研修会（新規採用者、保育実践力習得、５年経験者、中堅教諭等）で活用した。初回と最終の研修で活用することで、保育者自身が自己のキャリアステージで求められる資質能力の目安に気付き、今後の目標を見付けることにつながった。

②保育者の専門性向上を図る研修機会の提供（園内研修担当者研修）

○組織的・計画的・継続的な園内研修にするための工夫について、グループワークを交えながら理解を深めることができた。他園の研修計画を目にするよい機会となり、自園の取組や課題等について活発に意見交換が行われた。

○代表３園による実践発表やグループに分かれての実践課題レポート発表と協議を行った。園内研修の情報を交換し、課題や改善策について具体的に意見を出し合うことで、園内研修を進めるためのヒントを得る機会となっていた。

◇組織的・計画的・継続的な園内研修が実現できるように、より自園の課題、研究と合わせて研修を進められるように内容の改善を図っていく。

③「学びに向かう力」の育成を図る保育改善の推進

○各種訪問や研修会等において、乳幼児における見方・考え方を生かし、生活や遊びを通した総合的な指導により、子どもが自ら環境に関わり、発達に必要な体験を積み重ねる教育・保育の充実の重要性について理解促進を図ってきた。

○育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育・保育の計画作成、実施、評価、改善のサイクルの構築に向けた取り組みの支援について、研修や訪問等で機を捉えて行ってきた。

●学びに向かう力とは、小学校教育の先取りをするのではなく、総合的な指導を通して、創造的思考や主体的な生活態度の充実など、乳幼児期にふさわしい展開をする中で育まれていくことについての理解は浸透してきているが実践が結び付いていない園もまだ見られる。

◇各種研修においてキャリアステージに応じて秋田県幼稚園・保育所・認知こども園等「自己到達目標評価表」（令和６年度版）を活用し、育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や秋田の探究型保育を視点とした学びに向かう力の理解を図る。

（５）アドバイザーを配置する市町村の拡充

①「学びに向かう力の育成」を図る幼児教育についての理解啓発

○就学時健診に合わせて各市町村教育委員会に事前に確認し、可能な限りリーフレット活用についての周知を依頼した。可能な限りリーフレットの内容について保護者の皆様に説明していただいた。

○県のＨＰでリーフレット掲載ＱＲコードからリーフレットの説明動画をダイレクトに視聴できるようにしている。

○幼児教育スタートプラン理解啓発、育ちや学びの連続性や幼保小の協働による円滑な接続の重要性の理解を図る上で、子どもに関わる様々な立場の方々へリーフレットを活用した周知は有効であるとの評価をいただき、継続して配付している。

●幼保小連携会議や架け橋プログラム作成における対話を通した話合いの際に、活用していただくことで、共通の視点で育ちと学びの連続性について理解が深まるのではないか。活用促進を図っていく。

②「就学前教育推進協議会」の開催

○義務教育課・教育事務所生活科指導主事に委員として参加していただいたことで、幼児期や幼保小接続機の教育・保言について理解をさらに深める有益な機会になった。

○事業実施各市村からの報告内容は、アドバイザー未配置市町村にとって参考になる発表だった。

○各市町村訪問での実態把握を基に、地域の実情や取組状況に応じたグルーピングでの協議を実施したことで、市町村の実情に応じた意見交換の場となった。協議を通して、幼児教育推進体制の構築の在り方や部局間連携の必要性について理解が深まった。

○架け橋プログラム推進に向け、部局間連携の必要性の理解がさらに深まり、連携して進めていこうとする意識が高まった。

◇協議題、協議の視点、協議の在り方については、本協議会の目的が達成されるように検討し、自治体、委員、事務局を構成メンバーとしたグループ協議は継続したい。

（６）市町村の実情に即した推進体制づくりの促進

①「学びに向かう力の育成を」図る幼児教育についての理解啓発（再掲）

②「就学前教育推進協議会」の開催（再掲）

③市町村の実情に即した幼児教育推進体制の構築（再掲）

④事業内容の発信

○就学前教育・保育関係団体から、小学校等教職員への理解を図るために有効なものであるという声があり、幼児教育の理解啓発につながっているところがある。

●３年間、本事業で幼児教育について周知に努めてきたが、県全体で見ると小学校関係者や地域住民等の認識が不十分と感じる。

実施市町村の具体的な取組（大館市）

１　教育・保育の現状と課題

（１）教育・保育の質の向上に向けて、教職員の資質向上、園内リーダーの養成と園内研修の充実等の体制が構築されたが、それらの幼児教育センター機能を安定させていく必要がある。

（２）多様な保育施設、多様な働き方の職員が協働する中、市が目指す就学までに育てたい力、保育・教育の在り方を共通理解し、具体的実践に移していくには園ごとの温度差がある。

（３）小学校との情報共有と合同研修はあるものの、小学校入学後の生活や学習への適応や指導に困難を抱える事例が見られる。

２　令和６年度の目的、重点、実施内容

【目的】

ふるさとキャリア教育の理念の下、就学前から小学校低学年までを「人間的基礎力」を育成する時期＝架け橋期として、それに関わる保育者・教職員が教育・保育の指導や援助等について共通理解を図り、一層連携を推進する。

【重点】

幼保小の架け橋期、並びに架け橋期につながる０歳からの保育・教育の充実を図る。架け橋充実期のカリキュラムをもとにした各園・各校の保育・教育の実践、検証により、教育・保育の質の向上を図る。全小学校区における架け橋期のカリキュラム完成。

【実践内容】

（１）部局間連携による教育・保育推進体制の充実

○教育委員会と子ども課の連携による幼児教育センター的機能の強化

①　教育委員会教育研究所と福祉部子ども課、基幹保育園の連携体制による訪問指導

・子ども課の保育アドバイザー、教育研究所教育・保育アドバイザーの定期的な打ち合わせの実施、訪問、連携事業の推進

・各園の要望に応じた訪問、研修への支援

・基幹保育園園長会、所長会への参加、情報提供、助言(月１回)

・基幹保育園主任会との連携による研究推進への助言(月１回)

・小学校授業研究会への参加

②　共同開催事業の実施

・昨年度から就学前から中学校までの「個別の教育支援計画」の様式の統一、データ化を図り、支援に係る情報を確実にデータで引き継ぐ取組を開始した。

・幼児通級指導教室「育ちの教室ぐんぐん」(9～3 月)～入学前の集団生活での生活や学習に不安をかかえている年長児を対象に、少人数集団で通級指導を実施。指導スタッフとして、子ども課と教育委員会が支援に当たっている。

・満５歳すてっぷ相談(年間 12 回)～就学を見通し集団への不適応、人との関わりが苦手な子どもの早期発見、就学に向けた「生活習慣づくり」の保護者講話・相談を実施。子

育て講話「安心して小学校入学を迎えるために」を教育委員会が担当。

・子ども課と小学校との連携による就学時健診の実施。子どもについての事前情報の共有、その後の保護者面談を連携して実施している。保護者に対しては、県が作成したリーフレットを活用して、架け橋期の育ちと学びのつながり、子育てへの理解を図っている。

○「育ちの教室ぐんぐん」、「満５歳すてっぷ相談」、就学時健診、諸検査、各種相談歴を連動させ、就学情報支援ファイルを作成することにより、早期支援のための在籍園・小学校への情報提供、関係機関との情報共有、保護者への継続的なサポートを可能にしている。

○教育委員会主催の研修会への保育士等の参加者が増えており、幼保小の育ちや学びについての関心が高まっている。

③　研修会の実施

＜市主催研修会＞

・４歳児担任研修会（満５歳すてっぷ相談）（6/14, 7/5, 7/26, 8/23）
・幼保小連携推進会議(5/24)
・幼保小担任研修会(5/30)
・年齢別研修会（５回）　　０歳児（7/23）１歳児（8/28）２歳児（9/19）
　　３歳児（10/9）　４歳児・５歳児（5/8）
・ファシリテーター研修会（基礎編）(6/26)
・大館市教職員夏季研修会（7/31）
・ファシリテーター研修会（応用編）(10/25、12/19)
・教職員研究実践発表会（1/8）
・子どもの虐待対応研修会(1/21)
・保育研究実践発表会（2/13、2/14）

＊成果と課題については、
（３）「専門性の向上のための研修の充実」①市主催研修会の開催の項目において記述。

（２）「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

教育・保育アドバイザーによる市内全園への巡回訪問・指導
・私立の認定こども園への協力要請

◇令和６年度アドバイザーによる巡回訪問･指導に関する実施状況（大館市）

⑥派遣状況　計４３施設／全４７施設　１６７回	
回数	・幼稚園：私立１園（１回）　・保育園：公立９園（７０回）、私立１園（３回） ・幼保連携型認定こども園：私立　８園（２１回） ・その他の施設：（へき地保育所５園（１９回）児童館０か所（０回）小規模保育施設２か所　（１３回）、認可外保育施設０か所（０回）、事業所内保育施設４か所（１６回））　・小学校：１７校（２４回）

訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、１３園（３１回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、５園（５回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、　４園（２回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）　（目標のうち　、３園（ ７回　） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）　（目標のうち、３０ 園（ ４９回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、２０園（ ２０回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）　（目標のうち、６園（１４回）　１０ 校（１５回））
理由	基幹保育園である公立保育園への年間を通した継続的な支援により、市が目指す保育の方向性を具現化するとともに、園内研修のモデルとして他園にも広げていく役割を果たす。私立園やへき地保育所には、継続的に幼保小連携便りを配布しながら研修や訪問のメリットを具体的に周知するための訪問を増やしていく。子ども理解と接続等における教職員の相互理解のために幼保小との連携を図る。

○園内研究の課題に対する助言や保育の様子を見てほしいという要望があり、年度当初の予定にはない訪問が増えた。保育の質向上を目指して園が熱心に取り組んでいる。

●訪問による指導・助言を生かして保育の質の向上につなげているところとそうでないところの差があるため、訪問後の状況確認と園長や研究担当者の支援に取り組みたい。

（３）専門性の向上のための研修の充実」

①　市主催研修会の開催

□４歳児担任等研修会　(6/14, 7/5, 7/26, 8/23) ４歳児担任等対象　19 名参加

内容「満５歳すてっぷ相談」における保護者への講話と絵本の読み聞かせの参観

講師（講話）　大館市教育研究所　副主幹　山本多鶴子氏

（読み聞かせ）　公立保育園主任

＜アンケートより＞

・今の時代は、こどもより大人中心の生活になってきているので保護者の負担や大変さを理解しながらも子ども優先の生活を意識し、同じ気持ちで進めていけるように家庭や保育所での様子をこまめに伝え合っていきたい。保育所で実践して良かった点や負担なく継続できる方法を一人一人の保護者に寄り添って考えていきたい。

○担任と保護者一緒に講話を聴く形は、入学を迎える子どもへの関わり、子どもの育ちについての理解など保護者との連携を図る上で有効であった。

◇この形は次年度も続けていきたい。

□年齢別研修会

研修名（日時）	内容	講師	参加者数
4.5 歳児担任研修会 （5 月 8 日（水））	「幼児の充実期を支える保育を一緒に考えよう」	柴田学園大学短期大学部 学長　島内　智秋　氏	73 名
0 歳児担任研修会 （7 月 23 日(火)）	・「0 歳児の保育は最重要」 ・「こころとからだを育てる遊びの環境」 ・情報交換	福祉部子ども課 保育アドバイザー 鎌田　晴美	18 名
1 歳児担任研修会 （8 月 28 日(水)）	・「１歳児から 2 歳児へつなぐ」 ・「こころとからだを育てる遊びの環境」 ・情報交換		30 名
2 歳児担任研修会 （9 月 19 日(木)）	・「2 歳児から 3 歳児へつなぐ」 ・「こころとからだを育てる遊びの環境」 ・情報交換		27 名
3 歳児担任研修会 （10 月 9 日(水)）	・「3 歳児から 4 歳児へつなぐ」 ・「こころとからだを育てる遊びの環境」 ・情報交換		24 名

4.5 歳児担任研修会

手遊びを紹介

＜アンケートより＞

・普段慣れているグループ協議と違い少し戸惑った。一つの領域で話し合うことが新鮮だった。架け橋プログラム＝５歳児のイメージが強かったが、４歳児での経験が大きく関わることを改めて考える機会となった。普段から、年長へのつながりを意識し、見通しをもった関わりをもてるようにしたいと思った。

・絵本の紹介ではその絵本にまつわるエピソードやそこに至るまでの遊びの経緯を　聞いたり、遊びの進め方の参考になったりして良かった。食べ物や動物、乗り物など興味の幅が広い１歳児、今日覚えた手遊びを参考に一緒に触れ合いながら保育をしていきたい。

・１つの年齢だけでなく、つながりを意識しながら子どもと関わって保育していくことの大切さを再確認した。

○架け橋プログラムの取組により年長児の育ちが大きく取り上げられているが、そこに至るまでの０歳から４歳までの保育が大切であることを意識してほしいと願い、今年度は、各年齢の講

話に上の年齢との繋がりを盛り込み、研修会を実施した。アンケートには、つながりを意識して保育をしていきたいとの感想が多数あり、実践に繋がることを期待している。

○情報交換の場は、先生たちが実践にすぐに活かせる絵本・手遊び・手作り玩具等を知る機会となっていて、継続を要望する声が多い。

◇次年度も情報交換の場は設けたい。講話についても内容や講師を検討して、保育に関する幅広い情報を提供していきたい。

□ファシリテーター研修会

研修名（日時）	内容	講師	参加者数
ファシリテーター研修会（基礎編）（6 月 26 日（水））	・「ファシリテーターの役割と進め方」 ・演習	北教育事務所 指導主事 岡部　賢哉　氏	19 名
ファシリテーター研修会（応用編）（10 月 25 日(金)）	・「ファシリテーターの実践」 ・演習		18 名
ファシリテーター研修会（応用編）（12 月 19 日(木)）	・「ファシリテーターの実践」 ・演習		16 名

＜アンケートより＞

・実際の協議を 2 回行うことで、進め方やグルーピングの仕方について他園の先生方を見て学ぶことができた。また、視点を変えることで、願い（A）が変わり環境（P）も変わることがとても勉強になった。

・共感してもらえることで意見が出しやすい空気になり、たくさんの意見が出ることを学べたので実践していきたい。

・協議中に意見が止まってしまったが、進める・意見を引き出す具体的な方法を教えてもらうことができた。自分だけでは考えつかないが、アドバイスをもらうことで自分の引き出しが増えた。

・協議をしながら「自分の園ではこんな進め方をしている」と情報交換できたので、様々な園のやり方を学ぶことができた。自園の先生方にも伝え協議に生かしていきたい。

○基礎編は保育の動画を見ての協議であったが、全員が同じ場面を見ての協議は、進め方やまとめ方、多様な見取り等の比較がしやすかったと考える。

○園なりの工夫をしながら SOAP に取り組む園も増えていて、この研修会が情報交換の場にもなっている。

□子どもの虐待対応研修会(1/21)実施　　就学前教育・保育施設職員対象　33 名参加

内容　講話　児童虐待を取り巻く現状、SOS に気付くポイント、虐待対応の基本等々

演習　事例～発見から通告まで・通告後を考える

講師　大館市　福祉部　子ども課　児童相談係

主査（社会福祉士）　松田　さとみ　氏　　小間屋　壮　氏

＜アンケートより＞

・現場に添ったリアルな事例に対する、他の保育士等の視点を聞くことができて良かった。虐待対応の基本を学び、「疑わしき時点」での敏速な対応がいざという時に役立つと感じた。

・事例があり大変分かりやすかった。子ども課の具体的な対応の仕方、園での対応の仕方なども

分かりやすく、他の参加者の意見も聞くことができ良かった。
・普段の保育の中で保護者とのコミュニケーションがどれだけ大事なことなのかわかった。虐待について遠い存在であると思わず、身近にあるものと考えて子どもと保護者と関わっていきたいと感じた。

○事例をもとにした演習により、講話の内容の理解が深まった。

② 基幹保育園ミニ公開保育の開催
大館市就学前教育・保育施設職員を対象に公立・指定管理園・乳児保育園・認定こども園 12 園の保育・研究協議を公開することにより、自園の保育の質の向上につなげることをねらいとして実施した。事前に各園の研究テーマとサブテーマを情報提供し、参加者も自園の研究に生かせるようにした。

実　施　園	公開日	内　容	参加者数
釈迦内保育園	7 月 5 日（金）	保育公開	40 名
有浦保育園	7 月 10 日（水）	保育・研究協議公開	24 名
大館ホテヤ第二こども園	7 月 16 日（火）	保育公開	31 名
十二所保育園	7 月 25 日（木）	保育・研究協議公開	18 名
西館保育園	8 月 27 日（火）	保育公開	21 名
大館八幡こども園	9 月 18 日（水）	保育公開	34 名
城南保育園分園	9 月 25 日（水）	保育・研究協議公開	15 名
扇田保育園	10 月 8 日（火）	保育・研究協議公開	16 名
大館乳児保育園	10 月 18 日（金）	保育公開	16 名
城南保育園	10 月 25 日（金）	保育公開・ファシリ研修	21 名
たしろ保育園	10 月 29 日（金）	保育・研究協議公開	19 名
東舘保育園	12 月 19 日（木）	保育公開・ファシリ研修	21 名

保育参観の様子

研究協議参観の様子

＜アンケートより＞
・他園を参加することで自園の保育を振り返る機会となり、気付いたことや活かしたいポイントがあった。まずは、園内で保育を見合う・参観し合う工夫をしていきたい。写真も活用の仕方に

よっては協議を深め保育に活かせるので取り入れていきたい。
・実際に午前中から見させていただいた子どもたちの姿から、先生方のSOの広げ方、グルーピングがとても細かく、参観させていただいていた私もとても分かりやすかったです。Aを出すのが難しいと感じるのですが、Pと出す（一緒に出す）と考えると、スムーズに進むなと感じました。
・自園とは違った話し合いの仕方で参考になりました。自分は記録を担当することが多く毎回悩みながらやっていますが、大事なところを書き出したり大きく端的に見出しを付けたりすることを真似していきたいと思いました。

○これまでのミニ公開保育は保育だけの公開であったが、他園の協議を見ることで学ぶことも多いのではないかと考え、今年度は可能な園に協議も公開してもらった。参観者のアンケートからは、協議の仕方における自園との違いや取り入れたいこと、子どもの姿と協議の関連性等への感想が多く見られた。保育と協議のどちらも見ることで他園から学ぶことが深まるのではないかと感じている。

③　基幹保育園（５園）主催の研修会：オーダーメイド研修会
・公立園長会で研修内容が重ならないように調整し、多様な研修を受講できるようにしている。

実施園　　実施日	内　容	講師	参加者数
大館感恩講 6月24日（月） 11月22日（金）	「性格は変わらずとも行動は変わる」 「不適切な保育に陥らないために」	西館保育園 園長　佐藤　和博　氏	18名 16名
城南保育園 7月4日（水）	幼児安全法 子どもの心肺蘇生とAED	日本赤十字秋田県支部	23名
有浦保育園 8月9日（金）	「子どもの発達を見る目とポイント」	大館市立花岡小学校 花田　一雅　氏	46名
扇田保育園 11月13日（水）	「キッズ食育講座」	大館市健康課 長谷部　朋子　氏	22名
たしろ保育園 12月18日（水）	「メディアとのよい付き合い方 ～園ができること～」	比内支援学校 教育専門監 藤田久美子　氏	26名
城南保育園分園 1月15日（水）	ボッチャ体験	大館スポーツ振興課 スポーツ交流推進係	24名

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」
①　就学前教育施設と小学校との円滑な接続のための支援
□小学校の授業参観と協議・保育参観と協議・保育士体験

小学校では、園の先生方による１年生の授業参観が実施されている。多くの小学校は、１学期の早い段階で授業参観と情報交換、交流の打合せをしている。また、ＰＴＡ授業参観日やみんなの登校日に保育園の先生を招待する学校もある。保育園でも、要請訪問や関係者評価、園行事に小学校の職員を招待して、保育参観を行っている。参観後に、小学校の先生も参加して研究協議を行う園も少しずつではあるが増えてきている。また、夏休み・冬休みを利用して、小学校教諭が保育士体験を行っている園もある。

今年度は、架け橋充実期のカリキュラムの検証と架け橋期カリキュラムの作成に向けて、園と小学校の職員が子どもの姿や育ちについて話し合う機会が増えている。

就学前施設と小学校による
カリキュラム検証の様子

○架け橋カリキュラム作成合同会議では、学区の共通の視点に沿った子どもたちの姿の検証が行われ、学区の子どもの理解が深まり、成果や課題も明らかになってきた。
○共通の視点は、交流活動のねらいとして位置づけられてきている。

□幼保小連携だより「つなぐ」の定期発行（月１回）
・大館市の全就学前教育・保育施設（30 施設）のほか、全小学校、北教育事務所、他市の保育アドバイザーに配布。
・わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業について、就学前教育・保育と小学校の教育の連携のための情報提供、研修や交流の実施状況、感想等を掲載している。
・保育と教育双方の理解を深めるための特集として交流の実践例、合同協議の内容・様子などを掲載している。
・架け橋期のカリキュラム作成に向けての各学区の動きや取組を紹介している。

○園と小学校との交流、小学校職員の保育参観・体験、研究協議への参加等の情報提供により、それを参考にした子ども同士の交流、職員の研修などが行われ、学区間の差が少しずつ解消されてきている。
○架け橋カリキュラム作成合同会議に関する情報提供、取組の手順、進捗状況等をこまめに知らせることによって、先生方の共通理解の手助けとなり不安や疑問などの解消に繋がっている。

② 就学前施設・小学校の教職員を対象にした合同研修会の実施
□幼保小連携推進会議　(5/24)　　園長・主任、教頭等対象　48 名参加
内容・「幼保小の架け橋プログラム調査研究事業について」
大館市教育研究所　副主幹　山本 多鶴子 氏

・実践発表
「幼保小の架け橋プログラム大館市モデル地区釈迦内小学校区の実践について」
釈迦内小学校　校長　佐藤　潔 氏
向陽こども園　主幹保育教諭　佐々木　夕子　氏
・学校区版カリキュラムの確認、連携の年間予定の協議等（学校区ごと）

○先行学区の実践発表により、子どもたちが変わっていく姿や取組の過程が具体的にイメージされ、他学区の先生方の意欲を高め、見通しをもつことに繋がった

□幼保小担任合同研修会（5/30）　　年長児・小１担任等対象　50 名参加

内容・「幼保小の架け橋プログラム調査研究事業について」

大館市教育研究所　副主幹　山本　多鶴子　氏

・学校区版カリキュラムの確認、連携・交流活動の具体について（学校区ごと）

○学校区版カリキュラムがあることで、ねらいを明確にもった連携や交流が計画されていた。

幼保小連携推進会議

幼保小担任合同研修会

□大館市教職員夏季研修会（7/31）　大館市教職員・就学前施設職員等対象

「通常学級における特別な支援が必要な子どもの理解と支援」

スマイル・サポート

宮城学院女子大学教育学部教育学科　教授　梅田　真理　氏

参加者 150 名

＜アンケートより＞

・「他の子たちと同じように学ばせたい」「ここまで到達させたい」と思ってしまっていた。一人一人の特性を理解できていなかったと痛感した。

・引継ぎについて、自立に向けて支援のリレーになるように、その子の特性を生かすこと、見つけること、その子の成長を喜ぶこと、その子が困ったときの拠り所をしっかり伝えていくことを心に留めておきたい。

「発達障害のある子どもの理解と対応」

秋田医療療育センター発達障害者支援部　　部長　荒川　祐介　氏

参加者 142 名

＜アンケートより＞

・発達障害で悩んでいる人たちの本質は、周囲の理解が得られていないことだということが分かり、変わらなければいけないのは、関わる私たちの考えであると学んだ。

・私たちが普通、一般的だと思っている社会が、いかに不公平であるかも感じ、社会や環境のデザインをよりよくしていくために何ができるのかを考えさせられた。

○就学前施設職員と小学校教諭が「文字」や「言葉」について同じ講話を聞くことで同じ認識をもつことができた。グループ協議によって、校種が違っても保護者支援では同様の悩みをもっていることが分かり、共感し合えた。

●読み書き障害に限定した内容だけではなく、年長から１年生にかけての「読み」「書き」への関心の高まりや習得についての内容だったが、就学前施設職員の参加が例年より少なかった。

◇研修内容については、受講者のニーズ（アンケート）をもとに、来年度の内容、講師を選定し、より多くの参加を促したい。

□大館市教職員研究実践発表会（1/8）　大館市教職員・就学前施設職員等対象

「幼保小の架け橋プログラム モデル自治体としての取組
～3 カ年の成果と教育的効果への期待～」

大館市教育委員会教育研究所　副主幹　山本　多鶴子　氏
架け橋コーディネーター
大丸　ふさ子　氏
参加者 54 名

＜アンケートより＞

・3 カ年の成果として、モデル地区である釈迦内小学校の１・２年生が「学校が楽しい」「授業が分かる」などが肯定 100%になったのは嬉しいことと感じた。「架け橋」について、保育園でも主任・年長の先生だけでなく職員にも少しずつ伝わり、学区の 3 つの視点を意識した園内研究や保育になってきているように思う。今後も小学校との交流を深め、ねらいや振り返りを大事にした交流にしていきたいと改めて感じた。

・私自身人生で初めて担任となった学年が 1 年生だったため、幼保小連携は大変興味深いものでした。保育園を見学させていただいた時、学び合い協力し合う必要感が生まれる環境づくりがすばらしく、試行錯誤している様子をたくましく感じました。「困ったことがあったらみんなで解決」の基礎基盤が幼稚園・保育園でていねいに築いていただいていると分かりました。大館の教育にも結びついていて幼保小連携の強みにもなると感じました。

○幼保小連携の必要性や有効性が示された。幼保小関係者のみならず、中学校教諭や養護教諭の参加もあり、これまでの成果と今後の展望を発信することができた。

「体が動けば心も動く やればできる ホップステップジャンプ
～子どもの興味・関心を捉え、遊びが広がる環境の構成と援助を目指して～」

たしろ保育園　主任保育士　関　千絵　氏
保育士　阿部　浩子　氏
参加者 41 名

＜アンケートより＞

・子どもの内面理解と遊びの教材研究の２つを同時に進めることは大変だったと思いますが、子どもの成長と保育者の成長につながっていると感じました。「子どもの遊びは学び」と言われているので、内面を理解しつつ、子どもの姿に合わせ、成長を促すための遊びの環境の構成をしていけたらと思います。

・遊びについてここまで追究・研究していることが、大変興味深かったです。遊ぶことにこんなにも学びが詰まっていることを、今回の発表で実感できました。保育士の方々の子どもの内面理解の方法もとても参考になりました。

○保育の実践発表にもかかわらず小学校教諭の参加もあり、就学前は「遊びを通して学ぶこと」を再認識する機会となった。

□保育実践発表会（2/13・14）　大館市就学前施設職員等対象

「架け橋プログラムの実践
～共通の視点『言葉で伝え合う力』『共感・協働する力』の
育ちを支え、つなぐために～」

大館ホテヤこども園　主幹保育教諭　浅野　雅子　氏
保育教諭　田村　優衣　氏
参加者　３８名

＜アンケートより＞

・「言葉で伝え合う力」を育むために、５歳児だけでなく０歳児から積み重ねていくことが印

象的だった。０歳児にはまだはっきりと言葉を言えなくても伝えようとする気持ちがあり、伝えようとする力が保育者の援助によって言葉や発語とつながると感じた。
・小学校の先生たちの保育体験は、互いの環境や思いの理解につながっていると思う。小学校の先生の感想がとても新鮮に感じられ、保育を見直す機会にもつながると感じた。

○モデル校の実践を聞くことにより、園種の異なる施設が一緒に取り組むことの難しさや大変さを知るとともに、具体的にどう取り組みどう乗り越えてきたかを知る機会となった。参加者からも「参考になった」という声が多くあった。

「幼保小の架け橋プログラム モデル自治体としての取組
～3 カ年の成果と教育的効果への期待～」
大館市教育委員会教育研究所　副主幹　山本　多鶴子　氏参加者 ２７名

＜アンケートより＞
・架け橋カリキュラムを作成するにあたり、今まで以上に小学校の先生方、同じ学区の他園の先生方との交流が増え、お互いの子どもの共通理解が深まってきているのを感じています。引き続き架け橋カリキュラムを意識しながら、園全体で取り組み保育していけたらと思っています。交流に関しては、小学校の先生方との温度差を感じることがあります。でも、あきらめずアプローチしていくことが大切なのですね。頑張ります。できれば、小学校の先生方にももっと架け橋についての研修会に参加して、理解を深めていただけたらと思います。

○自園の取組を振り返っての感想が多くあり、架け橋プログラムに取り組んだことにより、職員同士、子ども同士の交流が増え、保育や子どもの姿の共通理解ができた・深まったという振り返りが多かった。
●就学前施設側では小学校の取組や取り組む姿勢に物足りなさを感じている。

「体が動けば心も動く やればできる ホップステップジャンプ
～子どもの興味・関心を捉え、遊びが広がる環境の構成と援助を目指して～」
たしろ保育園　主任保育士　関　千絵　氏
保育士　阿部　浩子　氏
参加者 60 名（2 日間）

＜アンケートより＞
・環境の構成と内面理解という、二方向からの研究実践が素晴らしいなと思いました。特に、「環境」は大切と思いながらも具体的な形で考えを共有したり話し合うことが少なかったので、若い保育士をはじめ、保育していく上でとても有意義な研究だったのではないかと思いました。発達段階アセスメントシート、たけのこ遊び年間計画等、目に見える形で年齢の発達や年齢で経験してほしい遊びを示すことで、環境を考える時に考えやすいという点も良いなと思いました。この研究を積み重ねていくことでさらに内面理解が深まり、そして研究内容も家庭と共有して、共に育てていくことができるといいなと思いました。

○主題に迫るためのアプローチの仕方は一つではなく多方向であり、自園で考え工夫していくことの大切さを知ることができたという感想が多く、他園の実践を聞く機会の必要性を再確認した。

（５）「県との連携体制の充実」

◇県主催協議会・研修会、教育・保育アドバイザー連絡協議会への参加
・「幼保小の架け橋プログラム」説明会（4/11）　・架け橋プログラム研修会（5/14,5/21）

・園長等運営管理協議会（4/26,8/29）
・教頭・主任等研修会（5/17,11/1）　・教育・保育ＡＤ連絡協議会（4/23, 6/25, 8/23, 10/24）
・県就学前教育推進協議会（11/22 予定）　・市 AD に学ぶ研修会（10/8, 10/30 予定）

○連絡協議会は、他市町村の事業内容や進め方、アドバイザーとしての関わり方、保育の見方など学び、本市の事業に活かすことができた。

○市町村 AD に学ぶ研修会は、本市の園の保育を参観して他市町村 AD の感想や意見をいただき、保育に活かすことができた。

◇秋田県教育庁幼保推進課との連携体制と役割分担の明確化
・県幼保推進課・北教育事務所の要請訪問への同行(21 施設)
・北教育事務所指導主事等との打合会の開催（年２回）

〈具体的な連携〉
・北教育事務所指導主事による市の事業や研修への支援・協力
・市アドバイザーが依頼文書、研究内容、指導案の見直し後、各園で訂正し、その後、北教育事務所へ送付。それを受けて、北教育事務所から各園に日程・内容の確認。
・同行訪問では、子どもの姿や保育者の関わり、環境の構成等で気付いたことを指導主事と情報交換し共有する。

○県による教育・保育アドバイザー等の研修会参加や県教育庁北教育事務所要請訪問同行により、アドバイザーとしてのスキルアップにつながっている。また、市支援訪問の際には要請訪問での指導や助言を園と共有して改善に取り組んでいる。

３　わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業（令和６年度）の成果と課題

○架け橋充実期カリキュラムの検証の年度であったが、どの学区も中間で振り返りを行い後期の取組に活かしている。カリキュラムが実践され、実践がカリキュラムに反映されるという検証ができている。

○今年度は６つの認定こども園の訪問に加え、２つの認定こども園が市のミニ公開保育を実施した。保育環境・保育方針などの違いはあるが互いに学び合う機会となり、大館市の教育・保育の一貫性に繋がっていくのではないかと考えている。

●架け橋プログラム事業も含め幼保小連携の取組には、幼保と小学校の間に熱量の差がある。

●訪問での指導・助言や研修会・公開保育での学びが実践に活かされていない園もある。

◇次年度は、全小学校学区が、完成した架け橋期のカリキュラムの実践・検証の年度となる。実践・研修への支援のための訪問を増やしたい。

◇指導・助言や学んだことが保育に活かされていくように、市支援訪問やアドバイザー訪問の実施の仕方を考える。

実施市町村の具体的な取組（男鹿市）

１　教育・保育の現状と課題

（１）教育・保育アドバイザーの継続的な支援のもと、保育者の研修意欲の高揚を発展させ、就学前教育・保育の推進体制を定着させていくことが課題である。

（２）市教育委員会指導主事と教育・保育アドバイザーの連携による接続を見通した教育課程の編成を目指し、接続期の質の高い教育・保育体制の充実・強化が必要である。

２　令和６年度の目的、重点、実施内容

【目的】

・教育・保育アドバイザーが市内就学前施設の巡回訪問を計画的に行い、保育内容や保育者の支援、園内研修や園内研修担当者への助言等を通して質の高い保育の向上を図る。就学前施設における

課題等に応じた研修を開催し専門性の向上を図る。
・担当課と市教育委員会との部局間連携を積極的に行い、幼保小の円滑な接続の強化に努める。保育参観や授業参観後の協議等を通して、幼保小の職員が相互理解し、共に学び合う体制づくりを構築する。

【重点】
・各就学前施設の課題に応じた支援と、幼保小の円滑な接続に向けた合同研修の充実に努める。
・小学校との円滑な接続が充実するように市教育委員会との連携を深める。

【実施内容】
（１）部局間連携による教育・保育推進体制の充実

・市民福祉部子育て健康課に教育・保育アドバイザーを配置

・市教育委員会との連携の実施

・市教育委員会指導主事との連携の実施

４月　１日：架け橋プログラムについて（担当課・市指導主事）
幼保小の連携の方向性について

４月　４日：架け橋プロブラムについて（担当課・市指導主事）

４月　８日：「就学前・小学校合同研修会」について（担当課・市指導主事）

４月２５日：連携通信の内容等確認（担当課・市指導主事）

５月１６日：連携通信の内容確認（担当課・市指導主事）

５月１６日：「就学前・小学校合同研修会」の内容検討（担当課・市指導主事）

５月２３日：小学校訪問等における状況報告（担当課・教育委員会）
架け橋プログラムについて（教育委員会・担当課）

６月２８日：「就学前・小学校合同研修会」の内容確認（担当課・市指導主事）

７月　８日：「就学前・小学校合同研修会」の開催協力（担当課・市指導主事）

７月１１日：小学校訪問等における状況報告（担当課・市指導主事）

９月１９日：架け橋プログラム市町村訪問（担当課・市指導主事）
訪問指導助言者：秋田県教育庁幼保推進課
主任指導主事　石山　潤　氏
秋田県教育庁幼保推進課
指導主事　　今野菜穂子　氏
参加者：子育て健康課　教育委員会学校教育課

１月２３日：市学校行事調整委員会（令和７年度幼保小合同研修会について）

３月　末　：担当課と市教育委員会打合せ

（次年度に向けて・合同研修会・架け橋プログラム作成について）

○市指導主事と男鹿市幼保小連携通信「ぶらんこ」の内容について話し合いや、幼保小の連絡協議会、授業参観等の報告がきっかけとなり、各学区内の幼保小の成果や課題等を把握できるようになった。

○「架け橋プログラム」に関わる話し合いを通して、「円滑な接続」「学びの連続性」について担当課と教育委員会が互いに理解し合うようになった。

△教育・保育推進体制がさらに充実するよう、担当課と市教育委員会の連携を確かなものにしていく必要がある。そのため計画的に話し合いの場を設定するように努めていきたい。

（２）「教育・保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

◇令和６年度アドバイザーによる巡回訪問･指導に関する具体的な目標（男鹿市）

派遣実績　計１５施設／教育保育施設全９施設 小学校６施設 １９６回	
回数	・幼稚園：私立１園（２４回） ・保育園：市立６園（９１回） ・保育所型認定こども園：市立　１園（１６回） ・その他の施設：（事業所内保育施設　１か所（２回） ・小学校：６校（６３回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）　（実績のうち、９園（　７９回　） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）　（実績のうち、１園（　　３回　） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）　（実績のうち、９園（１１２回　） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）　（実績のうち、９園（　５４回　） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）　（実績のうち、９園（　９５回　） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（実績のうち、８園（　　６回　） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）　（実績のうち、６校（　７０回　） ・特別支援訪問　（実績のうち、８園（　１３回　） ・その他（上記に分類できないもの）　（実績のうち、８園（　２１回　）
理由	・事業所内保育を含め、各園を継続的に訪問することにより、保育参観や振り返り、園内研修参観や研修担当者の振り返りを通して、保育の質や保育者の専門性の向上を図るため。 ・市内の小学校を訪問し、円滑な接続に向けて就学前施設と小学校が互いに理解を深め幼保小の連携と推進を図るため。

○保育の振り返りや園内研修の協議では、自分の考えを整理しながら筋道を立てて話すことができるようになり、保育に対し深く考える力がついてきている。このことが保育の質の向上につながっている。

●主体性を育む保育についての考え方や捉え方に個人差がある。今後の園訪問で子どもにとってどうなのか、何を育てたいのか等について話し合い、一緒に考える場をつくっていく必要がある。

●保育の振り返りでは、子どもの状況だけ話し終わってしまうことが多いため、進め方について伝えていく必要がある。

△小学校訪問時は、幼保小のつなぎの部分の大切さが更に意識できるよう、授業参観や協議をする機会を積極的に持つことが必要である。

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

①保育実践力向上研修「不適切保育研修」

日　時：令和６年５月２２日（水）

９：３０～１２：００

場　所：男鹿市脇本公民館

テーマ：「子どもも保育者も笑顔に

～よりよい保育実践に向けて～」

講　師：秋田県教育庁幼保推進課

主任指導主事　石山潤　氏

内　容：講義・演習

参加者：３１名

＜参加者の学びや感想＞

・自分自身の日々の保育を振り返り反省する点やこれからも続けていってもよい行為など多くのことを学ぶことができた。また、子どもを一人の人として尊重することの大切さについて詳しく知ることができ、明日からの保育にいかしていけると感じた。

・「マルは大きく、バツは小さく」という言葉が印象的だった。一緒に過ごしていると悪い面が続いて見えるが、子どもの良い部分に目を向けてその部分を伸ばしていけるようにして、環境の構成も見直していきたい。

・子どもにとって環境がいかに大切なのか。素敵な環境の中で自由に主体的に遊ぶことの喜びを実感できる子どもが安定し、保育者も安定していく。そのことで適切な関わりができ「子どもも保育者も笑顔に」になっていくと思った。「手のかかる子ども」と思わずに物的環境や人的環境に手をかけていきたい。

○研修後の園訪問では「研修内容を報告し職員みんなで話し合い学ぶ時間を持った」「再度園内で話し合い『不適切保育』について確認した」「その後は各自の保育の振り返りで『自分の保育は不適切でなかったか？』という話が自由に出てくるようになり保育の質につながっ

ている」等という話しから、自園にいかすことのできる研修であり、保育の質の向上につながっていると思う。

②保育実践力向上研修「不適切保育研修」

日　時：令和６年６月２７日（木）

１３：３０～１６：００

場　所：男鹿市脇本公民館

テーマ：「子どもも保育者も笑顔に

～よりよい保育実践に向けて～」

講　師：秋田県教育庁幼保推進課

主任指導主事　石山潤　氏

内　容：講義・演習

参加者：２３名

＜参加者の学びや感想＞

・本日の講義内容から「子どもの立場になって考える」ことの大切さを学んだ。自分自身の経験や思い込みを過信することなく「子ども中心」「子どもが主体」となる保育に努めて いきたい。

・適切なこと、不適切なことを考える時に、関わる相手のことを思えるかどうか。発達や年齢、状況や思いに沿わないことであれば「適切」から離れていくと思う。子どもだけでなく職員の気持ちも含めて思いを汲み取ったり、受け入れたりしながら、心に余裕を持って過ごしていきたい。

○その後の園訪問で「職種に関係なくすべての職員を対象にしたことで、子どもの気持ちや思いを大切にした関わりをすることが基本であるということがすべての職員に浸透してきた」「臨時職員の子どもを見る目や関わり方に変化が見られるようになった」という話しを聞き、今回の研修の成果を感じた。また、今後もこの気持ちを保ちながら日々の実践の継続に期待したい。

△より多くの職員が参加できるように同じ内容で２回開催した。園からは「大事な研修をより多くの職員から学んでもらうことができたため良かった」という感想が聞かれた。今後も内容によってはすべての職種を対象とした研修が必要である。

③キャリア別研修「フレッシュ職員研修」（７回）

対象者：採用１年目から５年目までの保育士及び幼稚園教諭

テーマ：「～乳幼児教育に関わるために～」

講　師：男鹿市役所子育て健康課　子育て支援班　教育・保育アドバイザー　泉文子

内　容：講話・演習

場　所：各園内

日　程：各園の要望に応じて決定

実施園：８園

ア

日　時：令和６年６月４日（火）

１３：３０～１５：００

場　所：学校法人秋田キリスト教学園　いづみ幼稚園

学校法人秋田キリスト教学園　事業所内保育

参加者：５名

イ

日　時：令和６年６月１０日（月）

１３：３０～１５：００

場　所：男鹿市立認定こども園男鹿市立船川保育園

参加者：８名

ウ

日　時：令和６年６月１２日（水）

１３：３０～１５：００

場　所：男鹿市立脇本保育園

参加者：１２名

エ

日　時：令和６年６月１４日（金）

１３：３０～１５：００

場　所：男鹿市立船越保育園

参加者：１４名

オ

日　時：令和６年６月１７日（月）

１３：３０～１５：００

場　所：男鹿市立五里合保育園

参加者：７名

カ

日　時：令和６年６月２４日（月）

１３：３０～１５：００

場　所：男鹿市立玉ノ池保育園

参加者：７名

キ

日　時：令和６年６月２８日（金）

１３：３０～１５：００

場　所：男鹿市立若美南保育園

参加者：４名

ク

日　時：令和６年１０月１１日（金）

１３：３０～１４：３０

場　所：男鹿市立船越保育園

参加者：１３名

＜参加者の学びや感想（８園＞

・次年度から認定こども園がスタートする。誰にも聞けず分からないまま過ごしてきたが、「認定」についてよく分かった。また、今まで考えることもなく過ごしてきたことがたくさんあり、特に社会人として、保育者としての基本となることを学ぶことができてよかった。今のうちに聞くことができて良かった。

・忘れかけていた「自分がなりたい保育士像」を改めて思い出し確認することができ、初心を忘れず日々の保育を大切にしていきたい。また、普段使っている丁寧、温かく、子どもの立場に立って、寄り添う等ということの具体的なことに気づくことができた。それは子どもだけでなく、職員に対しても同じであるということを学んだ。明日から保育者らしく過ごしたい。

〇各園の管理職等から「保育士として、社会人として、行動、しぐさ、態度、言葉使い、人への気遣い、書類提出日の厳守」等の様々なことを教えてほしいという要望があった。参加者からは「分からなかったこと、知らなかったこと、恥ずかしくて聞けなかったこと等を分か

りやすく教えてもらった」という話しを聞き、今後も計画的にフレッシュ職員対象の研修は必要であると感じた。

△若手職員は様々な悩みに対して自分なりに解決したり、先輩に聞いたり、時にはそのままにしたりしながら、日々様々なことにぶつかりながら過ごしている。今後は管理職等に若手を応援し支えていくことの大切さを伝えていきたい。

④わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業公開保育研究会Ⅰ

日　時：令和６年７月２４日（水）

　　１０：００～１５：００

場　所：男鹿市立北浦保育園

テーマ：「思いやりを通して、心をつないでいく保育とは」

　　～一人一人が心地よさを感じるための保育士等の関わり～

指導助言：秋田県教育庁幼保推進課　指導主事　今野菜穂子　氏

　　秋田県教育庁幼保推進課　幼保指導員　尾形眞紀子　氏

内　容：３歳児・４歳児・５歳児の混合クラスの保育参観

　　保育の振り返り

　　園内研修（グループ協議・グループ発表）

　　指導助言（保育内容・園内研修）

　　全体講評

参加者：１１名（小学校校長１名）

＜参加者の学びや感想＞

・ 遊びの始まりから終わりまで参観できた。参観者が多くても自由に遊んでいることや、保育士等に思いや考えを伝えている姿から普段の保育を見られたような気がした。保育者との信頼関係が築かれているからこそ安心して過ごせていると思った。園内研修ではたくさんの発言があった。自分も人前で考えをまとめて話せるように励んでいかなければいけないと思った。

・ 「ねらい」を基にしながら子どもたちがどんな場面で心地よさを感じたのか、保育者の関わりはどうだったのかを全体で考えることで答えが明確になり、とても分かりやすい協議であった。

○グループ協議時の「自分自身の保育を振り返るきっかけになった」「園内研修では、もっと自分自身のこととして捉え、積極的に参加しなければいけない」という話から公開保育を通して学ぶことが多かったと感じた。また、今回の内容を園に持ち帰り、職員全体で再度学び合ったことが市全体の質の向上につながったと思う。

△次年度からは、これまでの８園から６園と園数は減少するが、公開保育から学ぶことは多いため、今後も計画的に公開保育を継続的に実施していく必要がある。

⑤わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業公開保育研究会Ⅱ

日　時：令和６年１１月１４日（木）

１０：００～１５：００

場　所：午前：秋田キリスト教学園　いづみ幼稚園

午後：オレンジハウス

テーマ：好きな遊びを見つけ、「遊び込める」子どもを目指して

～遊び込める環境の構成と保育者の援助を考える～

講　評：男鹿市教育・保育アドバイザー　泉文子

内　容：保育参観（３歳児・４歳児・５歳児）

経営説明

保育の振り返り

園内研修（グループ協議・グループ発表）

全体講評

参加者：１３名（小学校教諭２名）

＜参加者の学びや感想＞

・子どもたちの入学前の様子を見ることや、どんなことに重点を置いて教育を行っているのかを学ぶことができた。また、職場での情報共有を行い、より子どもたちに合った教育活動を行なうことができると思う。

・幼稚園の公開保育に参加する機会がなかったので、今回参加して幼稚園の遊びと小学校の学びがどのようにつながっているのかを学ぶことができた。

・子どもの「主体性とは…」を考えさせられた。様々な場所や場面で子ども自身が考え、試すという姿があり、そこには保育者の禁止や制止の言葉はなく、のびのびと生活していると思った。自分の保育にも取り入れ自園の園目標である「いきいきと遊ぶ子ども」を育てていきいと思った。

〇当日は登園から降園までの参観をした。特に小学校職員からは「こうやって話を聞いているんだ」「自分たちで何でもできるんだ」「協力し合いながら過ごしているんだね」等の話があり、幼児教育と学校教育との違いを相互に理解し合う貴重な時間となった。

〇話し合いを通して、幼児教育は環境を通して行う教育であることや、知識や技能を一方的に教えられて身につく時期ではないということ、また、園では小学校以降の子どもの育ちを見据えたうえで、育みたい資質や能力を育んでいくこと等が大事であることを幼保小の職員同士が理解したのではないかと感じた。

△市内唯一の私立幼稚園であるが、これまで築き上げてきた関係性を大事にし、今後も連携を密にしながら男鹿市全体の保育の質の向上に向けて共に取り組んでいきたい。

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

①「男鹿市就学前・小学校合同研修」

日　時：令和６年７月２６日（金）

９：３０～１６：００

場　所：保育参観

５歳児保育提供園：男鹿市立脇本保育園

講話・協議

男鹿市保健福祉センター

テーマ：「円滑な幼保小の接続～架け橋プログラムの必要性について～」

講　師：秋田県教育庁幼保推進課　主任指導主事　武石郁子　氏

内　容：保育参観・講話・保育の振り返り・グループ協議・発表・全体講評

参加者：２９名

＜参加者の学びや感想＞

・園児の保育参観は初めてであった。協議や講話から５歳児の育ちを小学校へつなげていくために何が必要なのかを学んだ。今回の学びから自分自身の指導を振り返り反省すべき点が多くあることに気づかされた。１０の姿を意識した指導をしていきたい。

・保育参観を通して自立心や思考力等の芽生えが感じられた。その背景には興味や活動が広がる豊かな環境、保育士の見取りや声掛け、子ども同士をつなぐ支援等があり大変参考になった。講話やグループ協議を通して初めて知ったことや再確認させられたことがたくさんあり、充実した研修になった。育ちと学びを支える円滑な幼保小の接続の意義について本校でも共有していく。

・参観では子どもたちの元気いっぱいながら、落ち着いた様子、楽しそうに自分たちで遊びを選んでいきいきと遊ぶ様子が印象的でした。先生の指示は殆どなく、子どもたちが自分たちで決めて進んでいく姿に５歳児はこんな力があるんだと驚きました。学校ではもっと子どもの「こうしたい」を大事にしたいと感じました。また、架け橋プログラムの重要性、円滑な幼保小の接続のために、今日のような参観や研修会がもっと充実し、それぞれが育てたい子どもの姿を共有することが大事だと実感しました。

・担任の振り返りを聞き協議もした。小学校の視点からすると保育園では「〇〇だ」ということが新しい発見となった。発達段階の違いはあるが連続性を意識し、保育園での経験を頭に入れて今後１年生を迎えたい。

・小学校と保育園が連携し、円滑なつながりを持つことで子どもたちがより一層にたくましく生きていけると感じた。保育園の先生方が子どもたちの自主性を尊重し遊びを大切にした保育をしていることが分かった。小１プログレムをできるだけ少なくしようと尽力し、協力しようと思った。

【男鹿市教育委員会指導主事　佐藤智子　氏より】
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（以下、10 の姿）に照らし合わせた際、一人一人の丁寧な実態把握、学びの芽を育むための場づくりの工夫、教室環境の充実、子どもの思いを大切にした温かな関わり等により、様々な力が十分に育まれています。
一方、10 の姿について本市の学校での近年の児童生徒の様子を振り返ってみると、課題となっている点も見えてきます。課題については、学区の幼保小中で共通理解をした上で、それぞれの発達段階に応じた適切な経験や支援を意図的に取り入れていく必要があると思います。
武石先生のお話は大変分かりやすく、架け橋プログラムについて、先生方の理解がぐんと進んだと思います。

○架け橋プログラムの必要性については知っていたが、なぜ必要なのか、どのように考えていけばよいのか等よく分からないという参加者が殆どであったが、今回の保育参観や講話、グループ協議等により理解を深めることができた。

△今年度は６校であるが、次年度からは４校になる。研修では、さらに協議が充実するように学区内での話し合いを深めていくことが大事である。そのため次年度からは各園や各小学校からより多くの職員が参加できるように年度初めから様々な場面を通して参加を呼び掛けて幼保小の連携を盛り上げていく。

△幼児期の子どもの育ちや学びを小学校へ円滑につなぐことがでるように、関係するすべての職員が参加できるよう開催時期や内容等を工夫していく必要がある。また、幼保小全体で円滑な接続に向って考えていく機会を意図的に作っていく必要がある。

②就学前施設と各小学校との連携

ア：男鹿市立船川第一小学校

５月３０日（木）　第１回保小連携協議会：午後（１年生授業参観・協議）

９月　６日（金）　小学校指導主事要請訪問：午前（１年生授業参観）

９月２７日（金）　特別支援学級実践研修会：午前（１年生授業参観）

２月　４日（火）　体験入学：午後（１年生との交流会）

２月２７日（木）　幼保小連絡協議会：午後（協議）

イ：男鹿市立脇本第一小学校

４月　５日（金）　入学式・授業参観

８月３０日（金）　第１回幼保小連絡協議会
（１年生授業参観・協議）
２月　７日（金）　体験入学・保護者説明会
２月２５日（火）　第２回幼保小連絡協議会

ウ：男鹿市立船越小学校

４月　５日（金）　入学式・授業参観：午前
６月　３日（月）　幼保小連絡協議会：午後（１年生授業参観・協議）
６月２６日（水）　指導主事要請訪問：１日（保育参観・園内研修）
９月３０日（月）　幼保小情報交換：午後（情報交換）
２月　３日（月）　体験入学：午後（５年生との交流会・協議）
２月　７日（金）　幼保小連絡協議会：午後（協議）

エ：男鹿市立北陽小学校

６月２０日（木）　幼保小連絡協議会：午後
７月１２日（金）　１年生授業参観
７月１９日（金）　園児との交流会（夏祭り）
７月２４日（水）　保育園指導主事要請訪問
８月２８日（水）　保育参観
１２月１８日（水）　授業参観
２月１９日（水）　授業参観

オ：男鹿市立払戸小学校

６月　７日（金）　第１回幼保小連絡協議会：午後（協議）
７月　３日（水）　みんなの登校日：午前
１１月　５日（火）　１年生校内研究授業：午前
２月　３日（月）　これまでの連携の振り返り

カ：男鹿市立美里小学校

５月２３日（木）　幼保小連絡協議会：午後
１１月　８日（金）　新１年生体験入学：午後

２月２６日（水）　第２回幼保小連絡協議会：午後

③相互職場体験（１日保育士・１日教諭体験）

ア：男鹿市立船川第一小学校と認定こども園男鹿市立船川保育園

７月１９日（金）　１日小学校教諭体験：１日（１年生授業及び生活支援・協議）

８月　８日（木）　１日保育士体験：１日（５歳児保育・園内研修・協議）

イ：男鹿市立船越小学校と男鹿市立船越小学校

７月１６日（火）　１日小学校教諭体験：１日（１年生授業及び生活支援・協議）

８月　５日（月）　１日保育士体験：１日（５歳児の保育・園内研修・協議）

ウ：男鹿市立払戸小学校と男鹿市立若美南保育園

８月２日（金）　１日保育士体験：１日（５歳児の保育・園内研修・協議）

④研修会等をまとめた広報誌の発行

・名　称：男鹿市幼保小連携通信「ぷらんこ」

・配布先：各小学校（６校）、幼稚園（１園）、保育園（７園）、教育委員会（２部）

（５）「県との連携体制の充実」

県と連携しながら就学前施設や保育士等の課題解決に向けた継続的指導や支援

・県主催研修会への参加

４月２６日（金）　園長等運営管理協議会Ⅰ

５月１７日（金）　教頭主任等研修Ⅰ

６月１８日（火）　幼稚園・保育園・認定こども園等新採用者研修Ⅲ

７月　２日（火）　保育実践力習得研修Ⅰ

７月　９日（火）　園内研修担当者研修Ⅰ

７月１９日（金）　幼稚園・保育所・認定こども園等新規採用者研修Ⅳ

８月２９日（木）　園長等運営管理協議会Ⅱ

９月　６日（金）　中堅教諭等資質向上研修Ⅴ

９月１２日（木）　幼稚園・保育所・認定こども園等５年経験者研修Ⅱ

９月２６日（木）　幼稚園・保育所・認定こども園等新規採用者研修Ⅴ

１０月　３日（木）　保育実践力習得研修Ⅱ

１０月２２日（火）　園内研修担当者研修Ⅱ

１１月　１日（金）　教頭主任等研修Ⅱ

４月１０日（水）　「幼保小の架け橋プログラム」の理解促進と取組実践に関わる説明会」

４月２３日（火）　架け橋プログラム研修会Ⅰ

６月１３日（木）　就学前教育理解推進研究協議会Ⅰ

６月２１日（金）　架け橋プログラム研修会Ⅱ

１１月２２日（金）　就学前教育推進協議会

１月３０日（木）　就学前教育理解推進研究協議会Ⅱ

・教育・保育アドバイザー連絡協議会

４月２３日（火）　第１回教育・保育アドバイザー連絡協議会

６月２５日（火）　第２回教育・保育アドバイザー連絡協議会

８月２３日（金）　第３回教育・保育アドバイザー連絡協議会

１０月２４日（木）　第４回教育・保育アドバイザー連絡協議会

１月２３日（木）　第５回教育・保育アドバイザー連絡協議会

１０月１５日（火）　市に学ぶ研修（大仙市：大曲中央こども園）

１０月２３日（水）　市に学ぶ研修（男鹿市：若美南保育園）

１１月２１日（木）　市に学ぶ研修（潟上市：追分保育園）

・指導主事要請訪問や認定こども園訪問に同行し指導や助言方法観察

６月２６日（水）　指導主事要請訪問（男鹿市立船越保育園）

７月１８日（木）　指導主事要請訪問（男鹿市立玉ノ池保育園）

７月２４日（水）　指導主事要請訪問（男鹿市立北浦保育園）

８月２２日（木）　指導主事要請訪問（男鹿市立脇本保育園）

８月２８日（水）　指導主事要請訪問（男鹿市立若美南保育園）

９月１０日（火）　認定こども園訪問（認定こども園男鹿市立船川保育園）

○県主催研修会では、今現在必要とされている教育内容を学ぶことができるため、園訪問時等で保育者や管理職等へのアドバイスに役立っている。また、アドバイザー連絡協議会では、各市町村の取組状況や情報交換から参考になることが多く自市の事業内容に生かしている。

○指導主事要請訪問同行等では、保育の見方や捉え方、また、保育者に考えてもらいたいことについて、どのように伝えれば伝わるのか等学ぶことができた。

△今後も、保育の基本を学ぶために、県主催の研修会には出来るだけ多く参加し、学び続けていかなければいけない。また、教育・保育アドバイザー連絡協議会は他市の内容が参考になることが多いため今後も継続してほしい。

３　わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業（令和６年度）の成果と課題

○園訪問では、主体性を大切にした保育の展開や、保育の振り返り時にＳＯＡＰに沿った保育の振り返りになってきていることから保育者一人一人や園全体の成長が感じられる。また、保育者が自分の保育についての考え方や思いを話せるようになってきていることから個人の保育の質の向上が園全体の保育の質の向上につながっている。

○「架け橋期のカリキュラムの作成」について、関係部局間である子育て健康課と市教育委員会が互いに共通理解を図りながら進める方向になったことは大きな進歩である。また、「架け橋プログラム市町村訪問」を通して、架け橋プログラム作成の必要性や意義、それをどのように進めていけばよいのか等について、相談や助言等をいただいたことは今後の進め方や捉え方の参考になった。

●就学前教育と小学校教育との円滑な接続に関することは、関係部局間で思いの違いがあるため、誰のための何のためのカリキュラムなのか等、事前の話し合いが十分に行われなければいけないと感じた。作成することが最終目的ではなく、先ずは幼保小の違いを互いに理解し合うことから始めなければいけないと感じる。そのため幼保小の職員がたくさん話し合い、その中で幼保で育ちつつある芽を小学校でどう育てていくのか、どうつなげていけばよいのかを話し合った結果が文章として記されて架け橋カリキュラムになっていくことの相互理解が必要である。

実施市町村の具体的な取組（横手市）

１　教育・保育の現状と課題

（１）各幼児教育施設において、教育・保育の質の向上に向けた研修の充実等の体制が構築されてきたが、継続実施できる体制づくりが必要である。

（２）幼児教育施設と小学校との連携・接続組織は構築されてきたが、その実施に温度差が見られる。

（３）小学校・幼児教育施設教職員等の双方における子どもの学びや資質・能力のつながりへの理解をより深めていく必要がある。

２　令和６年度の目的、重点、実施内容

【目的】

本市において継続実施してきた「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」の成果を踏まえ、県と連携しながら、幼児教育施設の教育・保育の質の向上と幼小の円滑な接続に向けた体制の更なる構築を目指す。

【重点】

２年間の事業実施の成果と課題を明らかにしつつ、より現場のニーズに合った研修、訪問支援の強化

【実施内容】

(1)部局間連携による教育･保育推進体制の充実

・市民福祉部との協力による関係機関のつながりの更なる強化

◇横手市子ども・子育て会議、横手市幼小接続推進協議会の事務局としての連携

◇健康推進課との連携、５歳児健康相談会、「幼児言葉の教室」への通所等を通しての連携

○５歳児健康相談会で保健師が対応して気になる園児をアドバイザーが面談を通して、より詳しく観察し、必要に応じて巡回相談を勧めている。また、年長児、年中児について配慮の必要な子どもたちを中心に参観したり、担任と面談したりしながら支援を行っている。さらに、必要に応じて関係機関につなげている。年中児から園訪問をし、参観聞き取りをするとともに、日常の保育に関して有効と思われる支援･援助の情報を提供している。また、年長児については、就学児健診前に各小学校へ情報を伝えている。

●つながりの強化は図られてきているので、情報共有という点でさらに丁寧に組織的に行っていきたい。

・「横手市幼小接続推進協議会（架け橋期のカリキュラム開発会議）」における市一体としての具体的な取組につながる協議及び関係団体との協力強化（年２回の協議会開催と各団体との会議・研修会の協力開催）

◇第１回横手市幼小接続推進協議会開催：令和６年６月２１日

【会場】横手市条里南庁舎会議室

【参加者】協議会委員（１０名中８名）事務局（１０名）

○今年度も、事務局に子育て支援課、健康推進課から入ってもらい、就学に際した学童保育についても話題が上がり、より子どもを支えるという視点に基づいて協議を行った。また、国が進めている「幼保小の架け橋プログラム」についても、本市のめざす子どもの姿、共通視点、具体的な今後の開発計画について共通理解と協議ができた。

●各団体での共通理解をさらに図ってもらえるよう、より働きかけていく必要がある。

◇第２回横手市幼小接続推進協議会開催：令和７年２月１３日

【会場】横手市条里南庁舎会議室

【参加者】協議会委員（１０名中１０名）事務局（１０名）

○幼保小の架け橋期のカリキュラムについての開発推進状況を共有し、協議を行った。

（２）教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援

・教育指導課に教育・保育アドバイザー２名の継続配置
・「公開保育研修会」の継続実施による園同士の学び合いの場作り
・要請訪問を中心としつつ、各幼児教育施設の実態に応じた継続訪問
・計画や資料作成、当日の保育や園内研修についての事前相談
・保育後の振り返り、研修後の振り返りを重視し、その後の保育に活きる訪問
・保育士等との面談、気になる子どもの保育やその保護者への対応、幼小接続についてなど　園のニーズに応じた随時訪問の継続
・支援が必要な子どもについて幼児教育施設と保健師、関係諸機関、小学校との結び付きを　コーディネート

◇令和６年度アドバイザーによる巡回訪問･指導に関する具体的な目標（横手市）

派遣実績　計　54 施設／全 54 施設　569 回	
回数	・幼稚園：私立 4 園（52 回） ・保育園：公立 3 園（39 回）、私立 22 園（307 回） ・幼保連携型認定こども園：私立 4 園（60 回） ・その他の施設：（へき地保育所　園（　回）児童館　か所（　回）、小規模保育施設　か所（　回）、　認可外保育施設 3 か所（31 回）、事業所内保育施設　2 か所（17 回）） ・小学校：14 校（54 回） ・その他：（9 回）

訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、33 園（47 回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、6 園（10 回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、1 園（28 回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、1 園（2 回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、38 園（396 回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、3 園（3 回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、14 校（21 回）） ・特別支援（相談、面談等）（目標のうち、38 園(123 回)) ・その他（5 回）
理由	要請訪問の事前に訪問し、研修内容や公開保育の指導計画等で助言を丁寧に行った。公開保育については、施設の力で行えるケースが増加したため、だいぶ数が減少してきた。特別支援についての相談、面談等はその分、ニーズが増えている。

○事前訪問を通して、市として目指したい研修内容や方法について具体的にアドバイスすることができた。また、担任との振り返りも、午後の協議に向けての課題を見付ける場としても効果的であった。さらに園長・主任等との振り返りにより、自園の職員のよさを価値付けたり、今後への期待を持ってもらったりする機会となっている。

○ほぼ全ての園で公開保育を行っており、小学校を交えて地域で学び合う体制作りが強化された。

●要請訪問を保育者自身が実際の保育の課題を見つめ直す機会にしたり、チームでよりよい保育を考えていこうという研修にしたりすることが次のステップとなる。支援が必要な子どもを中心にした研修になると、場当たり的な保育改善につながりやすいところもあり、よりインクルーシブな視点ですべての子どものめざす姿のための保育を研修していきたい。

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

・テーマや年齢層など対象を絞った、短時間での研修を企画・運営

実際の園内研修をイメージして

◇第１回横手市保育実践力向上研修会：令和６年５月２２日

【会場】横手市条里南庁舎講堂

【参加者】市内幼児教育施設職員（園内研修をリードする職員、ファシリテーターについて学びたい職員）３２名

【内容】講義・演習「参加者の学びを深めるファシリテーション～ファシリテーターは準備が肝心～」

秋田県教育庁南教育事務所　主任指導主事　佐藤　伸剛　氏

☆参加者の感想

ファシリテーターとしての経験がなく、どのように進めていけばよいかわからなかったが、この研修で学んだ「事前の準備」をしっかり行い、見通しをもってファシリテーターとしての役割を担っていきたいと思った。また、多数の意見ばかりではなく、限られた意見も大事であること、どこを深めていくのかを見極められるようになりたいと思った。

◇第２回横手市保育実践力向上研修会：令和６年６月１４日

【会場】十文字地区交流センター交流ホール

【参加者】市内幼児教育施設職員（研修リーダー）２１名

【内容】講義・演習「各園の特色を生かした研修計画を～保育はチームで～」

横手市教育委員会教育指導課

指導主事　小川　由美子

☆参加者の感想

他園の先生方から研修計画について話を聞くことで、「そのような方法もあるんだ！取り入れてみようかな」と思うところが見つかってよかった。タイムマネジメントがすごく大事だなと思って講義を受けた。一人一人の研修が園全体へと広がり、園全体がよりよくなるように、研修報告の仕方等検討したいと思った。

◇第３回横手市保育実践力向上研修会：令和６年９月２７日

【会場】十文字地区交流センター交流ホール

【参加者】市内幼児教育施設職員

（採用５年目までの若手）２７名

【内容】講義「乳幼児教育・保育の仕事を

より楽しんでいくために」

横手市教育委員会教育指導課

指導主事　小川　由美子

演習　レッツ！トーク

悩みや課題について互いの意見を

交流し合う話し合う

☆参加者の感想

保育者一人一人が子どもにとって大きな環境であり、自分自身の健康や一緒に楽しむ表情が子どもにとって大きく影響することが改めてわかった。時間に余裕がもてなくなることがないように、見通しをもって優先順位を整理しながら気持ちの面でもゆとりをもてるようにしたいと感じた。

○各施設から参加があり、日々現場で感じていることを同年代の保育者同士で話し合う機会は貴重であると感じた。また、保育も含め物事の感じ方や相手とのコミュニケーションに難しさを感じている実情がわかり、より保育者に寄り添って支えていくことが大切であると感じた。

●これが最善ということを言い切れない、それぞれのケースに応じることの多さに、より日常の中で力になることが必要と感じる。

◇第４回横手市保育実践力向上研修会実施：令和７年１月１７日

【会場】十文字地区交流センター交流ホール

【参加者】第１回研修受講者及び研修希望の幼児教育施設職員　３５名

【内容】講義・演習「参加者の学びを深めるファシリテーション

～次の実践にどう結びつけるかが肝心～」

秋田県教育庁南教育事務所　主任指導主事　佐藤　伸剛　氏

☆参加者の感想

第１回の研修会で学んだことをもとに、自園でファシリテーターとして実践を行い、今回はそれを振り返ることができた。他園の先生方とも話し合うことで、また次の実践に向けて活かすことができると感じた。

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

・幼小教職員の合同研修会の継続開催

◇横手市幼小合同研修会：令和６年８月１９日

【会場】十文字地区交流センター交流ホール

【参加者】幼小接続の中心となる

小学校教職員　　１４名

幼児教育施設職員３０名

視点に基づき、カリキュラム作成に向けて協議し合う

【内容】講義「架け橋期のカリキュラム開発に向けて」
横手市教育委員会教育指導課
指導主事　小川　由美子
演習　カリキュラム作成に向けた協議

☆参加者の感想
　校区で話し合うことで、子どもたちを思い浮かべ、実感を込めて検討することができた。今後も情報の共有や架け橋期につながる手立てを相談する機会を大切にしていきたい。
　架け橋期のカリキュラム開発について、プロセス等の理解が深まったような気がする。カリキュラムを完成させることをゴールとせず、そのプロセスを大切にしていきたい。

○昨年度からの継続でカリキュラム開発に向けた具体的な研修となった。共通の４つの視点について、どの小学校区も協議し合えていた。昨年度にプラスしていくことで、より多面的な意見を盛り込むことができた。今後、紙面にしていくことに向けた取組を計画的に進めていきたい。

・小学校区での職員体験事業継続実施
◇小学校教職員参加者　３３名
　幼児教育施設職員　　３０名　　参加

☆体験報告書より（小学校教諭）
　子どもたち自身が遊びたいものや作りたいものを選んだり決めたりする場面が多く、子どもが主体的に楽しんで活動していた。また、活動環境が意図的に設定されていて「自ら学ぶ子どもの育成」につながっていると感じた。

保育士による小学校職場体験

○長く体験事業を継続してきたが、小学校教職員の子どもの姿を見る目、環境構成をつながりとして見る目で変化を感じる。「自ら学ぶ子どもの育成」という目指す子どもの姿に向けて、市全体で進んでいることを感じる。

・互いの授業参観・保育参観の継続
○地域ごとの要請訪問、計画訪問を活用した互いの研修へ、よりたくさんの先生方が参観し合い、協議まで参加し合うことが多くなってきた。
●他園での学びを自園で、または小学校でどう広げるかが次の課題となっている。協議で模造紙にまとめた足跡を幼小で交換し合うことも一つの方法になるであろう。

・各小学校区での幼小連携委員会への参加と事業への支援
○それぞれの連携委員会へ参加したことで、書面ではわからない実情がよくわかった。それを踏まえて、他校区の事例を紹介したり、合同研修会で行った架け橋カリキュラム開発の内容を伝達したりしていくことで、さらなる連携事業を推進していくことができた。
●年度末の連携委員会にも参加し、カリキュラム開発の計画を示しつつ、幼小接続の目指すべきところの理解をより広げながら、各小学校区で歩調を合わせ進めていく。

・横手市幼小連携だより「よこてのめんこ」の定期発行（月１回）
○昨年度からスタートした幼小の教職員のリレーコラムも好評である。アドバイザーが作成した紙面を幼児教育施設（４０）と小中学校（２０）へ配布している。その際、日常の保育、教育について話題にしながら、課題解決につなげる努力を継続している。

（５）「県との連携体制の充実」
・県主催の協議会・研修会、事業実施市主催研修会への継続参加
・県の指導を仰ぎながら事業体制の見直し、継続強化
・県要請訪問への同行訪問
・「市アドバイザーに学ぶ会」の継続実施と参加
◇令和６年１０月１７日：明照保育園（関係者５名の参加）
◇他市町村にも参加（仙北市、大館市、大仙市、男鹿市）
○年度始めに南教育事務所指導主事と訪問について協議し合う場をもったことで、方向性や内容について助言をいただき、それをもとに具体的に実施することができた。また、年度途中でも、訪問した際の園の様子について共通理解することができ、訪問する際の見通しをもつ機会となった。
○他市町村の実践を参考にしながら、研修、訪問を進めることができた。

３　わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業（R６）の成果と課題
○地域の公開保育研究会の開催がさらに広がり、幼小の接続、幼児教育施設同士の横のつながりがより強まった。園内研修が定着してきた中で、さらに他園の研修会でも学び合うという基盤が広がってきている。小学校教職員の協議会への参加も増えてきた。
○研修会を基本にして、今年度の園内研修が進められており、各園の訪問でもそこに合わせた指導助言をすることができた。事前のアドバイザーの訪問が研修の焦点化を図ることにもつながっている。架け橋カリキュラム開発に向けた幼小合同研修会も継続して開催でき、理解を深めてきている。
●研修会や公開保育等の開催回数が増えることと、そこへの参加が負担感にならないかを危惧している。持続可能な実施を心掛けていきたいし、内容面についても無理のないものにしていきたい。
●他市町村のカリキュラム開発への取組が素早く、焦ってしまう感覚に陥った時もあったが、やはり開発・作成の完成が架け橋プログラムのねらうところではないと改めて感じている。あくまでも幼小の職員・行政・保護者・地域も含めた大人が、架け橋期の子どもたちについて、考え、話し合うプロセスを大事にしていきたい。さらには、カリキュラム開発に向けての協議が、本来の教育・保育の改善（質の向上）につながる手立てをしっかりと示しながら、継続し続けていきたい。

実施市町村の具体的取組（潟上市）

１　教育・保育の現状と課題
（１）各園の形態や地域性を生かした教育・保育に配慮し、質の向上につなげていく支援の在り方についての検討と指導体制の構築が必要である。
（２）市幼保小連携理解推進事業のもと、相互理解は進んできているが、担当学年以外の職員も含めた全職員の意識については不十分である。
（３）就学前施設と小学校の職員双方の「育ちと学びの円滑な接続」に対する共通理解が必要である。

２　令和６年度の目的、重点、実施内容
【目的】
小学校と就学前施設が、教育・保育課程等の相互理解を図り円滑な接続に向けて連携を推進するための事業を実施し、学びの連続性を保障するための体制の構築を図る。
園訪問を通して園内研修の充実と保育の質の向上を図る。

【重点】
架け橋期カリキュラムの実践・評価・改善、架け橋期の保育・教育の質の向上
相互保育・教育参観、子ども交流の充実

【実施内容】
1　教育・保育アドバイザーによる就学前施設への支援
○訪問により各園の実態や課題を把握し、教育・保育改善や園内研修へ効果的な関わりをもち、各園の教育・保育の質向上を目指す。
・訪問支援
（市に配置されている特別支援教育専門の教育支援アドバイザーも園訪問して、必要な支援等について助言する）
・主体的な園内研究への支援と助言
・体力向上事業（保育士同士の研究ネットワークづくり、基幹園への助言等）
・研修リーダーの育成
・就学前施設の連絡会の実施（施設間のネットワークづくり）
・園主体の就園連携合同研修会の実施、園主体の運営となる仕組み作り
2　専門性向上のための研修の充実
○園訪問等で把握した課題をもとに、市全体の課題に対する研修等を実施する。園の形態の区別を超えて学び合う体制を構築し、保育者の専門性の向上を図る。
・特別支援教育についての研修
園経営、教育・保育計画への特別支援教育の視点
担任・加配保育士の悩みを聞き取り、課題解決につながる研修の実施
専門機関との連携（市教育支援アドバイザー、天王みどり学園、医療・福祉機関）
・キャリアステージに応じた研修会の実施（ミドルリーダー、男性保育者、保育補助等の研修）
・公開保育研究会（実施園６園）
・保育実践研修会（市内全就学前施設対象）
3　小学校教育との円滑な接続に向けた研修の充実
○市幼保小連携理解推進事業を実施し、小学校への円滑な接続を図る。
・相互職場体験の質の向上（全小学校区で実施、教育・保育アドバイザーの同行）
・児童・園児の交流（好事例の紹介、交流に向けた事前・事後の連携、検証）
・相互理解を深めるための、園の公開保育への小学校教員の保育参観・協議への参加、園職員の小学校の研究授業の参観・協議への参加又は生活科の授業参観の促進
・幼保小合同研修会の開催（年２回　先進市町村の取組から学ぶ）
・幼保小連携便り（月１回発行）
4　接続期カリキュラムの作成、実践と評価、改善
・第Ⅰ期（５歳児１０月～小学１年７月）の実践と評価
・第Ⅱ期（５歳児４月～９月、小学１年８月～３月）の作成
・市内の学校区の好事例の紹介
・他市町村の取組についての情報収集
・園と小学校が行うカリキュラムの作成、評価、改善作業への教育・保育アドバイザー参加・助言
5　県との連携体制の強化、他市町村とのネットワークの構築
○他市との情報交換、先進市の視察訪問、県との連携などアドバイザーの育成支援により、本市事業を円滑に進める
・県アドバイザーの訪問指導による市教育・保育アドバイザーの育成支援
・県幼児教育推進協議会及びアドバイザー連絡協議会への参加
・他市アドバイザーに学ぶ研修会

（１）部局間連携による教育・保育推進体制の充実
①特別な支援を必要とする子どもへの支援の視点からの連携の充実を図る。
・教育委員会と子育て応援課で実施されている乳幼児検診、５歳児相談（年中児対象）、専門検査員による園訪問（４・５歳児対象）、わくわく教室（５歳児対象の幼児通級教室）、就学に向けた保護者相談、ことばの検査（小学１年対象）等の事業の目的の再確認と共有、課題の見

直し等を行った。
・子どもの情報を共有し、切れ目ない支援へつなげる体制づくり。
②園内研修を担当する教育委員会と、施設管理・職員の勤務等を担当する子育て応援課との連携
・園での施設面・保育面の課題や、職員一人一人の思いなどを情報共有しながら、支援していく体制づくりを進める。
・市内全就学前施設の管理職研修会を実施し、就園連携に係る話合いやテーマ別研修、情報交換等を行い、マネジメント力向上や就園連携の充実を図る。

○園と小学校で作成する特別支援に関する資料の様式を統一することで、職員の負担軽減を図るとともに、小中学校への引継ぎ資料としても活用できるようになった。
●△職員が変わっても、連携が持続するような仕組み作りが必要。

（２）「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」
①園訪問により各園の実態や課題を把握し、保育改善や園内研修へ効果的な関わりをもつことで、各園の教育及び保育の質の向上を図る。
・市内就学前施設への巡回訪問と要請訪問の実施。
・園内研修や公開保育への支援。
・個別相談の実施。
・ケース会議への参加。
・就園連携事業の推進。
・小学校教育との円滑な接続に向けた支援。
②公立園の園長会議や就園連携合同研修会等に参加し、教育課程や園内研修、幼保小連携等について助言するとともに、事業の共通実践事項の周知を図る。また、園長や主任からの情報や意見を吸い上げ、園訪問や市主催研修等に生かすようにする。
・園長会議への参加、情報提供、助言(月１回)
・主任会議への参加、情報提供、助言(随時)
・就園連携合同研修会　（４月、12 月、２月）
・小規模保育施設連絡会（４月、12 月、２月）

◇令和６年度アドバイザーによる巡回訪問･指導に関する具体的な目標（潟上市）

派遣実績　計　　１５施設／全１５施設　245 回	
回数	・保育所：公立１園（24 回）　私立１園（8 回） ・幼保連携型認定こども園：公立４園（118 回） ・幼稚園型認定こども園：私立１園（7 回） ・その他の施設：　小規模保育所２か所（14 回）、認可外保育施設５か所（28 回）、事業所内保育施設１か所（5 回） ・小学校：6 校（41 回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、5 園（75 回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、5 園（36 回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、5 園（122 回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、6 園（52 回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、15 園（79 回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、5 園（5 回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、6 校 6 園（49 回）） ・継続した園訪問により、各園や保育者の課題に沿って支援をし、保育の質の向上を図るため。 ・就学前教育から小学校教育への円滑な接続に向けて、就学前施設と小学校の教職員が互いに理解を深め、幼保小連携の推進を図るため。
理由	

○保育参観、園内研修ともに、子どもの姿や保育の意図について自分の考えや思いを積極的に話す保育者が増えてきている。特に、園内研修で率直に語り合う風土が醸成されてきており、意見交換を通して他者から刺激を受けながら保育改善や園内研修の評価・改善に取り組んでいる。また、継続的な訪問により見られた子どもの育ちや保育者の変容を随時保育者や管理職に伝えたり、研修後の管理職や研究リーダーとの話合いを大切にしたり等、職員の成長や園の成果・課題を共有することで、今後の園運営や研究の方向性を確認してきた。

○保育参観の振り返りでは、子どもが主体的に遊ぶ姿や学びの過程をアドバイザーが撮影した写真で可視化しながら話合いを進めている。また、保育者も、子どもの遊びや活動のプロセスについてＩＣＴやドキュメンテーションを活用することが増えてきた。子どもの学びの「見える化」により、保育者の子ども理解がさらに深まったり、保育への手ごたえが高まったりしている。

●△園内研修の話合いの深め方について、園全体で話し合いながら保育者自身が主体的に考えていけるよう、支援していきたい。

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

①　市主催保育実践研修会の開催

ア　保育実践研修会①

目的：保護者支援・子育て支援に関する理解を深め、保護者の気持ちに寄り添ったよりよい支援につなげる。

日時：令和６年５月 23 日（木）

参加者：18 名

場所：潟上市役所４階大会議室

内容：講話「保護者支援と『子どもをみる‥』とは」　演習

講師：聖園学園短期大学　教授　蛭田　一美　氏

＜参加者アンケート結果＞

①　満足18名　　②やや満足０名　　③やや不満０名　　④不満０名

＜参加者の感想＞

・保護者を支援する対象ではなく、一緒に子どもを育て、連携する対象として捉えることの大切さを学んだ。子どもの育ちを丁寧に伝えることを繰り返し、相談しやすい存在となれるよう心掛けていきたい。

○「保護者支援・子育て支援」は、昨年度の研修アンケートでニーズの多かった内容である。（３）⑤ア保護者対象の講話会「子育て支援　にこにこ広場」と併せて実施した。

○これまでの保護者対応について自身を振り返ったり、保護者の背景や本音を知ろうとすることの大切に気付いたりする等、保護者支援の在り方への理解を深めることができた。

イ　保育実践研修会②

目的：乳幼児の発達の過程を踏まえ、養護と教育が一体となった保育について理解を深める。

日時：令和６年５月 24 日（金）

参加者：14名

場所：潟上市役所４階大会議室

内容：講話「子どもの見方で保育が変わる～食育の視点から保育の質を高めるには～」
演習

講師：秋田県教育庁幼保推進課　指導主事　　由利美奈子　氏
幼保指導員　阿部　真理　氏

＜参加者アンケート結果＞

①　満足14名　　②やや満足０名　　③やや不満０名　　④不満０名

＜参加者の感想＞

・食事はおなかを満たすということだけでなく、心を満たすことにもつながる。家庭での様子を知ること、言葉をかけながら食べさせること、食事の環境を見直すことなどを職員全体で考えていきたい。

○「食」を切り口としながらも、講話や演習から、子どもの生活全体や家庭との連携を見直す機会になった。

○未満児担任対象の研修会であったが、小規模保育施設からの参加者も多く、研修内容に対する関心の高さが伺えた。

ウ　保育実践研修会③

目的：３～５歳児の発達の過程を踏まえ、保育記録や指導計画・評価について理解を深める。

日時：令和６年６月４日（火）

参加者：８名

場所：潟上市役所４階大会議室

内容：講話「３～５歳児の指導計画～子どもの内面理解とは～」　演習

講師：秋田県教育庁幼保推進課　指導主事　白畑　展子　氏

＜参加者アンケート結果＞

①　満足８名　　②やや満足０名　　③やや不満０名　　④不満０名

＜参加者の感想＞

・一人一人の子ども理解を深め、記録し、計画に反映させていくことの大切さを学ぶことができた。

・グループ演習では、自分と同じ読み取りや、自分が気付かなかった読み取りを聞いたりすることで、楽しく学ぶことができた。複数担任で保育していることの意味を改めて見直し、共通理解をしていくために計画・実践・評価・反省をみんなで行っていきたい。

○動画を見ながら話し合う演習では、様々な視点から意見を交換し合い、互いに刺激を受けている場面が多く見られた。昨年度と比較し、より深く自分の考えを他者に伝えられる保育者が増えてきた。

エ　保育実践研修会④

目的：乳幼児の発達の過程を踏まえ、養護と教育が一体となった保育について理解を深める。

日時：令和６年６月 14 日（金）

参加者：６名

場所：潟上市役所４階大会議室

内容：講話「生活の中で育つこと、育てたいこと～「食育」の視点で保育を見直す～」

講師：秋田県教育庁幼保推進課　指導主事　　今野　菜穂子　氏

幼保指導員　阿部　真理　氏

＜参加者アンケート結果＞

①　満足６名　　②やや満足０名　　③やや不満０名　　④不満０名

＜参加者の感想＞

・食事は空腹を満たすだけでなく、人間的な信頼関係の基礎をつくる営みでもあるということが、まずは目からうろこだった。小規模園は、園全体や保育者それぞれの動きが見えることが強みであることを自信にして全職員で子どもたちを見ていきたい。

○小規模保育施設に所属している職員を対象とした。小規模保育施設の職員は、研修の機会や悩みを共有したり他園の職員と交流したりする場が少ない。今回の研修は、自身の保育への向き合い方を振り返ったり視野を広げたりする機会となった。

○日頃悩んでいることを事前アンケートで集約し、指導者の先生から助言をいただいた。明日の保育につながるアドバイスは、意欲向上につながった。

オ　保育実践研修会⑤

目的：特別な配慮を必要とする乳幼児の理解と支援の在り方について理解を深める。
日時：令和６年７月 22 日（月）
参加者：15 名
場所：潟上市役所４階大会議室
内容：講話「特別な配慮の必要な乳幼児の理解と支援について」　演習
講師：秋田県総合教育センター　主任指導主事　島津　憲司　氏
＜参加者アンケート結果＞
①　満足15名　　②やや満足０名　　③やや不満０名　　④不満０名

＜参加者の感想＞
・気になる行動は、周囲からの働き掛けで変化していくという話を聞き、適切な対応の重要性を改めて感じた。また、担当者だけでなく、関わる全ての人が同じように対応することも大切だと感じた。園全体での情報共有、共通理解を大切にしていきたい。

○担任や支援児担当、特別支援教育コーディネーターが参加した。子どもの気になる行動の捉え方やＡＢＣ分析を基にした支援の流れ、インクルーシブな保育につながる支援について学ぶことができた。
○特別な配慮を必要とする子どもへの関わり方で悩んでいる園も多い。講話の資料を全園に配付し、園内研修に活用してもらうようにした。

カ　保育実践研修会⑥

目的：男性保育者が保育参加や自園の課題解決のための研修を通して、保育実践力やマネジメント能力の向上を図る。
研修①　日時：令和６年８月９日（金）　大仙市保育者３名と合同研修
場所：出戸こども園
天王こども園
潟上市役所４階大会議室
内容：午前は２班に分かれて実践研修、午後は全体協議
研修②　日時：令和６年 12 月５日（木）
場所：昭和こども園　２階会議室
内容：これまでの実践の振り返り、情報交換
参加者：４名
＜参加者アンケート結果＞
①　満足３名　　②やや満足０名　　③やや不満０名　　④不満０名

＜参加者の感想＞
・参観だけでなく一緒に保育することで、他の先生方の子どもへの関わり方や環境構成、子どもの反応を肌で感じることができた。
・それぞれの抱える悩みや課題、感じていることなどの共有をとおして、同じ悩みや考えをもつ人がいるという安心感を得ると同時に、他の先生がどのように対応しているかを聞くことができ視野が広がった。

○昨年度に引き続き、大仙市教育・保育アドバイザーや大空大仙男性保育会の協力を得て、合同の研修会を開催した。共に保育参加することで、他の保育者の子どもへの関わり方や言葉かけを実践から学ぶことができた。
○協議をとおして、より客観的な目で自身の保育を振り返ったり今後の展望を考えたりする機会となった。
○△次年度の研修については、保育者たちが研修内容を立案した。自分たちで課題を見つけて研修しようとする姿勢を大切にし、今後も思いを話し合える場をつくっていきたい。

キ　保育実践研修会⑦

目的：園内研修の一層の充実を図るため、研修の進め方や手法に関する専門性を高めるとともに、研修リーダーとしての資質向上を図る。
日時：令和６年９月 10 日（火）
参加者：９名
場所：潟上市役所４階大会議室
内容：講話「園内研修の充実とファシリテーターの役割について」　演習
講師：秋田県教育庁幼保推進課　指導主事　今野菜穂子　氏
＜参加者アンケート結果＞
①　満足９名　　②やや満足０名　　③やや不満０名　　④不満０名

＜参加者の感想＞
・園内研修には様々な方法がありながらも、話合いでの学びを確かなものにしたり園全体で共通意識をもったりするための必要なポイントを学ぶことができた。
・演習の回数を重ねるにつれて、どんどん話しやすくなっていったと感じた。自園でも、先生たちが多くの意見を出してくれるようになってきているので、今後はより的を絞った話合いにしていけるよう、ファシリテーターとしての役割を担っていきたい。
○研修会で研究協議の基本的な進め方を学んだことで、その後の園内研修の改善の参考にする園が多く見られた。
△昨年度受講していない主任や職員を対象としたが、より多くの職員が参加する必要性を感じた。継続して開催していきたい。

ク　保育実践研修会⑧
目的：保育補助者として、子どもの発達理解と内面理解を深め、保育に向かう基本的な態度について確認し、各職員の資質の向上を図る。
日時：令和６年９月 24 日（火）
参加者：40名
場所：潟上市役所４階大会議室
内容：講話「子どもの健やかな育ちのために」　演習
講師：聖園学園短期大学　准教授　　加藤　順子　氏
＜参加者アンケート結果＞
①　満足38名　　②やや満足２名　　③やや不満０名　　④不満０名

＜参加者の感想＞
・子ども一人一人をよく見て、耳を傾け、現在の在りのままを受け止めていきたい。また、子どもが試行錯誤しながら自分の力で乗り越えられるよう見守っていきたい。
・「愛着(アタッチメント)」につい詳しく知ることができた。「甘え」させていいのか、「甘やかし」になっていないか、いつも現場で悩んでいた。講話はとても参考になった。
○園長会の協力を得て、ほとんどの保育補助職員が研修会に参加することができた。
○講話やグループの話合いによる演習をとおして、保育補助職員の子ども理解や意欲を高めることができた。
△子どもの育ちを園全体で支える観点からも、今後も保育補助職員の研修の機会を大切にしていきたい。

※保育実践研修会全般の成果と課題について
○研修内容については、園の管理職・保育者の要望を聞くとともに、園の課題を洗い出し、その解決につながる研修を実施することができた。さらに、園内研修や特別支援教育に関する研修には主任の参加を促し、園運営や職員の助言に生かせるようにした。
△研修に参加した職員からは、継続してほしい研修や今後参加してみたい内容について様々な要望があった。職員の声や園長会での意見を集約するとともに、園訪問や指導主事訪問等で課題となった点について精査し、市として次年度必要な研修内容を検討していきたい。

②公開保育研究会、公開保育の開催

ア　公開保育研究会

期日：10 月 18 日（金）

会場：昭和こども園

参加者：5 名　小学校職員１名

内容：保育参観、全体会（園内研究概要説明　保育の振り返り）、協議会、指導助言

指導者：秋田県教育庁幼保推進課　主任指導主事　石山　　潤　氏

幼保指導員　　尾形　眞紀子　氏

イ　公開保育

ア）　期日：７月３日（水）

会場：若竹幼児教育センター

参加者：９名

内容：保育参観、協議

イ）　期日：６月 28 日（金）

会場：追分幼稚園付属追分ベビー園

参加者：11 名　小学校職員１名　評議員５名

内容：保育参観、協議

ウ）　期日：７月 10 日（水）

会場：追分保育園

参加者：12 名

内容：保育参観、協議

エ）　期日：７月 17 日（水）

会場：天王こども園

参加者：12 名　小学校職員１名

内容：保育参観、協議

【公開保育での協議】
小学校職員も保育参観・グループ協議に参加。

○今年度はすべての公開保育において、参観者と公開園職員でテーマに基づいての協議を実施し、活発な話合いが行われた。自身の保育を振り返ったり今後の参考にしたりしようとする声がアンケートに多く寄せられ、日常の保育改善への意欲の高まりが感じられた。地域の保育者と保育を振り返ったり語り合ったりする機会を得ることで、共に学び合う関係性の構築や潟上市全体の保育の質の向上につながっていっている。

○△小学校の職員の保育参観や協議への参加が増えてきた。公開保育に参加できなかった小学校職員が、園の計画訪問等を活用し保育参観や協議に参加するケースもあった。今後も管理職や１年生担任だけでなく多くの小学校職員が保育参観や協議を通して子どもの育ちや学びを語り合えるように、さらに働きかけを工夫していきたい。

③保育実践研究「体力向上事業」の実施

ア　基幹園での実践

ねらい：保育者や友達と一緒に様々な運動遊びを楽しみながら健康な身体を育む。

内容：運動遊びを取り入れ、乳幼児期の心身の発達を促す。

発達段階を考慮した姿勢の維持の重要性を知り、保育実践に生かしていく。

様々な体の動きを取り入れた遊びを家庭に発信し、身体を十分に動かして遊ぶ大切さを知らせていく。

講師：ジュニアスポーツ指導員　本庄　ゆかり　氏

研修日程：令和６年６月～令和６年 11 月まで、講師による園児への実技指導や職員への講話・実技指導を７回行う。

対象：０歳児～５歳児、職員

内容：６月　４日　実技（以上児の運動遊び）　参加者４名

６月 25 日　実技（以上児の運動遊び）　参加者４名

７月 11 日　実技（未満児の運動遊び）　参加者４名
８月 20 日　実技（以上児の運動遊び）　参加者４名
８月 27 日　講話「姿勢を保持することの大切さについて」　参加者２２名
（内　小学校１名　子育て支援センター１名）
９月３日　実技（未満児の運動遊び）　参加者５名

【体力向上実技研修】
ＩＣＴを活用し、自園で実技研修の共有化を図った。

公開保育：期日 11 月 14 日（木）予定
会場：出戸こども園
参加者：12 名　小学校職員１名
内容：保育参観、協議

イ　基幹園以外の公立４園での実践
各園の実態に応じ、園の方針や取組方法を計画し、指導計画に位置付けて実践する。

ウ　体力向上担当者会議の実施
ねらい：各園の体力向上担当者が自園の実践を持ち寄り、情報交換をしたり成果や課題について検討したりすることで、市内の子どもの体力向上と職員が
広域的に学び合う体制を構築する。
期日：５月１日、８月 20 日、１月 20 日
○担当者会議では、各園の実践を共有している。実技を通しての研修は、環境設定や遊びの工夫のヒントになるとともに、保育者の気付きも多いとの報告があった。また、一つの学年で行った運動遊びが他学年に波及している園も多い。
○実技研修の参加者が、自園の職員に様子を伝えることが難しい場面もあることから、今年度から実技の動画を撮影し情報共有をすることとした。ＩＣＴ活用により、全職員が研修の様子を実感できるようになり、運動遊びや環境づくりの参考にすることができた。

④小規模保育施設と公立園・幼稚園との連携

ア　小規模保育施設連絡会の開催　　４月 18 日（木）７名　12 月２日（月）９名
・小規模保育施設の園長等と子育て応援課主任、教育・保育アドバイザーで意見交換や情報共有をする。
・連携園との関わりについて、実態把握や今後のスケジュールを確認する。

イ　就園連携合同研修会の実施
４月 18 日（木）14 名　12 月２日（月）16 名　２月 21 日（金）15 名
・今年度の潟上市「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」の説明
小規模保育施設と連携園で、今年度の連携計画を作成する。

ウ　相互保育参観の実施
・連携する園で相互に保育参観をし、
保育内容の情報交換や情報共有を図る。

エ　園児の交流の実施
・連携する園で、子どもたちの実態や職員間の話合いを基に、子どもの交流する場を設定する。

○就園連携合同研修会では、市内全就学前施設の園長が参集し、今年度の「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」内容を確認したり、連携計画を作成したりした。事業に対する理解や市の方針、今後の取組について共通理解を得ることができた。
○相互保育参観や園児の交流については、各園でアイデアを出し合いながら実践している。連携園からの提案に沿って交流するだけでなく、小規模保育施設と連携園の担当者が内容を話し合い、子どもたちが関わりながら準備し交流することで、互いの子どもの意欲を高めた取組も見られた。幼保小連携における子どもの交流活動の変化(ねらいの共有、子どもの実態や声を生かした内容、職員の話合いの充実)や職員の意識の変容が、就園連携にもよい影響を与えていると思われる。
△就園連携合同研修会については、今後も子育て応援課と教育総務課が連携して両課でサポー

トはするものの、徐々に運営のリーダーシップを連携園の管理職に担ってもらう方向で進めていきたい。

⑤保護者支援と子育て支援

ア　潟上市「子育て支援　にこにこ広場」

目的：様々な悩みや不安を抱えながら子育てをしている保護者へ、専門家の講話等をとおして、乳幼児期の発達や子育てで大切にしたいことなどを伝え、子育て・保護者支援につなげる。

日時：令和６年５月 23 日（木）

参加者：出戸こども園３～５歳児保護者
　　就学前施設職員(管理職) ５名

場所：出戸こども園　ホール

内容：講話「どう過ごされていますか？子どもの『はじめの１００か月』」

講師：聖園学園短期大学　教授　蛭田　一美　氏

イ　保育実践研修会①　（３)①ア　参照

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

小学校教育との円滑な接続に向けて

①架け橋カリキュラム担当者連絡会の実施

目的：幼児期及び幼保小接続期（架け橋期）の教育の質的向上をめざし、幼保小の育ちと学びの円滑な接続の在り方について、相互理解を深めるとともに、今年度の架け橋カリキュラム作成・実践について確認する。

【市担当者からの説明】
今年度の重点やカリキュラム作成について説明し共通理解を図った。

期日：５月９日（木）

会場：潟上市役所　４階大会議室

参加者：小学校の管理職と１年生担任等　12 名
　　園の園長または主任と５歳児担任等　15 名

内容：市担当説明「育ちと学びをつなぐ幼保小の円滑な接続のために」
　　小学校区ごとのグループ協議
　　１年生の様子について
　　４月のカリキュラムの実践について
　　今年度の連携に係る取組について

②第１回就学前・小学校等潟上市合同研修会の実施

目的：市内における就学前教育と小学校教育との円滑な接続の在り方について、幼稚園・保育所・認定こども園等と小学校等の職員が相互理解を深めるとともに、各職員の資質向上を図る。

期日：７月 30 日（火）

会場：潟上市役所　４階大会議室

参加者：小学校の管理職と１年生担任等　12 名
　　園の園長または主任と５歳児担任等　15 名

内容：講話「育ちや学びをつなぐ幼保小の円滑な接続について」
　　講師　大館市教育委員会教育研究所　副主幹　山本　多鶴子　氏
　　小学校区ごとのグループ協議　架け橋カリキュラムⅠ期（小学校）の評価・改善

③第２回就学前・小学校等潟上市合同研修会の実施

目的：市内における就学前教育と小学校教育との円滑な接続の在り方について、幼稚園・保育所・認定こども園等と小学校等の職員が相互理解を深めるとともに、各職員の資質向上を図る。

期日：１月７日（火）

会場：潟上市役所　４階大会議室

参加者：小学校の管理職と１年生担任等　12 名

園の園長または主任と５歳児担任等　16 名
内容：講話「育ちや学びをつなぐ幼保小の円滑な接続について」
講師　大館市立桂城小学校　校長　浅野　直子　氏
小学校区ごとのグループ協議　架け橋カリキュラムⅠ期（園）の評価・改善

④架け橋カリキュラム作成プロジェクト委員会の実施

期日：２月 28 日（金）
会場：潟上市役所　２階第１第２会議室
参加者：有識者(潟上市教育委員会教育長職務代理者)
福祉保健部子育て応援課施設運営支援班課長補佐兼班長
小学校校長　小学校教頭　小学校１年担任
園長　園主任　５歳児担任
教育委員会教育総務課指導主事
教育・保育アドバイザー
内容：（報告）架け橋カリキュラムの作成・実践の進捗状況及び検証結果について
（協議）「架け橋カリキュラムを教育・保育の質の向上につなげるためには」

【架け橋カリキュラム作成プロジェクト委員会】
令和６年度の取組の報告と協議を行った。

⑤就学前教育施設と小学校との円滑な接続のための支援

ア　小学校区連絡協議会
５月 24 日　東湖小学校・天王こども園
６月　３日　２月 27 日　追分小学校・追分保育園・・出戸こども園・追分幼稚園
６月　４日　２月 14 日　出戸小学校・出戸こども園・でと保育園
６月　４日　３月５日　天王小学校・天王こども園（３月５日は、東湖小学校も参加）
６月　７日　２月 26 日　大豊小学校・昭和こども園
６月 19 日　２月 26 日　飯田川小学校・若竹幼児教育センター

イ　相互職場体験
７月　９日　出戸小学校
７月 18 日　東湖小学校
７月 19 日、８月１日　天王こども園
８月　１日　追分保育園
８月　７日　昭和こども園
８月 20 日　若竹幼児教育センター
８月 27 日　天王小学校
９月　３日　追分小学校
９月 17 日　出戸こども園
10 月　１日　大豊小学校
11 月８日　飯田川小学校

【小学校での職場体験】
校長からの説明を受けながら、６年生の授業参観。

※園での職場体験では、園長によるオリエンテーション、０歳児～４歳児の保育参観を体験内容に含むこととした。
※小学校の職場体験では、２年生～６年生の授業参観、生活科の授業を体験内容に含むこととした。

ウ　年度初めの小学校訪問・情報交換会及び小学校区連絡協議会
・架け橋カリキュラムⅠ(小学校)やスタートカリキュラムの実践状況や今後の取組についても話題とした。

【園児・児童の交流活動】
１年生と５歳児の混合チームによるリレー。肩を組んでの作戦タイム。

エ　園児・児童の交流
・事前打ち合わせを実施し、互恵性のある交流活動が増えてきている。その場限りの交流ではなく、生活科の指導計画や園の活動計画の中に幼保小交流を組み込む実践もあった。
・交流活動の中に、子どもたちが、考えたり話し合ったりする場を設定することが増加している。

オ　保護者・地域への発信

・架け橋プログラムや幼保小連携、遊びを通した学び等について、学校だよりや学年だより、ドキュメンテーション等により保護者や地域に発信する園や小学校が増えてきている。

⑥架け橋カリキュラム作成・実践推進のために

ア　架け橋カリキュラム担当者連絡会　5月9日（木）　（4）①参照

イ　第1回就学前・小学校等潟上市合同研修会7月30日（月）　（4）②参照

ウ　各学校区での話合い(架け橋カリキュラムⅡ期について)　10月～12月

エ　市指導主事、教育・保育アドバイザーによる研修会参加　11月1日（金）

大館市立桂城小学校参観

市指導主事、教育・保育アドバイザー

オ　架け橋プロジェクトモデル地区大館市訪問　11月18日（月）

大館市教育研究所副主幹、アドバイザーとの協議

市指導主事、教育・保育アドバイザー

カ　架け橋プログラム市町村訪問　12月9日（月）

キ　第2回就学前・小学校等潟上市合同研修会　1月7日（火）　（4）③参照

ク　架け橋プロジェクトモデル地区大館市架け橋カリキュラム開発会議傍聴　1月17日（金）

市指導主事、教育・保育アドバイザー

ケ　大館市立釈迦内小学校授業参観　1月21日(火)

市指導主事、教育・保育アドバイザー

コ　架け橋プログラムプロジェクト委員会　2月28日(金)　（4）④参照

サ　各学校区での話合い(架け橋カリキュラムⅠ期・Ⅱ期、スタートカリキュラムについて)

1月～2月

⑦特別支援教育の視点からの幼保小連携について

ア　年度初めの小学校訪問・情報交換会

1年生授業参観と情報交換、就学支援事業説明を行った。

参加者：管理職、1年生担任、特別支援教育コーディネーター、特別支援学級担任等

市指導主事、教育支援アドバイザー、教育・保育アドバイザー

4月17日　出戸小学校

4月25日　大豊小学校

4月30日　追分小学校

5月　1日　天王小学校

5月　2日　東湖小学校

5月22日　飯田川小学校

イ　幼保小中の連携による切れ目ない支援体制の構築

ア）特別支援教育コーディネーター連絡協議会

目的：・特別支援教育コーディネーターの役割を自覚し、支援を要する児童生徒の多様な教育的ニーズに応じた適切な支援について協議することで、校園内の特別支援教育の充実を図る。

・市の特別支援教育の現状を共有し、幼保小中の連携を図り、切れ目ない支援体制の充実を図る。

日時：令和6年5月31日（金）

参加者：就学前施設職員16名　小中学校職員13名

場所：潟上市役所4階大会議室

内容：講話・演習「特別支援教育コーディネーターの役割について」

講師：能代市教育委員会　特別支援教育統括コーディネーター　加賀谷　勝　氏

イ）支援員研修会

目的：市内就学前施設で支援を担当する保育士・保育補助と小・中学校に配置されている生活支援員に対して、役割や適切な支援の在り方等に関する研修を行うことにより、特別な支援が必要な子どもに対する支援の充実を図る。
日時：令和６年９月４日（水）
就学前施設職員：16名　　小中学校支援員23名
場所：潟上市役所４階大会議室
内容：講話「特別な教育的支援が必要な子どもの理解と対応について」
講師：秋田県教育庁中央教育事務所　指導主事　髙橋　基裕　氏

ウ）特別支援地区別連絡会
８月 21 日　天王南中学区
８月 22 日　天王中学区・羽城中学区
各小・中（管理職１名・特別支援コーディネーター１名）
各園長が出席し、特別な支援を要する子どもについて情報を共有する。

ウ　幼児通級教室（５歳児相談サポート事業）
市教育支援アドバイザーが園を訪問し、１回 30 分程度の活動を行う。
公立５園で実施。（17 名）

エ　関係機関と連携したケース会議の計画的な実施
公立５園では、特別支援学校地域支援部と連携し、教育専門監を招聘しての年２回のケース会議を特別支援教育年間計画に位置付けた。指導助言を日常の保育や保護者との関係構築、就学指導に生かしている。

オ　部局間連携による事業の見直し・改善について
配慮を必要とする子どもの切れ目ない支援を行うために、子育て応援課健康支援班、施設運営支援班との連携を強化し、現在実施されている事業について見直しや改善を図った。
・９月５日　５歳児相談について

⑧架け橋プログラムに係るアンケートの実施
目的：市内における就学前教育と小学校教育との連携や接続の在り方について、幼稚園・保育所・認定こども園等と小学校等の職員にアンケートを実施し、実態や成果・課題を把握し、今後の取組に生かす。
期日：アンケートⅠ…８月　アンケートⅡ…１月
対象：小学校教頭、１年担任
園主任、５歳児担任

⑨幼保小連携だより「かたっこすまいる」の発行（月１回程度）
・「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」における研修や幼保小連携の取組、就学前教育と小学校教育の相互理解・連携のための情報提供等を掲載している。
・架け橋カリキュラムの作成・実践について、各学校区の取組を紹介している。
・潟上市の全就学前施設（15 施設）、全小学校（６校）、他市教育・保育アドバイザーに配付。

※小学校教育との円滑な接続全般の成果と課題について
○年度初めに架け橋カリキュラム担当者連絡会を実施し、幼保小の育ちと学びの円滑な接続の在り方について相互理解を図るとともに、今年度の架け橋カリキュラムの作成・実践について確認することができた。また、合同研修会①②において、架け橋カリキュラムの実践について評価したり改善案を話し合ったりすることができた。
○職場体験では、従来の５歳児や１年生での体験に加え、園での職場体験での園長によるオリエンテーション、０歳児～４歳児の保育参観、小学校の職場体験での２年生～６年生の授業参観、生活科の授業体験を実施した。子どもの育ちや学びのつながりをより実感したり理解したりすることができた。
○●授業参観や保育参観、相互職場体験、子どもの交流、事前打ち合わせ等を通して、幼保小の職員同士で話し合う機会が増え、子どもの育ちや学びについて理解が深まってきている。一方、小学校区により理解や取組に温度差が見られることが課題である。管理職に理解を求め

たり連携したりしながら、小学校区の実態や強みを生かした連携が図られるよう支援していきたい。

○架け橋カリキュラムの内容や進捗状況、幼保小交流の様子を担当者だけでなく全職員で共有する場を設ける園が増えてきている。

○△架け橋プログラムに係るアンケートを８月と１月に実施した。担任の意識の変容が少しずつ見られる反面、連携やカリキュラムの実践等、学校区の抱えている課題やカリキュラム推進における悩みも明らかになった。今後も、架け橋カリキュラムの実践、スタートカリキュラムの改善、連携事業について、実態把握をしながら、学校区の話合いの過程を丁寧に支援していきたい。

【幼保小連携内容の共有】
５歳児担任が、１年生の授業参観の様子を説明し、園の全職員が共有。

○今年度の架け橋カリキュラム作成プロジェクト委員会は、委員に有識者と市福祉保健部職員を加えた。実施状況の検証とともに、様々な立場から事例や意見を出し合うことができた。

△互いの教育に理解を深め、架け橋期の教育の充実のためには、就学前施設の園長や小学校の校長の理解が不可欠である。園・学校全体での共通理解が図られるよう、園長会や校長会と連携や協力をしながら推進していきたい。

（５）「県との連携体制の充実」

○昨年度末に幼保推進課指導主事と次年度の研修計画等について話し合う場をもち、助言をいただいた。課題を明確化し、取組を具体化することができた。

① 県主催協議会への参加

・アドバイザー連絡協議会　４月 23 日　６月 25 日　８月 23 日　10 月 24 日　１月 23 日

○他市アドバイザーとの話合いや各地区の取組状況についての情報交換は、本市の取組の改善を図る上での参考となったり、園への関わり方のヒントになったりしている。

○他市アドバイザーとのネットワークができたことで、情報交換のみならず、本市の研修会に他市の協力を仰いだり参考資料のやり取りをしたりすることができ、研修の充実を図ることができた。

②県及び文部科学省主催研修会への参加

・架け橋プログラム説明会　４月 10 日
・架け橋プログラム研修会Ⅰ　４月 23 日
・園長等運営管理協議会　４月 26 日
・教頭・主任等研修会　５月 17 日
・就学前教育理解推進研究協議会Ⅰ　６月 13 日
・架け橋プログラム研修会Ⅱ　６月 21 日
・園長等運営管理協議会　８月 29 日
・就学前教育推進協議会　11 月 22 日
・令和４～６年度幼保小の架け橋プログラム事業成果報告会　２月 10 日
・就学前教育理解推進研究協議会Ⅱ　１月 30 日

○教育・保育内容の理解を深めたり、園訪問のアドバイスの参考にしたりすることができた。

○△架け橋プログラムに係る研修会の小学校職員の視聴が増えてきている。今後も校長会を通じて広報し、研修内容や先進的な実践を幼保小で共有していきたい。

③県教育・保育アドバイザーによる支援訪問

・昭和こども園　10 月 18 日

○園への関わり方や支援の仕方、研修会の進め方の他、多岐にわたる疑問や悩みについても指導・助言していただけることは、大変ありがたい。園の課題解決や助言、公開研究会の運営に生かすことができている。

○子どもの育ちや保育者の具体的な姿から、保育者のよさや課題、さらなる保育力向上のためのヒントやアドバイザーの関わり方を懇切丁寧にご指導いただいた。直近の園訪問だけでなく、長期的な視点や潟上市全体を見据えての関わり方も考える機会になった。

④県指導主事計画訪問・要請訪問への同行

・天王こども園　　7月11日
・追分保育園　　7月26日
・出戸こども園　　9月20日
・昭和こども園　　10月８日
・若竹幼児教育センター　10月11日

○計画訪問・要請訪問での園・保育者への指導・助言から、保育の見方や園の課題、課題解決に向けての支援の方法を学ぶことができた。訪問での指導助言を、その後の園訪問で確認したり話合いに生かしたりしている。指導内容を園と一緒に考え、保育者の意欲や具体的な改善に結びつくようにしていきたい。

⑤他市町村アドバイザーに学ぶ研修会

・にかほ市つぼみ保育園参観　　9月19日
・大仙市大曲中央こども園参観　　10月15日
・潟上市追分保育園　　11月21日

○各地区のアドバイザーの実践を参観したり、参考になる意見や具体的実践を聞いたりすることができた。特に、子どもの遊びの姿をとおして、保育者の関わりや園内研修、管理職の園運営について協議できたことは有意義だった。

⑥架け橋プログラム市町村訪問

・潟上市架け橋プログラム市町村訪問　12月９日

○架け橋プログラムに関わる本市の課題や悩みについて、事例を交えながらのアドバイスしていただいた。具体的な指導・助言を１月以降に取り入れるとともに、来年度の事業の改善に生かし、架け橋プログラムの一層の充実を図っていきたい。

３　わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業（令和６年度）の成果と課題

○幼保小連携についての職員の意識の向上
・「園での育ちや学びを小学校の学びへつなげる意識」の醸成
・相互教育・保育参観や接続期カリキュラム作成に係る協議等を通しての職員間の相互理解の高まり
・子ども同士の交流活動の充実（事前・事後の話合い。相互の「めあて」の共有、「１０の姿」を視点にした子どもの育ちの見取り」

○園内研修の充実と職員の意識の向上（幼児教育アドバイザーの助言・支援等による）
・園の実態や、職員の希望を活かした研修内容の工夫
・研修をとおして、主体的に「学び合い」「高め合う」職員の姿や、「保育や子どもの姿」を伝え合う力が育ってきている。

○架け橋期のカリキュラムの作成・実践
・「園の学びを小学校の学びに生かす」ことを意識して「生活科」や「図画工作科」などの質的向上が見られている学校も出てきている。また、園では小学校との交流によって５歳児の「遊び」や「異年齢交流」の充実が見られ、その変化が３歳児・４歳児の遊びにもよい影響を及ぼしている園も見られてきている。

○小規模保育施設と公立園との連携体制の構築（縦のつながり・横のつながり）
（縦のつながり）
・小規模保育施設と公立園との連携（互恵性のある子ども同士の交流、職員交流）
・０歳～５歳までの切れ目ない支援につながる連携
（横のつながり）

・小規模園同士の連携や情報交換、日常的な子ども同士の交流や、職員の研修への活発な参加
●△架け橋期のカリキュラムの実践・評価・改善をとおしての保育改善・授業改善の推進
●△幼保小連携の推進の要となる小学校の管理職の意識の向上と全職員の共通理解に基づく校内体制づくり
△保護者や地域との架け橋期の共有

実施市町村の具体的取組（仙北市）

１　教育・保育の現状と課題

（１）日々の保育を参観して保育への助言を意識したいと考えているが、事務的業務に追われて保育者への寄り添いがうまくまわっていないと反省する管理職が多い。園内で保育者の質の向上に向けてどのような取り組みをしていくべきかが課題の一つである。また、育児休暇明けの０歳児の途中入園希望者や、個別での関わりが必要な子が増えてきている現状の中で、人員体制も大きな課題である。

（２）幼小連携に関しては、隣接している学区の中で子ども達を軸にした交流はできているが、保育や授業参観後の協議への参加は、まだ充分とは言いがたい現状にある。子どもの情報共有だけでなく、それぞれの発達段階における子どもの具体的な姿や、小学校へつながる学びについて子どもの育ちの協議ができるように教育委員会と連携を図りながら体制作りをしていきたい。

２　令和６年度の目的、重点、実践内容

【目的】

令和元年度からの３年間の事業取り組みからスッテプアップし、下記の３点を目標として取組む

①幼小接続連携のための小・中学校訪問同行、仙北市合同研修会の日程・内容等を進めるために教育委員会とのこれまで以上の連携体制強化

②育ちや学びのつながりを意識したスタートカリキュラムの作成（幼小接続における連携体制の強化）

③副園長がアドバイザー的業務を担えるように、ミドルリーダーとしての育成を図る

・教育・保育の質と専門性の向上

県と連携した教育・保育アドバイザーの育成、就学前施設への事業内容周知、及び教育・保育アドバイザーによる園内研修の支援、研修を継続して実施する。

「求められる教育・保育の在り方」を園の課題に沿って検討しながら、現在の取り組み状況を踏まえた検討を重ねる。

・幼小連携の強化

当市の教育理念「未来に向けた人材育成するための教育」を目標とした「幼児教育と小学校教育との円滑な接続」を推進し、子どもの育ちと学びの相互理解を基盤とした取組の充実を図る。

【重点】

育みたい資質・能力を視点に幼保小架け橋プログラム作成の実施に取り組む。

遊びの中の育ちや学びを園から小学校へつないでいけるような協議ができる体制の構築に努める。

【実施内容】

１　教育・保育アドバイザーによる園の支援

（１）事業の成果と課題を分析する

・定期的な訪問による園内研修支援

・園内研修支援（園の研修内容等への助言）

（園内研修の課題、見直し、改善への助言）
・保育支援（指導計画作成、保育実践、保育の振り返り等への助言）
・幼児期の終わりまでに育ってほしい「１０の姿」、乳幼児期に育みたい資質能力を視点にした保育の振り返りを実践する（継続）
・指導計画作成支援、実践の振り返りから「子どもの姿」「保育者の援助」「環境の構成」を考える。（継続）
また、初めて指導案を作成する保育者の振り返りを通して支援の仕方を工夫して関わっていくように努める。
・園、保育者個人からの相談への対応（細やかな対応継続）
・特別支援への対応

２　専門性の向上のための研修の充実

（１）職員の専門性の向上のための研修の充実と地域で学び合う体制づくりを強化する

・園や保育者の課題に応じた研修会の実施
・園内研修の充実に向けての研修会（ニーズ、内容を検討して実施）
・公開保育（小学校、他園からの参加を呼びかけ学び合う体制作りをする）
・男性保育士等、保育補助者研修会開催
・キャリアステージに応じた研修等による人材育成
・園長、副園長等の研修会（ニーズに合わせて実施）
・他園の保育者に学ぶ（実技、読み聞かせ、情報交換等）
・保護者支援研修会

３　小学校教育との円滑な接続に向けた研修の充実

（１）部局間連携（教育委員会教育総務課・北浦教育文化研究所と子育て推進課）

・教育委員学校訪問に園長等も同行できるように調整を図る（継続）
（小学校だけの訪問から中学校訪問も同行できるように調整を図る）
・学区（園・小学校）の情報交換時に参加
（園、小の年間交流計画、子どもの情報共有等）
・小学校との円滑な接続に向けた合同研修会の開催（公開研究会を開催）
学び合う体制づくり、園・小学校への周知活動
・幼小連携に関する研修会（継続実施）
仙北市合同研修会（園の公開保育を通して園と小学校の教諭等で子どもの育ちを話し合う）
・小学校指導主事訪問、園指導主事訪問時の参加を推進

４　県との連携体制を活用した教育・保育アドバイザーの育成

・県の幼児教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会へ参加
・南教育事務所指導主事や県教育・保育アドバイザー、他市アドバイザーとの相互研修、情報共有
・指導主事訪問に同行する

（１）部局間連携による教育・保育推進体制の充実

○令和６年度第１回仙北市幼保小連携委員会（KNP ブリッジ）
R6.4 月 26 日（金）
参加者（小学校長、園長、子育て推進課、北浦教育文化研究所長）
・仙北市の幼保小連携状況について　説明（子育て推進課）
・仙北市幼保小架け橋プログラムについて　趣旨説明（教育員会：北浦教育文化研究所長）
・情報交換等（小学校区）
※KNP（キラキラ・ノビノビ・ピンピンな子どもを幼保小で育てる架け橋）
R7.2 月 17 日第２回仙北市幼保小連携委員会（KNP ブリッジ）
○仙北市幼保小架け橋プログラム作成について
教育委員会：北浦教育文化研究所長・アドバイザーで全小学校、園に周知のために訪問する。
R6.5 月　7 日（火）（小学校 5・園 2）に周知
R6.5 月　9 日（木）（小学校 1・園 3）に周知

R6.5月10日（金）　（園3）に周知

○仙北市幼保小架け橋プログラム作成委員会
第１回作成委員会　令和６年８月２０日（火）
開発会議①
・市の重点に係る育みたい資質・能力の決定
・仙北市架け橋期共通カリキュラム（試行版）作成
合同会議①
・各小学校区の子どもの実態を踏まえた育みたい資質・能力の決定
第２回作成委員会　令和７年１月８日（水）
開発会議②
・仙北市架け橋期共通カリキュラム（試行版）の修正等
合同会議②
・各小学校区架け橋期共通カリキュラム（試行版）作成
・仙北市合同研修会（学区で重点にしたいこと）の協議資料を参考にしながら協議決定する
・各小学校区の連携計画の作成をする

仙北市のカリキュラム作成の基本コンセプトについて（確認）
＜作成の目的＞
・架け橋期に子ども一人一人の学びや育ちをつなぎ、それを生かした指導をする。
今回作成するカリキュラムの実施により、子ども一人一人が自己発揮し、諸活動に意欲的・主体的に取り組み、自ら生きる力をつけていく姿勢を養うことを目指したい。
＜内容について＞
・園、小学校が自分たちのものとして実践し、いつでも改善できるようにしたい。

○教育委員会主催　　学校訪問に同行する。

R6.6月24日(月)	生保内小学校	だしのこ園副園長 保育教諭	教育委員会・教育委員 教育・保育アドバイザー
	生保内中学校	だしのこ園園長	
	神代中学校	神代こども園副園長	
R6.７月２日（火）	西明寺小学校	にこにここども園園長 ５歳児担任	教育委員会・教育委員 教育・保育アドバイザー
R6.７月８日（月）	白岩小学校	白岩小百合保育園 副園長・保育士	教育委員会・教育委員 教育・保育アドバイザー
	角館小学校	白岩小百合保育園園長 神代こども園副園長 角館こども園副園長 保育教諭 角館西保育園副園長 ５歳児担任 中川保育園保育士	教育委員会・教育委員 子育て推進課課長 教育・保育アドバイザー

	角館中学校	白岩小百合保育園園長 角館こども園園長 角館西保育園園長 中川保育園副園長	教育委員会・教育委員 教育・保育アドバイザー
R6. 7月9日(火)	西明寺中学校 神代小学校 桧木内小学校 桧木内中学校	にこにここども園園長 神代こども園園長 ５歳児担任 ひのきないこども園 園長・５歳児担任 ひのきないこども園 園長	教育委員会・教育委員 教育・保育アドバイザー

△教育員会主催の仙北市教育研究大会が小・中の研究テーマに園も一緒に取り組んでいくことを見据え、中学校への同行をお願いした。
中学校の授業や子ども達の実態を通して、仙北市のスクールビジョンにおいても校種を超えた連携を考えていく体制が必要と思われる。

R6.8月20日（火） 第１回仙北市幼保小架け橋プログラム作成委員会

〇幼保小架け橋プログラムについて作成委員会の作業内容等事前に園や小学校訪問を通して周知したり、紙面を通して知らせていたりしたことで進め方や会の趣旨が委員にも伝わり、今後、園と小学校で話合いの中で進めていくことの理解を得ることができた。

〇園の年間計画は、毎年見直して進めているが改めて５歳児の４期を見直すと全学年のつながりや発達に応じた経験が書き表されているか改めて考えるきっかけになった。

＜目指す子どもの育成に向けての話合い＞

〇小学校側では管理職が委員になったため、１年生の入学時を考えると管理職同士で話し合うと高いレベルで捉えていることもあるのではないかという声が聞かれた。園と小学校で子どもの実態を話し合いながら、小学校区で育てていきたい力を明確にしていくことが大事なことと思う。

R6.11月8日（金）仙北市教育研究会研究大会　（教育員会主催）

会場：仙北市立西明寺中学校
仙北市立西明寺小学校
テーマ：「問い」を発する子どもの育成
思考を広げ、深めることのできる言語活動の工夫

参加者143名（園7名、小学校71名、中65名）

〇授業にICTが導入され、生徒の意見がすぐに教師のパソコンに反映され授業を進めることに大きな効果があることがわかった。生徒同士も違う考えにふれることができる良さが理解できた。
自分の意見を口頭で伝えることで、より明確に伝わると思うが口頭で発表することが苦手な生徒の表現方法としては有効的な方法のひとつであると思われる。
しかし、教師側もITCだけに頼らず生徒自身がどんな状況であれ自分の考えや思いが話せる環 境を工夫していくことの大事さを感じた。

△来年度、園を教育委員会の組織に位置付けることは、研究会の持ち方やテーマ等教育員会との連

携の中での話合いの必要性があり、園・小・中学校にしっかりと周知していかなければならないと考える。

R7.1 月 8 日（水） 第２回仙北市幼保小架け橋プログラム作成委員会

○10 月に行われた合同研修会での学区の話合いの資料も参考にしながら委員だけでなく、より多くの意見を踏まえて学区の目標を決定していくことで、より効果が得られると実感した

（２）「教育・保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

◇令和６年度アドバイザーによる巡回訪問・指導に関する具体的な目標（仙北市）

⑥派遣目標　計　　施設／全 21 施設　179 回	
回数	・保育園：公立　３園（34 回） ・幼保連携型認定こども園：　私立　５園（100 回） ・その他の施設：（事業所内保育施設２か所（0 回） ・小学校：６校（39 回）・中学校：５校（6 回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、８園　(23 回) ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、８園　(23 回) ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、８園　(14 回) ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）　（目標のうち、８園　(33 回) ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）　（目標のうち、11 園　(14 回) ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、８園　(8 回) ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）　（目標のうち、６校　(76 回) ・特別支援（特別支援に関する相談、面談等）　（目標のうち、８園　(22 回) ・その他（上記に分類できないもの）　（目標のうち、８園　(10 回)
理由	・園内研修は事前の準備、当日、事後の振り返りに入り園内研修で深めたいポイントを探るとともに振り返りの時間を保育者達と大事にしていく。 ・保育者等への指導を管理職からの実態把握で園のニーズに合わせて支援を考え、一人一人の保育の質の向上に努める。 ・小学校区の幼小連携の会議に AD も出席できるように努めていく。学区ごとの連携の話し合いが子ども姿の情報のみでなく、子どもの育ちの話し合いになるような提示等をしていきたい。 ・仙北市の研修会で学んだ内容がいかされている良さや課題を吟味し、保育者が主体的にやってみたいと思うように研修内容を工夫していく。

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

令和 6 年 5 月 15 日（水） 乳幼児保育研修会①

目的：乳幼児の発達の特性を学び、講義・演習を通して日々の保育に活かせるようにする。

講師　秋田県教育庁推進課

幼保指導員　阿部　真理　氏

参加者（17 名） 保育士、保育教諭等 15 名、こども家庭センター2 名

＜参加者：アンケートから＞

・三つの視点を意識しながら子どもの姿を見ていくことで育ちの読み取りが深まり、環境の構成や保育者の関わりも変わってくることが演習を通してわかった。乳児にとって全ての出会いが心地よいものとなるためにも教材研究が大事なことであると学んだ。
子ども達にはいろいろな出会いがあることを考えると、身近な環境を意識していくことも大事にしたい。

・子どものありのままの姿を自分の想像で捉えがちだということに気づかされた。
「～であろう」と想像しながら見る中で、大事な事実をたくさん見落としていたと思う。
子どもの姿を「見る」・「見取る」という大切さを考えさせられた研修だった。

・ねらいからはずれた名前のつかない遊びの見取りに考えさせられた。

子どもが「したい遊び」より「させたい遊び」への関りが多くなっていたので、子どもが遊びの中で何を経験して学んでいるのか見ることの大事さを意識していきたい。

〇講義の中で子どもの一つ一つの行動や表情、言葉からひも解いていくと本当におもしろく、普段の保育の中での「見る」ことや「捉える」ことが楽しみになったという保育に前向きな意欲を感じたことは大きな成果であった。

〇研修参加者の初めての試みとして、０～２歳児を初めて受け持ちになる保育者や、０・1 歳児を担当することがない男性保育士等の参加を募った。
男性保育士等においては、特に０、1 歳児の姿や行動を読み取りながら、保育を考える貴重な時間になったと思われる。

●動画を見取る演習では、遊びの場面や子どもの行動に動画の保育者はどのように関わっていったらいいのかという視点が強く、子どもの姿を事実として捉え、何を経験したり、どんな学びになったりしているのかということを見取ることが弱いと感じた。

＜グループごとに工夫された発表＞

△講師への質疑応答の時間が参加者に好評であった。
他の保育者の質問を自分事として受け止め、講師の助言を受け持ちの子に重ねて捉えてくれた参加者が多かった。
これまではアンケート用紙に感想や質問等を記載してもらっていたが、直に講師からの助言が聞けることは保育を考えるうえで貴重な時間になると思えた。研修会での質疑応答の時間を検討したいと思った。

令和 6 年 5 月 22 日（水）　仙北市保育研修会（男性保育士等）
参加者（5 名）
・各自の指導案を持ち寄り、指導案からの読み取りや現在の子どもの姿を話し合う。

〇指導案作成の時にどんなところを悩んだり、困り感を持ったりするのかを話し合うことができた。他園の様式や記載の仕方を見ていろいろな書き方があることを知り、保育のイメージの表し方が広がったと思われた。

△園訪問を通して管理職に伝えたり、保育者と話し合ったりしながら保育の思いを引き出していくことを工夫していく。

令和 6 年 5 月 24 日（金）　ファシリテーター研修会

目的：園内研修（研究）の考え方や進め方を学び、保育者の資質の向上を高める。

講師　秋田県教育庁南教育事務所
主任指導主事　佐藤伸剛　氏
指導主事　戸部俊和　氏

参加者（14 名）副園長 2 名、保育士・保育教諭 12 名

＜参加者：レポートから＞

・今までは園内研修で自分の意見を出すことで精一杯だったが、今回学んだ進め方を意識して参加しようと思った。
園内の話し合いでは、実際の保育参観からの課題をどのように次回の保育につなげていくのか自分自身も学んでいく必要があると感じた。

・ファシリテーターとして多方面からの意見や課題を参加者全員がプラスに捉えられるよう意識しながら進めることで、良い雰囲気の中で子どもの更なる成長へつながるような協議にしていきたい。

・ゴールが見えなかったり話し合いが思うように深まらなかったりして困ってしまうことが多かった。
今回の研修では協議前の準備が大切なことや、困ったときは周りの意見を聞いたり助けてもらったりしながら進めていけばよいということを学んだので一人でなんとかしようとせず、周りの力を借

りながら進め学びを深められる協議ができるようにしていきたい。
〇ファシリテーターの役割を理解し、学んだ参加者が多かった。ファシリテーターは、自分だけでなんとかしなければいけないという気持ちが強かったが、困った時はみんなから意見を出してもらいながら進めるという前向きな気持ちを実感できたようだ。
●ファシリテーターと記録者は協議前に話し合いのゴールを予想して進めているが、協議が始まると参加者一人一人の話の時間が長くなったり、方向性を確認したりして進めていくことが難しくなっている時がある。
付箋に書いた説明の時間を設定したり、要点をまとめたりしながら話すことを参加者にも意識づけることが必要と考える。
△園内研修では、子どもの語り合いのひとつとしてKJ法が多く使われるようになった。
職員みんながKJ法のやりかたを覚えることで話し合いも深まるという声があり、アドバイザーが演習の仕方を各園に伝えていきたいと思う。

令和６年５月30日（木）指導計画作成①
目的：指導案作成についての講義や演習を通して学びを深め、保育の質の向上を図る。
講師　秋田県教育庁南教育事務所
主任指導主事　佐藤伸剛　氏
参加者（13名）副園長１名、保育士、保育教諭12名
＜参加者：レポートから＞
・保育者が楽しい、うれしい、気づき、発見を子どもたちと遊びの中で繰り返し実感し、日々わくわく感を持って子どもと向き合い遊びを楽しんでいきたい。そこから感じ取った姿をこまめに記録に残し変容、評価、反省をしっかりと捉えていきたい。
・ペアを組み今の子どもの姿について対話をしてみると、自分一人では気づかなかった子どもの姿の変容とその背景を分析することができた。このことから子どもの姿を様々な視点から見ることや保育者自身が育みたいことを見極めることが大切だと感じた。
〇指導計画を立てる時に何に悩んでいたのか、講義を通して明確になった部分があった。今後の指導計画作成につながるヒントになった。
〇自分が作成した指導計画に質問してもらう演習は、自分では捉えることができなかった部分を見つけ出したり、保育の意図について他の保育者に説明することができたりすることで手立てや援助を考える時に有効的であった。
△子どもの育ちをどのように記録に残していくか、まずは保育者自身がいろいろな視点から書き表して作成してみることが必要と思われた。
（年齢に応じて自分達が書きやすいように週案、個別の様式を考え、そのうえで指導計画の用紙を検討してみることも大事なことであると思う）

令和６年５月30日（木）指導計画作成②
目的：指導案作成についての講義や演習を通して学びを深め、保育の質の向上を図る。
講師　秋田県教育庁南教育事務所
主任指導主事　佐藤伸剛　氏
参加者（１４名）園長５名、副園長７名、主査保育教諭２名
・同じ研修を現場の保育教諭と学び共通理解することで、今後の指導計画作成の向上に直につながっていくと感じた。保育者の意図と願いを保育の場に出向き、一緒に考え保育者の良さを十分認めながら子どもの育ちに直接つながる指導計画作成を目指したい。
・指導計画は、作成することが目的ではない。保育を支えるためのツールのひとつであるということを今回の研修で学んだ。指導計画を見る立場になって、指導しなければという思いで作成重視であったことを反省した。
〇管理職の立場から、指導計画を見直し保育の実践、振り返り、改善を園運営に活かしていきたい思いを感じ取ることができた。
△保育者同士が話しやすい環境つくり、保育者一人一人が自己発揮しながら保育を実践してほしい等、管理職の立場で考える園の課題等へのアドバイスを継続できるようにしていきたい。

令和６年６月 10 日（月）仙北市保育研修会（実技研修会）

講師　聖園学園短期大学
教授　内藤　祐子氏

参加者（14 名）保育士、保育教諭

＜参加者：アンケートから＞

・失敗しても大丈夫と笑顔で寄り添ってくださり、緊張がほぐれたり、ゲームを楽しんだりすることができたので保育の中でとても大事なことだと気づかされた。

・間違うことがおもしろいと感じられるようなゲームを通して、一人一人が「できる」ではなく「やってみよう」と思えるような気持ちを育んでいくことの大切さを感じ、普段の遊びや生活でも意識して保育をしていきたいと思った。

△失敗しても大丈夫。失敗するからおもしろい。あなたの失敗が〇〇につながっていくよというポジティブな保育者の接し方で、子どもの安心感が育まれていくと思う。子どもが安心して自分がやりたいことができることや、遊びの中で発した言葉が大事に受け止められることで子どもの意欲につながっていくことも大きいと思われるので「保育者の援助」として一緒に考えていきたいと思う。

令和６年６月 28 日（金）乳幼児保育研修会②

講師　秋田県教育庁幼保推進課
幼保指導員　　阿部　真理　氏

参加者（２０名）園長６名：大仙市２名、副園長８名、保育士等４名

＜参加者：アンケートから＞

・具体的な事例からの演習があり他園の先生達と話しをすることで、更にいろいろな見方ができて意識が変わっていくと思った。演習の準備や資料がわかりやすく、大変参考になると思う。

・演習を通して「今の時期だから」「あのお母さんだから」「～の時間だから」とそのままにしたり当たり前のことのようにしたりしてしまうのではなくどうして今なのか、どんなことを経験してほしいのか園内でも考えていく必要性を感じた。

・遊びに対する援助や環境だけでなく、普段の園生活の中での関わりや言葉かけの大切さを改めて再確認することができた。自分の気持ちにもゆとりをもって子ども達と丁寧に関わっていきたい。

・休憩の時間に講師と話ができたことが楽しかった。講師と直接話ができる距離感がよかった。

〇大仙市と仙北市の研修会にお互いに参加できるよう、市の体制ができたことが大きな成果になった。グループ協議では他市の意見を聞くことができ参考になることが多かった。いろいろな立場から保育を見つめ直すことは大事なことであると実感した。

〇「夏の自然」という環境との出会わせ方、食育の視点で「生活の質」を見直す等自分なりに考えたり、園で当たり前にしてきたことをグループ協議から「当たり前」を考え直したりできる講師の言葉掛けは管理職の立場を改めて意識する演習になった。

△アドバイザーが保育者のニーズに応え研修会を企画する中、今後他市とも学び合える体制づくりが構築できるよう関わっていきたいと思う。

令和６年７月 18 日（木）仙北市保育研修会
目的：事例を通して乳幼児の内面理解を学ぶ

講師　聖園学園短期大学
教授　蛭田　一美　氏

参加者（14 名）仙北市１２名、大仙市 14 名

＜参加者：アンケートから＞

・蛭田先生の講義をとても嬉しく楽しみにしていた。目の前の子どもを「心の中はどうなっているのだろう」と見ていく大切さを自身の経験に頼らず、様々な研究のデータや政策について知り知識を持つことも大事であることを感じた。

（大仙市保育士等）

・大仙市と仙北市の保育士がお互いの研修に参加できるよう

＜子どもの姿、どう見る？＞

に機会を設けられたということで仙北市の保育士と話をする機会があり貴重な時間になった。研修の幅や学びの場が広がったことは、自分自身や園全体のスキルアップにつながるチャンスがあるのだと思った。学ぶことを楽しみ、保育現場で活かしていきたいと思う。

令和６年７月 29 日（月）仙北市保育研修会（機中八策を学ぶ）
目的:機中八策の講義や演習を通して学びを深め、保護者支援の向上を図る。
講師　仙北市こども家庭センター
千葉　暁子　氏
藤田　麻子　氏
参加者（名）仙北市 11 名、大仙市９名、子ども家庭センター2 名

＜参加者：アンケートから＞
・一見、マイナスに捉えてしまうような場面でも冷静になって伝え、褒めることが大事なことであると学んだ。
子どもの好きなこと、喜ぶことを把握しておくということは、保育でも同じことであると思うので、一人一人を捉えながら褒めて成功体験を積み重ねていくことを意識していきたいと思う。

＜事例を通して、言葉かけを考える＞

（大仙市）
・機中八策という言葉を初めて知ったが、内容を詳しく研修することができて大変勉強になった。
子どもの良い行動も悪い行動も子どもなりの理由があり、子どもと向き合うことでその理由が見え、子どもを知ろうとすることが大切ということを再確認できた。保育の中で意識していきたいと思う。

令和６年９月 10 日（火）仙北市保育研修会（男性保育士等）
参加者５名
・公開保育の指導案を見て、保育者の思いを聞いたり、意図して保育していることを聞いたりする。

大仙市研修会に参加
令和６年度　就学前・小学校大仙地区合同研修会
令和６年８月６日（火）

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」
地区別幼小連絡会に参加する

令和６年４月 24 日（水）	仙北市立神代小学校　授業参観 神代こども園：副園長、５歳児担任
令和６年５月 14 日（火）	仙北市立角館小学校　授業参観 角館こども園、角館西保育園、中川保育園、白岩小百合保育園 神代こども園
令和６年５月 14 日（火）	仙北市立西明寺小学校 にこにここども園：副園長、５歳児担任、４歳児担任
令和６年７月２日（火）	仙北市立西明寺小学校・にこにここども園
令和６年 11 月７日（木）	仙北市立西明寺小学校・にこにここども園（1 年・5 歳児交流）
令和６年 12 月２日（月）	仙北市立生保内小学校・だしのこ園（1 年・4,5 歳児交流）
令和７年１月９日（木）	仙北市立角館小学校・角館西保育園（小学校保育体験）
令和７年１月 28 日（火）	仙北市立角館小学校・角館西保育園・角館こども園
令和７年２月６日（木）	仙北市立角館小学校（入学説明会）５歳児・５年生交流
令和７年２月７日（金）	仙北市立神代小学校（入学説明会）５歳児・５年生交流
令和７年２月 12 日（水）	仙北市立生保内小学校（入学説明会）５歳児・５年生交流

令和７年３月３日(月)　　仙北市立生保内小学校・だしのこ園
令和７年３月５日（水）　仙北市立神代小学校・神代こども園
令和７年３月 19 日（水）仙北市立角館小学校・角館西保育園、白岩小百合保育園
角館こども園、中川保育園
令和７年３月 24 日（月）仙北市立西明寺小学校・にこにここども園
令和７年３月 26 日（水）仙北市立生保内小学校・だしのこ園

R6.10 月 16 日（水）仙北市合同研修会
参加者 143 名（園 28 名　小学校 17 名　教育関係者 10 名）
○園と小学校の先生で同じ保育の場面を見て子どもの姿や育ちを協議することを重点にしていたが、小学校の先生からは(子どもたちの遊びがたくさんあり、どの場面をみていいかわからない)(指導案には、たくさんの遊びのことが書かれており、小学校の指導案とは違うためどこを視点に保育を見れば良いかわからない)という感想があったことを踏まえ、今回は初の試みとして園と小学校の先生をペアにして当日の「ねらい」に沿った子どもの姿や保育の場面を伝えあった。
小学校の先生たちには、遊びの場での学びにつながる姿等を理解することができたと思う。
「ねらい」に沿った子どもの姿を小学校の先生に伝えることは、園側の保育者にとっては「ねらい」を理解しながら保育を語るというハードルがあがったと思われるがペアになり伝えている姿を見て、園の先生達も保育を見取る力をつけていると感じた。
○子どもの姿、育っている姿、これから就学した後に○○の姿につながっていくと良い、またこのようにいかされていくというつながりをもった協議ができたと思う。
●小学校の秋休みに合わせて合同研修会を開催しているが、小学校側から秋休みは貴重な休みであるという意見や協議時間が長いという声があった。園側からは、協議時間をもう少し長くしてほしいとの要望があり小学校や園での研修時間の違いが感じられた。
開催日や内容、時間等に関しては、今後検討していく課題の一つである。

・仙北市こども家庭センター主催
＜就学前児童に関する支援機関連携会議＞（教育委員会・保健課・子育て推進課・市内園）
5/2、5/9、10/31(勉強会)、2/5、2/6
・＜どれみの会＞仙北市で行う月２回の就学前児童の療育訓練事業
通年　　講師　宮川　貴子　氏
年３回（音楽療法）　講師　日沼　郁子　氏
5/17、12/4、1/21、2/7、2/21　(アドバイザー参加)

令和６年度教育専門監等による巡回相談

秋田県立大曲支援学校	教育専門監	大川　康弘　氏
秋田県立大曲支援せんぼく校	教諭	佐々木　奈織　氏
仙北市教育委員会北浦教育文化研究所	総合学習アドバイザー	小林　千春　氏

R6.８月２日（金）　にこにここども園
R6.８月 22 日（木）　角館こども園
R6.９月 17 日（金）　ひのきないこども園
R6.12 月 16 日（月）　にこにここども園
R7.１月 16 日（木）　角館こども園

（５）「県との連携体制の充実」
・令和６年度　教育・保育アドバイザー連絡協議会
4/23、6/25、8/23、10/24、１/23
・令和６年度架け橋プログラム研修会Ⅰ（4/23）

・園長等運営管理協議会Ⅰ(4/26)Ⅱ(8/29)
・就学前教育理解推進研究協議会Ⅰ（6/13）Ⅱ（1/30）
・新規採用者研修会(6/18)
・就学前・小学校等地区別合同研修会中央地区（7/30）
・就学前教育推進協議会（11/22）

・市町村アドバイザーに学ぶ研修会
R6 年 9 月 13 日（金）
はなさき仙北角館こども園（４歳児公開保育）
仙北市保育研修会（男性保育士等）
〇他市町村の AD から質問や感想を述べてもらったことが大変良い刺激になった。
〇男性保育士等で保育を参観し、保育者の関りや環境の構成、指導案作成について男性保育士等で話合えたことが貴重な時間と実感できたことや、研修会を主体的にやっていきたいという前向きな姿勢を感じた。

＜課題を自分に置き換えて話し合う＞

R6.10 月 8 日（火）大館市（大館市立扇田保育園）
R6.11 月 21 日（木）潟上市（潟上市立追分保育園）

・指導主事訪問に同行する。
要請訪問
R6.6 月 7 日（金）　中川保育園
R6.7 月 11 日（木）　角館西保育園　　他園 6 名
R6.9 月 18 日（水）　白岩小百合保育園　　他園 7 名 小学校 1 名

幼保連携型認定こども園訪問
R6.6 月 26 日（水）　角館こども園　　他園 10 名　小学校 1 名
R6.7 月 3 日（水）　だしのこ園　　他園 7 名　　小学校 5 名
R6.9 月 11 日（水）　ひのきないこども園　　他園 6 名
R6.10 月 30 日（水 ）神代こども園　　他園 5 名　小学校 2 名（協議参加 1 名）
R6.11 月 13 日（水）　にこにここども園　　他園 7 名 小学校 2 名（協議参加 1 名）
〇指導主事や幼保指導員の具体的な場面を捉えての助言は、アドバイザーとしてどのような支援をしていったらいいかを考えるきっかけになり、アドバイザーのスキルアップにつながっている。
〇小学校区では、保育参観後の協議参加にもつながり、園での子どもの姿を具体的に話し合うことにつながっている、また小学校から見た視点と合わせて園で考えることができることは大きな成果である。

３　わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業（令和６年度）の成果と課題
〇保育中の子どもの姿と保育者の関りを動画で撮影し動画の場面を通して保育者の関りや子どもの内面を話合うこと、また指導案の記録をエピソード記録として活用し保育者の環境の構成や遊びの中で経験していること等を話合いうこと等、各園で子園内研修を工夫して子どもの育ちを多方面から見て話合い、保育を深めようとする研修が見られるようになってきた。
公開保育や資料を提示している保育者とともに参加している保育者の見取りや保育を語る力がレベルアップされていると感じた。
園の研修テーマに沿って、話合いができる支援を心掛けていきたいと思う。
●園内研修の日程が重なってしまうことが多く、参加できないことが残念であったが、園の日程が第一と思うので、今後も園のニーズに合わせたアドバイザーの支援を考えていきたいと思う。

△要請訪問や認定こども園訪問では、他園が参加し保育の協議をすることで自園だけでは気づかなかったことに目を向けるきっかけになった。
しかし当日は、その園の職員が参加できずに公開保育の保育者と他園の保育者達との協議になってしまうことも多く、園の保育者たちが自分たちの保育を語り合えるような指導主事訪問の内容を考えていく必要があると感じた。
園にもそのような情報を提示しながら、指導主事訪問を通して自園の課題を深めるための内容等を一緒に考えていきたいと思う。

＜仙北市の研修会について＞

〇６月から大仙市と連携してどちらの研修会にも参加できるように進めた。
演習を伴う研修会では、仙北市の園の保育者だけでなく大仙市の保育者とも話合う機会ができ保育の見取りが広がったという声を聞くことができた。実際に研修会に参加した保育者達から保育の質の向上につながる思いを聞くことができたことから、研修会が保育者の質の向上につながる大きな役割を果たしていると分析できる。
今後もアドバイザー同士の情報交換を大事にしながら、研修会を工夫していきたい。

●研修会は保育者の確かな学びにつながっていると思われるが、研修会の回数が多く仙北市で開催する研修会の日程、時間、内容等吟味していくことの大事さを感じている。

＜幼小の連携について＞

〇園や小学校の子どもの姿の良さや課題を出し合い、学区で目指す子どもの姿を明確にすることができた。

〇架け橋カリキュラム作成に伴い教育員会との部局連携が進み、アドバイザーの学校訪問も昨年に比べ訪問回数が多くなった。園・小学校の取組をつなぐ役割が一層求められアドバイザーに求められる支援を考えていきたいと思う。

△架け橋カリキュラムを開発するためには「やらなければ」という気持ちになるが、幼小でやらされ感で動くのではなく学区で目指す子どもの姿を中心に考え、園や小学校に架け橋期のカリキュラムが必要という意識を生むことが最も重要となることと考えていきたいと思った。

実施市町村の具体的取組（大仙市）

１　教育・保育の現状と課題

（１）各施設の保育実践力は年々向上し底上げが図られているが、十分とはいえない。
（２）就学前教育・保育施設と小学校の子どもの捉え方や育ち・学びへの理解にまだ相違がある。
（３）全小学校区で園小の連携協議会等が組織されたが、幼児教育から学校教育への接続を円滑に実践するための十分な環境づくり・体制づくりと「意識改革」が必要である。

２　令和６年度の目的、重点、実施内容

【目的】
教育・保育アドバイザー２名で活動。市内の教育・保育施設及び小学校への事業年度計画や重点の周知。園内研修等の支援を通じ、保育士個々に留まらず園全体の保育の質が向上できるよう関わりを深めていく。また、各小学校区の連携組織が実効性のある充実したものになるよう「架け橋期のカリキュラム」作成の土台づくりを進め、相互理解をより深め接続が更に円滑になるよう働きかけていく。

【重点】
・地域による学び合いが、アドバイザーの関わりなしでも園同士で進められるような体制づくりを推進し、地域（市）全体の保育の質が偏りなく向上できるよう支援する。
・保育や授業の参観及び協議への参加体制確立のもと、園小協働による架け橋期のカリキュラム作成の土台づくり、体制づくりに深く関わる。

【実施内容】

（１）部局間連携による教育・保育推進体制の充実

□本事業の主体であるこども政策課と市教育委員会との連携の更なる強化

◇連携会議の継続的な開催

・今年度から、市教委が本事業の連携担当者を、１名から２名に増員。

・「連携会議」を毎月１回開催し、幼小の接続に係る園小連携の進捗状況等の情報共有、事業に関する意見交換・情報交換及び打合せ等を行っている。

◇園小の合同研修会「就学前・小学校大仙地区合同研修会」を共催として実施

・グループ協議の内容を検討し合ったり、係りを分担し合ったりした。

◇架け橋期のカリキュラム作成に向けた連携

・校長会等を通して、作成の重要性や見通しを周知

・大仙市版架け橋期のカリキュラム作成のための「開発会議」の立ち上げ

・開発会議の委員への働きかけ

◇連携だより「だいせん元気っ子」（毎月１回程度発行）への協力

・内容について、連携会議を通じて検討し合っている。

□県立大曲支援学校との連携

◇大曲支援学校の地域支援部を活用し、特別支援教育の充実を図った。

・地域支援部主任の丹波舞子教諭と大沢貴子特別支援教育アドバイザーによる特別支援教育の園内研修支援により、特別な支援を要する園児についての個別相談にとどまらず、園全体で捉え方や関わり方を考えていく研修に引き上げることができた。

・市こども家庭センターと連携を密にし、情報共有を図ることができた。

【成　果】

○市教委の連携担当者を２名にしたことは、市教委が、幼小の円滑な接続に向けた取組の重要性を受け止め、協働して進めようという意識が今まで以上に高まったからといえる。

○市教委が動き出したことで、架け橋期のカリキュラム作成のための開発会議の立ち上げがスムーズに進んだ。

【課　題】

●市教委との連携土台を確立し、取組が継続して行われるようにしていく必要がある。

●特別支援教育の園内研修を実施する園を増やしていく必要がある。

【改善の方策】

△市教委との連携を継続しながら、共に架け橋期のカリキュラムの作成にあたり、各小学校区のよさを生かしながら、取り組み方法を支援していく。

△各小学校区での相互参観、協議の相互参加の体制が定着している。今後、小学校の１年担任以外にも参加してもらい、幼児教育の理解につながるようかかわり、更に保育改善、授業改善につなげていく。

△来年度も大曲支援学校の地域支援部と連携し、特別支援教育の充実に努めたい。

（２）教育・保育アドバイザーによる園への充実した支援

◇令和６年度アドバイザーによる巡回訪問･指導に関する具体的な目標（大仙市）

⑥派遣目標　計　４９施設・校／全４９施設・校　　１５６回	
回数	・保育園：私立　１５園（５７回） ・幼保連携型認定こども園：　私立９園（３８回） ・保育所型認定こども園：　　私立１園（４回） ・その他の施設：小規模保育施設　１カ所（２回）、認可外保育施設　３カ所（７回） ・小学校：２０校（４８回）

訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、１７園　（２０回） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、１園　（３回） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、０園　（０回） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）及び 周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）　（目標のうち、２９園　（５８回） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、２３園（２４回） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）　（目標のうち、２０校（４７回） ４園（２回） ・その他（他市との交流研修会）　２園（２回）
理由	・年４回程度の園訪問により、園や保育者の課題に沿った支援を行い、保育実践力をより高めるため。 ・幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けて、教育・保育施設と小学校職員が園小連携活動を通して、お互いの理解を深めていくため。

□教育・保育施設へ年２回定期的に訪問した。

・前期訪問（５／２～６／２４）では、園の目標や重点、課題の把握、課題解決への助言、特別な支援を要する子の把握及び助言を行った。

・後期訪問（１２／２～１／７）は、重点および課題や取組の成果と課題について報告を受けたり、支援を要する子の変容の聴き取りをしたりして今後の関わり方について助言を行った。

□巡回派遣訪問

・園内研修の支援（園内研修の課題、見直し、改善への助言）
・保育支援（指導計画作成、保育実践、保育の振り返り等への助言）
・園や個人からの相談への対応（実践発表や指導案への助言）
・特別支援教育の園内研修への支援

①大曲乳児保育園　：２歳児の保育と協議について
②大曲駅前こども園　：４歳児の保育と協議について
③大曲中央こども園　：環境構成と援助について
④どれみ保育園　：指導計画及び要請訪問の指導案について
⑤大曲中央こども園　：全クラスの保育と振り返り（協議）の仕方について
⑥大曲中央こども園　：全クラスの保育と振り返り（協議）の仕方について
⑦西仙あおぞらこども園　：特別支援教育について
⑧角間川保育園　：１・２歳児混合クラスの保育と協議について
⑨なかせんワイワイらんど：特別支援教育について
⑩大川西根保育園　：特別支援教育について
⑪大曲南保育園　：研究の進め方について
⑫大曲北保育園　：２歳児・５歳児の保育と協議について
⑬中仙東保育園　：保育の資質向上について
⑭はなだて保育園　：４歳児の保育と協議について
⑮すくすくだけっこ園　：指導要録の記入の仕方について（神宮寺モンテッソーリスクールと共に）
⑯内小友保育園　：特別支援教育について
⑰協和まほろばこども園　：研究主題について（振り返り）
⑱みつば保育園　：園内研について
⑲大曲中央こども園　：幼保小の連携について

□法人や施設形態の枠を越えた「学び合い」の体制の確立

◇指導主事訪問を通した「学び合い」

（実施園）　（参加園）
①大曲中央こども園　←せんぼくちびっこらんど、大曲駅前こども園、四ツ屋こども園
②四ツ屋こども園　←なかせんワイワイらんど、内小友保育園、中仙東保育園

③大曲駅前子ども園　←ウエルネス保育園大曲、中仙東保育園、西仙あおぞらこども園
せんぼくちびっこらんど、日の出ベビー保育園
④つきの木こども園　←はなだて保育園、内小友保育園
⑤おおたわんぱくランド　←大曲中央こども園
⑥日の出ベビー保育園　←かえで保育園大曲
⑦西仙あおぞらこども園　←大曲駅前こども園、
⑧せんぼくちびっこらんど　←かえで保育園大曲、大曲乳児保育園、大川西根保育園
⑨内小友保育園　←大川西根保育園、なごみ保育園、神宮寺モンテッソーリスクール
⑩大曲東保育園　←おおたわんぱくランド、協和まほろばこども園、大曲中央こども園
⑪大川西根保育園　←みつば保育園、つきの木こども園
⑫みつば保育園　←藤木保育園、
⑬すくすくだけっこ園　←大曲東保育園、神宮寺モンテッソーリスクール
⑭大曲乳児保育園　←はなだて保育園、どれみ保育園
⑮協和まほろばこども園　←角間川保育園、大曲北保育園、大曲中央こども園
⑯はなだて保育園　←大曲南保育園、日の出ベビー保育園、大曲中央こども園
⑰かえで保育園大曲　←大曲南保育園、どれみ保育園、すくすくだけっこ園
⑱大曲南保育園　←西仙あおぞらこども園、かえで保育園大曲
⑲中仙東保育園　←すくすくだけっこ園、大川西根保育園
⑳藤木保育園　←神宮寺モンテッソーリスクール
㉑角間川保育園　←きらきら保育園大曲
㉒大曲北保育園　←なかせんワイワイらんど、大曲南保育園、協和まほろばこども園

◇園内研修を通した「学び合い」　＊７月に配付した各園の「園内研修一覧」をもとに
指導主事訪問以外に園同士でやり取りした「学び合い」

（実施園）　（参加園）
①大曲乳児保育園　←なかせんワイワイらんど、はなだて保育園
②大曲南保育園　←はなだて保育園、大曲乳児保育園
③なかせんワイワイらんど　←大曲中央こども園
④大曲駅前こども園　←はなだて保育園
⑤大曲中央こども園　←なかせんワイワイらんど
⑥なかせんワイワイらんど　←協和まほろばこども園
⑦せんぼくちびっこらんど　←はなだて保育園

＜他園の職員も入った園内研修＞

【成　果】
○保育や園内研修を充実させるために、積極的にアドバイザーを活用する園が増えている。前回の訪問時に課題となったことが、その後の訪問時には改善されていることが多く、手応えを感じている。
○他園の保育を参観し園内研修に参加することで、互いに新しい考えや方法に触れることができ職員自身や自園の取組を振り返り見直しするよい機会となっている。確実に保育の質が向上し、大仙市全体のレベルアップにつながっている。

【課　題】
●最近新設された施設は、まだ「学び合い」の受け入れに躊躇しているので、「学び合い」のよさを丁寧に伝える必要がある。
●アドバイザーへの各園のニーズの内容がレベルアップしてきていることに伴い、アドバイザーがそれに対応できるよう、更に研鑽を積む必要がある。

【改善の方策】
△「学び合い」の受け入れに躊躇している施設との信頼関係をさらに密にし、無理なくスモールステップで受け入れてもらえるよう働きかけ、保育の質の向上につなげていく。

（３）専門性向上のための研修の充実

＜保育実践力向上研修会Ⅰの演習＞

□保育実践力の向上に向けた研修の実施

◇保育実践力向上研修会Ⅰ

・内　容：環境構成の在り方

・日　時：令和６年６月２７日（木）　１３：３０～１６：００

・講義題：「子どもの育ちを支える魅力的な環境構成」

・講　師：秋田県教育庁南教育事務所　主任指導主事　佐藤　伸剛　氏
指 導 主 事　戸部　俊和　氏

・対　象：大仙市内就学前施設職員
＊副園長・園長補佐・研修リーダーから１名、担任１名、計２名

＜アンケートより＞

・講義について　非常に満足…４０名　満足…１３名　やや不満…なし　不満…なし

・演習について　非常に満足…３９名　満足…１４名　やや不満…なし　不満…なし

＜参加者の感想より＞

・指導計画や園内研修の際に「援助」に目がいきがちだった。環境構成の重要性が分かった。

・子ども達にどんな力を付けるためにどんな経験をさせたいのかを基に環境を考え、子どもの興味、関心、遊びの様子や内面を見取るための予測する力、対応力等を身に付けていきたい。

・経験させたいとすれば「状況をつくり出す」という言葉が強く残った。

◇保育実践力向上研修会Ⅱ

・内　容：特別支援教育（気になる子へのよりよい対応）について

・日　時：令和６年９月２６日（木）　１３：３０～１６：００

・講義題：「引き継ぎツールとしての個別の教育支援計画の作成にあたって
～『できること』に目を向けた目標設定をしてみよう～　」

・講　師：秋田県立大曲支援学校　地域支援部　主任　丹波　舞子　氏
特別支援教育アドバイザー　大沢　貴子　氏

・対　象：大仙市内就学前施設職員
＊副園長・園長補佐・研修リーダーから１名、担任１名、計２名

＜アンケートより＞

・講義について　非常に満足…４０名　満足…１４名　やや不満…なし　不満…なし

・演習について　非常に満足…３８名　満足…１６名　やや不満…なし　不満…なし

＜参加者の感想より＞

・できることに目を向けるためには、子ども一人一人の興味や好きなことなどしっかり見取ることが大事になる。内面理解ができるようかかわっていきたい。

・ねらいの設定に課題を感じていたが、３か月で達成できるような目標設定の話を聞き、実践に意欲が出てきた。

・「できた」を体験できる工夫を増やし、自己肯定感を高めていく丁寧なかかわり方をして、できることを積み上げていってあげたい。

【成　果】

○研修の参加対象を各園のリーダー的役割の職員と担任の２名にしたことで、園内での研修内容の共有が、より図られるようになり、更に具体的実践に結びつくようになった。

【課　題】

●園や保育士のニーズ（要望）とアドバイザーが必要と考える研修内容のバランス。

【改善の方策】

△引き続き仙北市との研修会交流を進め、横手市などの近隣の市とも連携して保育の質の向上につなげていく。

（４）小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実

・園小連携協議会等の年間計画を市教委からの依頼で提出してもらうことで、相互参観の計画を年

間計画に盛り込んでもらい、保育参観・協議参加が当たり前の取組になるようになった。
・子どもの育ちや学びに連続性と、円滑な接続の重要性を学ぶ、園小合同の研修会を実施した。

□相互理解を深めるための保育参観・授業参観・協議参加
〈保育参観及び協議への参加：小学校→園〉　◎は、協議参加
①大曲中央こども園　←大曲小から教頭◎
②大曲駅前こども園　←花館小から校長◎、大曲小から教頭
③つきの木こども園　←南外小から校長◎、教務主任◎、１年担任◎
④おおたわんぱくランド　←太田南小から校長、教頭◎、１年担任、太田北小から校長
⑤日の出ベビー保育園　←大曲小から教頭◎
⑥西仙あおぞらこども園　←西仙北小から教頭、研究主任、１年担任
⑦せんぼくちびっこらんど　←横堀小から校長◎、高梨小から教頭◎
⑧内小友保育園　←内小友小から校長◎、１年担任
⑨大曲東保育園　←大曲小から１年担任、東大曲小学校から１年担任
⑩大川西根保育園　←大川西根小から教頭◎、１年担任◎
⑪みつば保育園　←西仙北小から教頭、研究主任、１年担任
⑫すくすくだけっこ園　←神岡小から校長
⑬四ツ屋こども園　←四ツ屋小から４年担任
⑭協和まほろばこども園　←協和小から教頭◎、１年担任
⑮大曲南保育園　←大曲小から１年担任◎、東大曲小から１年担任
⑯中仙東保育園　←豊成小から校長　１年担任◎
⑰藤木保育園　←藤木小から校長、教頭◎、１年担任
⑱大曲北保育園　←花館小から校長　教諭、大曲小から教諭

〈授業参観及び協議への参加：園→小学校〉
①花館小学校　←大曲駅前こども園２名◎、大曲北保育園◎、はなだて保育園◎
②大曲小学校　←大曲中央こども園、大曲東保育園、大曲南保育園、大曲駅前こども園
日の出ベビー保育園、かえで保育園大曲　※協議会なし
③南外小学校　←つきの木こども園◎
④角間川小学校　←角間川保育園◎
⑤内小友小学校　←内小友保育園◎
⑥太田北小学校　←おおたわんぱくランド
⑦中仙小学校　←なかせんワイワイらんど◎
⑧豊成小学校　←中仙東保育園◎
⑨清水小学校　←なかせんワイワイらんど◎
⑩四ツ屋小学校　←四ツ屋こども園◎、どれみ保育園◎
⑪藤木小学校　←藤木保育園◎
⑫協和小学校　←協和まほろばこども園◎
⑬神岡小学校　←すくすくだけっこ園◎
⑭西仙北小学校　←西仙あおぞらこども園、みつば保育園
⑮大川西根小学校　←大川西根保育園◎
⑯高梨小学校　←せんぼくちびっこランド◎
⑰東大曲小学校　←大曲南保育園

＜小学校の授業を参観＞

□幼小接続に関する訪問
①大曲北保育園　：花館小学校区園小連携協議会の保育公開

□教育・保育の質の向上と小学校との円滑な接続を図ることを目的とした合同研修会の開催
・研修会：令和６年度就学前・小学校大仙地区合同研修会

・日　時：令和６年８月６日（火）１３：３０～１６：３０
・内　容：○講話「就学前教育と小学校教育との円滑な接続」
講師　秋田大学教育文化学部　教授　山名　裕子　氏
○グループ協議：小学校区を基本としたグループで実施
協議テーマ　・架け橋期にどのような力を付けることを大事にしているか
・幼小の円滑な接続に向けた取組の成果と課題
・対　象：就学前教育・保育施設職員から各園２名、小学校職員から各小学校２名
・その他：仙北市からも９名参加。

〈アンケートより〉
・講義について　　非常に満足…５１名　満足…３９名　やや不満…なし　不満…なし
・協議について　　非常に満足…６０名　満足…３０名　やや不満…なし　不満…なし

〈参加者の感想より〉
・「就学に向けて」ではなく幼児期の遊びの学びや経験が就学後の生活や学習につながっていくことを分かりやすく伝えていただいた。小学校への「適応」をねらうものではないことについて、小学校側の意識を変えていく必要があることを痛感した。
・自分のよさを自覚する力を付けることを大切にしているという小学校側の話を聞き、保育においても意識していきたいと思った。

＜小学校区を基本としたグループ協議＞

・非常に有意義な講義と協議だった。これが参加者だけでなく、現場の職員間で共通理解していくことが課題になってくるのではないか。

□連携だよりの定期的な発行の継続
連携だより「だいせん元気っ子」を月１回程度発行している。これまでは、保育の様子や１年生の授業等を随時紹介したりすることが多かったが、相互参観が全小学校区で行われるようになったので、より「接続」やそのための「連携」の意識が高まる内容にしている。

【成　果】
○全２０校、全ての小学校区で相互参観及び協議参加を、年間計画に入れ、当たり前に行き来するようになった。その結果「遊び＝学び」の理解が深まり、小学校の授業改善につなげようとする小学校が増えている。
○合同研修会を通して、円滑な接続のためには双方との「対話」が重要であると受け止め、その機会をこれまで以上に設定しようとする小学校区が増えた。

【課　題】
●小学校側に、いまだに入学後の学校への早期の適応を重要視する傾向が残っている。
何を一番大事にしていくべきかを互いに語り合う機会を持てるよう関わっていく必要がある。

【改善の方策】
△就学前施設と小学校の連携のための情報提供や交流の様子を記載し幼小連携の大切さを継続して作成し、更に市教委の連携担当者や大曲支援学校地域支部などの連携機関から寄稿の協力をもらい、内容をさらに充実させて幼児教育や小学校との円滑な接続につなげたい。

（５）県との連携体制の充実及びアドバイザーネットワークの有効活用
・「他市町村アドバイザーに学ぶ研修会」の機会に会場園（大曲中央こども園）が全クラスを公開し、市内各園や連携小学校、中学校から２６名の参観者を迎える研修を行うことができた。
・県主催の協議会や所管研修へ積極的に参加し、情報交換・意見交換を通してアドバイザーとしてのスキル向上を図るようにした。
・県指導主事要請訪問や認定こども園訪問に同行した。
・市主催の保育実践力向上研修会の講師をお願いした。

・アドバイザーネットワークを活用して、潟上市と男性保育士同士の交流研修会を継続実施したことに加え、今年度から、仙北市と研修会の相互参加交流を行い、多数の職員が参加し合った。

【成　果】

○指導主事訪問の同行や所管研修及び連絡協議会への参加によって、保育改善の方向性やポイントを捉え、園への具体的な支援につなげることができた。

○アドバイザーネットワークの活用により、研修や交流の幅を広げることができた。

【課　題】

●県指導主事の助言が園の保育改善に確実に結びつくよう、アドバイザーの支援の在り方を引き続き模索する必要がある。

【改善の方策】

△「他市村アドバイザーに学ぶ研修会」への参加や県指導主事訪問同行で、アドバイザーとしてのスキルアップにつなげ、園訪問での助言に生かしていく。

３　わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業（令和６年度）の成果と課題

【成　果】

○市内各園の「園内研修一覧」を作成し、全園に配付したことで「学び合い」の機会を広げることができ、園同士での「学び合い」が定着した。それによって、大仙市全体の保育力が年々確実に向上していることを訪問の度に実感している。

○これまで指導主事要請訪問を受けていなかった個人経営の園が、「学び合い」への参加とアドバイザーの働きかけにより、今年度要請訪問を実施した。実施後「受け入れて本当によかった」と園からの声をいただき、互いに達成感を得ることができた。

○昨年度まで「学び合い」の受け入れがなかった園も、今年度から受け入れるようになり、保育力を向上させようとする意識の高まりが広がっている。

○昨年度で、園小の連携体制が組織づくられた小学校区が１００％となり、子どもの交流にとどまらず、相互理解を図る職員同士の研修や交流が充実してきている。

○「大仙市架け橋カリキュラム開発会議」を立ち上げ開催することができ、各小学校区における架け橋期のカリキュラム作成に向けた土台づくりが進んでいる。

○市教育委員会との連携が更に強力になった。円滑な接続に向けて意見交換したり、市教委から小学校へ働きかけてくれたりする機会も多くなり、「共に」という意識が高まっている。

【課　題】

●環境構成と再構成について市の研修会でも取り上げたことで、以前より意識するようにはなってきているが、指導計画や保育を語る協議において環境構成の重要性を取り上げる部分が、まだ十分とはいえない。

●園内研修の協議では、まだ意見や感想の「出し合い」に終始することも見られるので、子どもの姿をもとに語り合うことを楽しみ、共通の課題について深掘りしていけるような協議への支援を模索していく必要がある。

●子どもの捉えや向き合い方について、小学校側の意識がまだ追い付いていかない部分がある。架け橋期のカリキュラムの作成を通して更に対話を重ね、何を一番大事にしていかなければならないかを互いに探っていくことで、更に幼児教育と小学校教育との円滑な接続につながるよう働きかけていく必要がある。

【改善の方策】

△子どもの内面理解や育ちの連続性を踏まえ、主体性につながる環境構成を探り、子どもも保育者も楽しいと思える保育につながるよう支援していく。

△今後も様々な場面（訪問、保育・１年研究授業等）を通して、連携の大切さを伝え理解を促し、子どもファーストを念頭におき語り合いを大切にしながら架け橋期のカリキュラム作成に取り組めるようにし、完成が目的にならないように支援していきたい。

実施市の具体的取組（にかほ市）

１　教育・保育の課題

（１）各園の特色・特徴を把握し、行政との信頼関係を密にしながら保育の質の向上に繋げる支援体制を構築する。

（２）教育・保育アドバイザーの支援のもと、保育者が抱える課題等の改善を図り、意欲の向上に繋げる。

２　令和６年度の目的、重点、実施内容

【目的】

１．教育・保育アドバイザーが各園を定期的に訪問し、各園の取り組みや課題の把握に努め、課題解決のための支援を行う。

２．行政と園が連携して教育・保育の質の向上に資する取り組みを行う。（研修等）

３．小学校就学に向けた連携体制の強化に努める。

【重点】

就学前施設のニーズに応じた支援の実施と小学校との接続に向けた相互理解の取り組み、合同研修会の充実に努める。

【実施内容】

（１）教育・保育アドバイザーによる園の支援

・子育て支援課に教育・保育アドバイザー１名を継続配置

・教育・保育アドバイザーが定期的に保育所・認定こども園を巡回訪問し、各園の実情を把握し、適切な助言を行う（８施設：７２回訪問）

・子ども家庭総合支援拠点、ネウボラ（母子保健支援班）、障害児集団訓練事業等との情報共有を図り、支援が必要な子どもとその親に対して適切な支援を行う

（２）専門性の向上のための研修の充実

・各園の連携を深めるとともに保育レベルの共通化を図り、園内リーダー育成のための情報交換会を実施

・保育の資質向上のための研修会等について、現状を分析しスキルアップの機会を創出する

（３）小学校教育との円滑な接続に向けた研修の充実

・各小学校主催の幼保小連絡協議会への参加により、幼保小連携に関する情報提供を行う

・子育て支援課と小学校教育部局（学校教育課）の連携を強化し、円滑な幼保小連携のための情報共有を図る

（６～７月に学校教育課、ゆり支援学校、母子保健班と就学前施設訪問）

・教育委員会部局との連携を強化し、就学前教育・保育と小学校の円滑な接続を推進する

・小学校との円滑な接続に向けた合同研修会の開催（年１回）

にかほ市　就学前・小学校合同研修会　８月７日（水）

・特別支援教育研修会（にかほ保育園・院内小学校）　１月２２日（水）

・授業を見合う会（平沢小学校）　２月１８日（火）

（４）県との連携体制及びアドバイザーネットワークの活用

・県との連携を強化し、事業の円滑な実施のための助言、指導法等の共通理解を図る

（架け橋プログラム合同開発会議、市アドバイザーに学ぶ研修会、市主催研修会など）

・県就学前教育推進協議会（年１回）、アドバイザー連絡協議会（年５回）等を通じて、先行する地域の事例等を参考に、取り組み等への助言、指導等を活用

（１）部局間連携による教育・保育推進体制の充実

・ゆり支援学校　特別支援教育 AD・教育委員会・母子保健班・市 AD と主に年長児を対象に各園を訪問する（６月～７月中　８園）
・たんぽぽキッズ（障害児集団訓練）に参加
・ゆり支援学校　特別な支援を必要とする子どもの情報交換会
　開催日：８月２７日（火）
　参加者：県教育委員会、にかほ市教育委員会
　　ゆり支援学校、子ども家庭センター
・就学児健康診断　１０月２日（水）１０日（木）

集団訓練の様子

【成果】
○早い時期からの各関係機関と一緒に訪問していくことで、就学までどんな支援が必要か？連携はどうか？などこれからのことも話合い、願いや思いを共有することができた。
○直接、園の要望や悩みなどを聞くことができ、同時に関係機関と共有することで素早い対応やアドバイスを行うことができた。
→後日、ゆり支援の先生の園訪問・園内研修、個別の教育相談実施。教育委員会から就学に向けてのおたより配布など。
【課題】
●保育者の資質向上の面では、直接、結びつかないかもしれないが、様々な関係機関も訪問に加わることで、情報を共有しながら、子どもについて語り合うことで、新たな視点も加わり援助や手立ても広がった。その学びをどうのようにつないでいくか考えていかなくてはならない。
【改善の方策】
△これで、終わりにせず関係機関と連携を図りながら架け橋期へとつないでいく。
「支援を必要としている子、支援を必要としている保護者」などに対して、どこまで、踏み込んでいいのか改めて考えさせられる。個人情報になるため、難しい取り扱いになるが、子どもにとって何が一番なのかを第一に、必要とする関係機関と連携を強化し、全体で考えていく。また、にかほ市の現状を理解しながら必要な支援が途切れることがないようにしていく。

（２）教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援

派遣実績　計　　８施設・４校（その他施設：９施設）／全１１４回		
回数	・保育園：私立４園（３７回） ・幼保連携型認定こども園：私立４園（３４回） ・小学校：４校（２３回） ・中学校：３校（３回） ・その他の施設：学童：６ヵ所（６回）放課後デイ：２ヵ所（３回）支援学校：１校（４回）、その他：（４回）	
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）	８園（１５回）
	・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）	８園　（５回）
	・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）	８園（４８回）
	・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）	８園（１２回）
	・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）	８園（４８回） ９施設（９回） ７校（１４回）
	・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）	８園（　　回）
	・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）	５校（１７回）

		８園（１６回）
	・特別支援（特別支援に関する相談、面談等）	８園（２５回）
		５校（１３回）
	・その他	（２回）
理由	・各園を定期的に訪問することで各園の実情や課題等を把握し、課題解決に向けた支援を行い、保育の質の向上を図る。 ・家庭児童相談室、子ども家庭総合支援拠点等と情報共有を密にし、対応が難しい子どもとその保護者への関わり方について連携しながら支援を行う。	

（令和７年３月末現在）

【成果】

○訪問を重ねることで、園や職員との信頼関係も少しずつ構築でき様々な語り合いができるようになった。

○KJ 法で協議を進める園が多いが、数を重ねる毎にその時どんな手立てを考えるか等その保育の現場を自分に置き換え意見を出すことも多くなった。

【課題】

●子ども達の状況など場面を据えた話題は活発にできるが、保育の中から見つけた手立てや環境の構成、子どもの育ちや学びなど深い語り合いにまでに進まないことがある。

●開かれた保育、主体的な保育の良さ、一人一人の子どもの姿の読み取りなど改めて全職員で学ぶ機会を作っていく。（管理職も含め）

【改善の方策】

△園内研修などの質の向上から一歩先に進めるよう、他園や学校など別の視点で見合う機会を作っていく。

△市主催の研修会の内容へとつないでいく。

付箋を使った園内研修

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

①特別支援教育研修会

開催日　１月２２日（水）
場所　　午前：にかほ保育園・午後：院内小学校
内容　　保育参観・研修会
講師　　きらり支援学校
参加者　保育士　２人、学校教諭　１３人

②保育研修会

開催日　１月２７日（月）
場所　　にかほ市総合福祉交流センター　スマイル
内容　　講話　「保育者に求められる保護者支援　子育て支援」
　　演習　「事例を基に…」ロールプレイにて
　　講師　　県幼保推進課
　　参加者　就学前施設職員　７人

※保育士等キャリアアップ研修「保護者支援・子育て支援」２．５時間対象
（参加レポート提出、アンケート実施）

＜参加者からの感想より＞

満足…７名　やや満足…なし　やや不満…なし　不満…なし

・保護者支援・子育て支援で大切な信頼関係の築き、寄り添う事について理解していたつもりでも研修に参加することで、改めて認識でき、考える良い機会となる。保護者対応の難しさを他園の先生と共有することができ充実した時間となった。
・必要なことを丁寧にわかりやすく講話していただけて、大切なことを再確認できた。また、ロールプレイを通じて普段の自分の保護者とのやりとりの中での伝え方の甘さなどを感じることができ、他園の先生方から学ぶことも多く、反省しながらも今後も信頼関係を丁寧に築きながら、明日からの子育て支援・保護者支援へいかしていきたいと強く思った。
・事例をもとにロールプレイ形式で保護者の思いを考えたり、適切な伝え方を探ったりしながら、他園の先生方と意見交換ができた。

【成果】

〇年度途中ではあるが、巡回訪問を重ね出てきた課題を研修会のテーマとし、実施の方向に進めることができた。

【改善の方策】

△研修に参加した職員から、継続してほしい研修や今後開催してほしい内容について様々な
要望があった。巡回訪問の際に課題に出たことなど精査し、市として次年度必要な研修内容を検討していきたい。
△年度当初に、市主催の研修会計画を提示し、職員の参加を促していく。

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

・教育委員会部局との連携を強化し、就学前教育・保育と小学校の円滑な接続を推進する。
・小学校との円滑な接続に向けた合同研修会の開催（年１回）

①第１回　幼保小連絡協議会に参加
５月２３日（木）　平沢小学校
６月１９日（月）　金浦小学校
参加者：就学前施設職員、学校職員、市 AD
内容　：授業参観、協議会

＜今後の予定＞
第２回　幼保小連絡協議会（保育参観、情報交換、架け橋プログラムについて）
２月２５日（火）　平沢小学校
２月　　院内小学校
３月　６日（木）　金浦小学校

②にかほ市　就学前・小学校合同研修会　を開催
開催日　　８月７日（水）
説明　　「育ちや学びをつなぐ幼保小の円滑な接続について」
演習・協議「育ちや学びの連続性を踏まえたカリキュラムの作成の実際」
参加者：８園８名　４小学校４名
※保育士等キャリアアップ研修「幼児教育」３時間対象
（参加レポート提出、アンケート実施）

＜アンケート結果＞
・説明
満足…１０名　やや満足…２名　やや不満…なし　不満…なし
・演習・協議
満足…１２名　やや満足…なし　やや不満…なし　不満…なし

＜参加者の感想より＞
・直接関係のある学校、園との協議は、意見交換をしながら進められるのでとてもためになった。園、学校の実情を知る機会となった。また、園での学びについても知ってもらえる機会となり、良い協議だった。（就学前施設）
・小学校の指導要領で定められていることは意識して実践しているつもりでしたが、幼児期にはどのような姿を目指しているのかについて何も意識を持たず指導していたことに気付きました。特に１０の姿は低学年でも必要な姿だと思う。（小学校）
・架け橋プログラムについて、自園だけでは進められないので、市、学校、園でもっと、もっと交流の場、一緒に進められる場があってもいいのかなと思います。（就学前施設）
＊アンケート結果をおたよりにまとめ、各就学前施設、小学校、学校教育課へ配布した。研修会の内容を全体へ周知できるようにし、更なる連携や接続の意識が高まるきっかけになるよう心掛けた。

③架け橋プログラム合同開発会議開催
開催日：１１月２７日（水）
講師　：秋田県幼保推進課
参加者：学校教育課、にかほ市校長会会長、にかほ市保育協議会会長
　　こども家庭センター、市 AD
＜アンケート結果＞
満足…４名　やや満足…１名　やや不満…なし　不満…なし
・スケジュールや作成する具体が明確で、見通しをもちやすかった。今後は、参集範囲を広げたり絞ったりして、効率的に共通意識が図れるようにしたい。
・学校と園の風通しをもっとよくするために、行事での交流や授業・保育参観等をもう少し活発に行っていくことができればよいと思う。
・入学の際の「上れないと感じる段差」「下りたくないと感じる段差」について、幼保小で具体的に議論したい。

子どもの姿についての語り合い

【成果】
○昨年度から継続的に合同研修会を行うことで、職員間の意識にも変化が見られてきた。
また、現場に向けて接続の重要性について意識を高めることができた。

【課題】
●幼保小の連携に関して積極的に取り組んでいかなくてはという気持ちはあるが、なかなか進まない現実がある。園や小学校が必要感をもって取り組んでいくための AD の働きかけ方や管理職に向けての発信の仕方等を考えていきたい。
●協議の場が、特別な支援を要する子どもの情報交換に特化している所もある。
各園・各学校での子どもの姿を見合ったり、話し合ったりする機会・時間が必要だと思う。
●開発会議でにかほ市版の期待する子ども像を就学前施設や学校への発信は出来たが、その後の進め方など、改めて部局間での連携や協力の必要性を感じる。
【改善の方策】
△研修会や相互職場体験、保育参観、授業参観等、様々な機会を通じて職員同士が子どもの学びや育ちについて理解を深めるとともに、小学校教育への円滑な接続のための指導計画やスタートカリキュラムの改善が図られるよう、関係機関で連携を取りながら継続した働きかけを行っていく。

（５）「県との連携体制の充実」
・県主催の協議会や所管研修会へ積積極的参加し、情報交換・意見交換を通してアドバイザーと

してのスキル向上を図るようにした。

・市町村アドバイザーに学ぶ研修会の継続実施と参加

本市開催：令和６年９月１７日（木）にかほ市　仁賀保保育会　つぼみ保育園

参加者　：潟上市 AD　県 AD　にかほ市 AD　こども家庭センター

内容　　：保育参観（１歳児）、保育の振り返り、アドバイザー研修会

９月１３日（金）仙北市　社会福祉法人はなさき仙北幼保連携型認定こども園角館こども園

１０月１５日（火）大仙市　社会福祉法人大曲保育会　大曲中央こども園

・県主催研修会への参加

６月２４日（月）５年経験者研修

７月　２日（火）保育実践力習得研修

７月　９日（火）園内研修担当者研修Ⅰ

９月１２日（木）５年経験者研修

１０月２２日（火）園内研修担当者研修Ⅱ

１月３０日（木）就学前教育理解推進研究協議会Ⅱ

【成果】

〇研修会及び連絡協議会への参加によって得た知識や考え方やスキルを自分自身の学びにし、園訪問時などに活用し、園との信頼関係構築につなげられた。また、これからのするべきことが明確化されてきた。

【改善の方策】

△今後も保育の基本を学ぶため、様々な研修会への参加、指導主事への同行、他市町村アドバイザーに学ぶ研修会への参加を継続していく。

３　わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業（令和６年度）の成果と課題

【成果】

〇改めて、教育・保育アドバイザーの存在を就学前施設及び小学校に認識してもらうよう努めた。巡回訪問を重ねることで、園との信頼関係も少しずつ構築してきて、様々な語り合いを行うことができるようになった。

〇昨年度に引き続き、合同研修会を行うことで幼保小の連携の大切さを現場に向けて周知し、意識が高まってきたように感じる。そこから、もう一歩踏み出せるようアプローチを考えていく。

【課題】

●巡回訪問を重ねることで、見えてきた課題とどのように向き合っていくべきかと考えるだけで、行動に移すことが出来なかった。

●保育実践研修の内容検討をし、実施の計画が足りなかった。

●園や学校の体制や規模の違いにより、経営、環境、理念などそれぞれ特徴があり、課題や要望も多様であるが、全体で取り組むべき課題等を整理、共有し教育・保育体制の充実につなげていく必要がある。

【改善の方策】

△多くの保育者が参加できる環境作り、研究内容を各園で活かす体制作り、主体的な保育の在り方、子どもの内面理解、一人一人を伸ばす環境の構成を行っていく。

△架け橋プログラムに係る架け橋期のカリキュラム作成について、今まで以上に部局間との連携を図り、見通しをもって方向付けし実践していく。

実施市町村の具体的取組（能代市）

１　教育保育の現状と課題

（１）就学前施設において、保育士不足等を背景に、職員の育成が困難となっている状況が見られる。

（２）就学前施設、小学校職員双方において、接続期におけるこどもの育ちや学び、保護者支援に対する理解が徐々に進んできたが、組織内で共有することが課題である。

（３）特別な配慮を必要とする児童やその保護者に対する支援の在り方について検討が必要である。

２　令和６年度の目的、重点、実施内容

【目的】

乳幼児期は人格形成の基礎が培われる最も重要な時期であるとの認識のもと、就学前施設及び小学校職員等を対象とした研修会の実施や架け橋期のカリキュラム作成等を通じて、学び合う体制づくりを進め、接続期のこども理解や保護者支援に対する相互理解の促進を図る。

【重点】

各施設における主体的な研修の充実を図るとともに、架け橋期のカリキュラム開発の取組等により幼保小の連携強化を図る。

【実施内容】

（１）部局間連携による教育・保育推進体制の充実

①教育委員会及び子育て支援課の連携による教育･保育の推進体制の充実

・幼児教育・保育アドバイザー１名を引き続き学校教育課へ配置

・事業への理解促進のため子育て支援課及び学校教育課職員による就学前施設への訪問の実施

・子育て支援課及び学校教育課の意見交換、情報共有の機会拡充による連携強化

・他市町村における取組事例等を参考に、就学前施設と小学校教育との円滑な接続に向けた課題等の把握

○就学前施設と小学校教育との円滑な接続に向けた研修会等の実施により、相互理解が進み、具体的な課題が明らかになってきている。

○年度初めの市校長会で幼保小連携、架け橋プログラムについて説明する機会をもち、事業概要について周知を図った。

●架け橋プログラム等幼保小連携の取組を着実に進めていくため、部局間の協議を重ね、一層の相互理解を図っていく必要がある。

（２）「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

①幼児教育・保育アドバイザーによる市内全保育所等及び小学校への巡回訪問・助言等

・就学前施設における園内研修等でのアドバイザーの活用促進

・就学前施設及び小学校における課題、ニーズの把握及びサポート（随時）

◇令和６年度アドバイザーによる巡回訪問･指導に関する具体的な目標（能代市）

派遣実績　計　25 施設／全 25 施設　112 回	
回数	・幼稚園：私立 2 園（12 回） ・保育園：公立 3 園（27 回）、私立 8 園（32 回） ・幼保連携型認定こども園：私立 4 園（19 回） ・その他の施設：小規模保育施設　　か所（　　回）、認可外保育施設　　1 か所（2 回）、 事業所内保育施設　　か所（　回） ・小学校：　7 校（20 回）

訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、11 園（32 回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、　園（　回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、1 園（1 回 ）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、18 園（44 回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、18 園（18 回）） （目標のうち、1 校（ 1 回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、11 園（11 回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、7 校（21 回）） （目標のうち、2 園（3 回））
理由	・事業周知及び実態把握等のため、各園、小学校に定期的に訪問する。 ・幼保小連携の実態把握のため、小学校区ごとに連携・交流の情報を得て訪問する。 ・園のニーズを把握し、園内研修等に継続的に訪問する。

○公立保育所３園で保育公開の在り方を協議し、市内全施設に向けて広く保育公開や研究協議を行ったほか、民間施設においても保育公開がコロナ後再開されたこと等により、園同士の連携が多く見られるなど、経営主体の違いを越えて、相互研修の範囲が広がってきた。

○園内研修へのアドバイザーの参加依頼が増えており、アドバイザーの役割が広く認識されてきたことが感じられる。

●園内研修の取組について、各園に合った効果的な在り方を追究するため、園内研修リーダーを育成する機会を充実させる必要がある。

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

①保育実践力の向上に向けた研修会の実施

第１回保育研修会　　参加者 25 名

開催日　6 月 11 日（火）

場　所　能代市役所

内　容　講話　「遊びを深める園内研修の進め方について」

講師　秋田県教育庁北教育事務所　指導主事　庄司　伸子　氏

グループ協議　「ファシリテーターとしての園内研修の進め方」

〔参加者の感想〕

・園内研修について毎年悩むところだが、ヒントをいただいた。今年度、来年度以降の参考にしたい。自分でも園内研修についてもっと学びたい気持ちが芽生えた。

・「遊びを深める」というイメージだけでもそれぞれ違うことを知り、言葉にすることで共有し、同じイメージで研修を進めていくことが大事だと感じた。他の先生方と協議・対話を大切にしていきたい。

・「一人で抱え込まずにみんなを巻き込んで」という言葉をたくさん聞いた。ファシリテーターは先になって進めていく人というイメージがあったので不安感があったが、園内の先生みんなで子どもたちのことを語り合うことで、様々な意見や考えを知り、よりよい保育へつなげられることを学んだ。

第２回保育研修会　　参加者 21 名

開催日　11 月 26 日（火）

場　所　能代市役所

内　容　講話　「発達心理学の視点からみる子どもの世界」

講師　秋田大学教育文化学部　教授　山名　裕子　氏

グループ協議
「保育を見つめ直す」

〔参加者の感想〕

・自分が「できる・できない」の保育（見方）をしてしまっていることに気付くことができる講話だった。自分のクラスの子どもを「言葉が遅い」などと考えてしまっていたと反省した。明日からはその子個人をよく見て、その子に合った関わり方や援助をして長い目で子どもの育ちを考えていきたいと思った。分かっていたことでもつい、日常の保育に追われ、余裕がなくなり忘れてしまうことも多いので、改めて意識したい。

・いろんな先生方の意見や受け止め方を聞いて知り、抽象的なことを言語化することができた。このような交流ができたことを大事にしていきたい。

②就学前施設長情報交換会の実施（年２回）

幼児教育をめぐる情勢の現状把握、課題についての情報交換を主眼として、年２回実施している。

○子育て支援課主催の研修会を今年度も２回実施した。１回目は園内研修について年度の初めに実施したことで、各園の園内研修の見通しをもつことができた。２回目は専門家による保育の在り方についての研修を実施し、こどものとらえ方について見直す貴重な機会となった。

●保育・教育現場のニーズを考慮しながら、年間の保育研修の内容、回数等を検討する必要がある。

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

①就学前施設・小学校の職員を対象にした合同研修会の開催

令和６年度就学前・小学校合同研修会　　参加者 23 名

開催日　7 月 31 日（水）

場　所　能代市役所二ツ井町庁舎

内　容　講話・演習「育ちや学びをつなぐ幼小の円滑な接続について」

講師　秋田県教育庁北教育事務所　指導主事　庄司　伸子　氏

〔参加者の感想〕

・架け橋プログラムの必要性を感じた。教育・保育が連続したものであること、また、スムーズな接続が必要であることを再確認できた。関係者が共有できる環境、場の確保が今後も課題だと感じる。

・幼稚園や保育園の先生の視点を知ることができ、とてもよい時間になった。生活科について具体的に考えることが少ないので大変勉強になった。

②初任者研修への就学前施設職員の参加

能代市初任者研修Ⅰ　　参加者 11 名　　＊採用３年目までの教員対象

開催日　5 月 22 日（水）

場　所　能代市役所二ツ井町庁舎

内　容　教育長講話

演習・情報交換

〔参加者の感想〕

・教育長の講話の中では、「先生」と呼ばれる立場としての責任感をより感じた。グループでのワークショップでは、今抱えている課題やこの２ヶ月でできたことを出し合ったことで、今自分にできることとできないことが明確になり、今後の保育に生かしていけることを見つけることが

できた充実した研修だった。

③就学前施設と小学校の相互理解促進のための幼保小連携推進協議会の開催（年３回）

第１回能代市幼保小連携推進協議会　　参加者 26 名

開催日　5 月 14 日（火）

場　所　能代市役所二ツ井町庁舎

内　容　講話「あそびのチカラ～つなぐ・つながる・そだつ～」

幼児教育・保育アドバイザー　簾内　正子

協議「小学校区の交流年間計画作成について」

〔参加者の感想〕

・幼保小連携について改めてその重要性を確認することができよい機会になった。架け橋プログラムは小学校への順応が目的だと考えていたので、１年生だけでなく小学校６年間、更にはその先の中・高まで続く「学びの連続」であることを再認識することができた。

・遊びの中から見える学びを保育者が見出し、子どもの伸びる力や意欲を支えていくことが大切であると感じた。５歳児ばかりに着目するのではなく、乳児期からの育ちのつながりも見ていくことを心がけていきたいと思った。

第２回能代市幼保小連携推進協議会　　参加者 24 名

開催日　11 月 13 日（水）

場　所　能代市役所二ツ井町庁舎

内　容　行政説明「『架け橋プログラム』の推進について」

秋田県教育庁北教育事務所　指導主事　庄司　伸子　氏

実践発表「『架け橋プログラム』の取組について」

二ツ井小学校　　安井　敦子　校長

二ツ井子ども園　藤田　　泉　園長

協議「教職員による連携や子どもの交流活動等の振り返りと展望」

〔参加者の感想〕

・小学校入学前までこうしてほしいということが、就学前教育ではないということが一番印象に残った。園と小学校は違うという意識が強かったが、園での教育を少しでも知ることで小１プロブレムの解決に役立つことを知った。つながりを意識しなければいけないと思った。

・行政説明は持続可能な連携を考えるときの基礎として大切に覚えておきたい内容だった。実践発表については、入学先が一つだからできることだろうと思った。協議ではそれぞれがもつ考えを伝え合えてよかった。

・いよいよ具体的に進む連携に、二ツ井地区の発表を聞き、イメージをもつことができた。あまり難しく考えずに進めていきたいと思う。

第３回能代市幼保小連携推進協議会　　参加者 40 名

開催日　2 月 20 日（木）

場　所　能代市役所二ツ井町庁舎

○幼保小連携推進協議会の年３回のサイクルが軌道に乗り周知されている。第１回で小学校区の交流計画を立案し、第２回は管理職を対象とした意見交換、第３回は連携の振り返りと就学児の情報交換というねらいで実施している。今年度は架け橋プログラム事業に関して話題にし、協議を重ね、次年度からの取組に生かしたい。

④架け橋プログラム事業に向けた取組

・モデル地域での架け橋プログラム実践

２つのモデル地域を設けて、架け橋プログラムに取り組んでもらいながら、成果や課題を具体的に把握できるように進めている。

ⅰ二ツ井小学校区の実践　　〔二ツ井小学校、二ツ井子ども園、きみまち子ども園〕

以前から交流・連携が行われている地域であり、相互参観、こども同士の交流等、年間計画に沿って実践されている。そのため、既存の活動を軸に、趣旨の理解を深めながら、架け橋プログラムに取り組んでいる。

ⅱ第五小学校区の実践　　〔第五小学校、東能代幼稚園〕

今回新たに取り組む内容が多かったが、相互理解の場を設定したり、交流・連携の活動を工夫したりして、実践を進めるにつれ、こども同士の交流、教員同士の連携が深まる実感を得ることができており、架け橋プログラムの趣旨に沿った連携が図られている。

・先進地視察研修

架け橋プログラム先進地（大館市）研修視察　　参加者 21 名

開催日　７月５日（金）

場　所　大館市　釈迦内小学校　釈迦内保育園

〔参加者の感想〕

・実際の交流の様子を写真やエピソードで教えてもらい参考になった。幼稚園と学校で連携を図り、その時々に応じて交流の方法を考え変容していく臨機応変な対応が素晴らしい。

・幼稚園・小学校の先生たちの関係性に驚いた。ここまでになるまでの話し合いの積み重ねや、共通理解を進める苦労が感じられた。互いの歩み寄り、理解しようと受け入れる気持ちが必要だと思った。

・交流の目的をはっきりさせることで、子どもの何を育てたいのか、どう子どもに接するべきかが見え、有意義な時間となると感じた。架け橋の交流は互いに生活に入り込み体験をすることで子ども同士育ち合える力がある。課題は分野を超えて手を取り合う大人の側にあると感じた。

○モデル地域の実践を基に、第２回能代市幼保小連携推進協議会で、モデル地域（二ツ井小学校区）の中間実践報告を実施した。次年度の第１回で第五小学校区の実践報告を計画しており、次年度はすべての小学校区で架け橋プログラムに着手する計画である。

○相互参観は参観日の設定の工夫等で、非常に多く見られるようになり、こども理解や遊びの見方等、幼児教育を見る目が広がってきている。さらに、公開保育、公開授業での研究協議への相互参加を目指しているが、まだまだハードルが高い。今年度はモデル地域で保育の研究協議への参加が実現し、一歩を踏み出した。

●地域のこどもたちの育成のために架け橋プログラムの意義を理解し、部局間連携を深めながら進めていく必要がある。

⑤幼児教育・保育アドバイザー通信「てのひら」の定期発行（月１回）

・能代市の就学前施設（１７施設）及び小学校（７校）に配付

○幼保小連携の研修会や交流の情報、園訪問で参観した保育の様子、園内研修の情報等を掲載し、就学前施設や小学校の連携等に活用できるよう、定期的に発行している。

（５）「県との連携体制の充実」

・県と連携しながら就学前施設と小学校教育との円滑な接続に向けた継続的指導や支援

・就学前教育推進協議会、教育・保育アドバイザー連絡協議会への参加

・県教育・保育アドバイザーの育成支援の活用
・県主催の連絡協議会等の事業を通じた他市町村との情報交換等

○幼保小連携推進協議会、就学前・小学校合同研修会等、県の支援により、事業の意義を認識し、より有効な研修となるような助言を得て開催することができ、参加者の事業への理解が深まってきている。
○県の要請訪問等への同行は、保育参観、研究協議の助言等、実際の保育を基にした保育の見方を知る非常に有効な学びの機会だった。
○県主催のアドバイザー連絡協議会は、講話や演習など参考になることが多かった。また、他市と情報交換ができる貴重な機会だった。
○他市アドバイザーに学ぶ会は、他市の教育・保育の推進体制づくりや、園へのかかわり方等を実際に学び、自己の園へのかかわり方を見直す機会として大変有意義だった。

３　わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業（令和６年度）の成果と課題

○保育研修会や通信等を通じた情報発信により、徐々に園内研修へのアドバイザーの参加依頼が増えるなど、園内研修意欲の高まりが感じられる。
○幼保小連携推進協議会や合同研修会等で幼保小の架け橋プログラムに係る講話や協議等を行うことにより、幼保小連携の必要性やこどもの学びに対する相互理解が深まってきている。
○幼保小の架け橋プログラム実践のモデル地区では、幼保小連携の意識の高まりと具体的な連携・交流が見られるようになった。
●各就学前施設における課題や願い等を把握し、幼児教育・保育アドバイザーを活用した教育・保育の質向上に向けた主体的な研修の充実につなげていく必要がある。
●幼保小の架け橋プログラムの推進に向けて、部局間の役割の明確化と連携の強化を図っていく必要がある。
●幼保小公開保育、公開授業での研究協議への相互参加の必要性について、さらなる周知が必要である。

実施市町村の具体的取組（北秋田市）

１　教育・保育の現状と課題
（１）就学前施設と小学校との交流活動、就学後の児童の授業参観、気になる子に関する情報交換はあるものの、小学校入学後の生活や学習への適応や指導に困難を抱える事例が見られる。
（２）就学前施設と小学校が「育てたい子どもの姿」を明確にし、教育・保育の質の向上を図る必要がある。

２　令和６年度の目的、重点、実施内容
【目的】
　就学前施設と小学校との連携体制を構築するとともに、カリキュラム開発に向けた部局間の体制を整備し、市共通版のカリキュラムを開発する。

【重点】
　教育・保育の改善の必要性についての共通理解と就学前施設と小学校の連携を強化する。

【実施内容】
（１）「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」
①教育・保育アドバイザーを学校教育課へ１名配置（７月から）

②３課（学校教育課、医療健康課、こども課）の連携
・３課連携会議（４月、１２月、３月）
・教育支援委員会への委員としての連携（６月、１０月、１１月、２月）
③学校教育課と医療健康課の連携
・５歳児健康相談（年５回）幼児教室スキップ（月１回）を通しての連携
・乳幼児育成会議への参加、各園での会議の参加（１０園訪問）
④学校教育課とこども課との連携
・幼保小連携会議、幼保小合同研修会、園長会への事務局としての連携
・県の相談会への相談員の派遣（７月、１０月）
⑤成果と課題
○３課による定期的な連携会議を行うことで、成果と課題を明確にするとともに、課題改善に向けた方策について協議することができた。それにより、各事業が充実し、就学前施設や学校への支援につながっている。
●人事異動により担当が替わっても同じ熱量で連携できるよう、持続可能な連携の在り方を模索する必要がある。

（２）「教育・保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」
①令和６年度アドバイザーによる巡回訪問･指導に関する具体的な目標（北秋田市）

派遣実績　計２１施設／全２１施設　１６１回	
回数	・保育園：公立３園　私立５園　（７１回） ・幼保連携型認定こども園：２園（１９回） ・小学校　７校　（５１回） ・その他の施設　４施設（２０回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）　１０園（１７回） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）　５園（　５回） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）　９園（２４回） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）　１０園（２４回） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）　１０園（５２回） ７校（４６回） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）　５園（　５回）７月からの同行記載 ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）　７校（２２回） １０園（２４回） ・特別支援（特別支援に関する相談・面談）　７校（８回）１０園（１９回） ４施設（２０回）
理由	・継続した園訪問により、各園や保育者の課題に沿って支援し、保育の質の向上を図るため。 ・三課（学校教育課・こども課・医療健康課）の連携による特別に配慮が必要とされる子どもへの早期からの支援の充実を図るため。 ・就学前施設から小学校教育への円滑な接続に向けて、就学前施設と小中学校の教職員が互いに理解を深め、幼保小連携の推進と充実を図るため。

②成果と課題
○要請訪問等の研究協議では、積極的に意見を述べ合い、研修を深めようという意識の高まりが感じられる。また、他園や小学校の職員が参加して学び合う体制もできつつある。
●ＰＤＣＡサイクルが機能していない場合も見られ、研修が日々の保育の実践につながるように、訪問後の状況確認と継続した支援に取り組みたい。

（３）「専門性の向上のための研修の充実」
①要録の書き方研修会

【日時】　５月３１日（金）　１３：３０～１５：３０
【会場】　北秋田市民ふれあいプラザコムコム
【参加者】市内就学前施設職員　２０名
【内容】　講義「指導・保育要録について」
　　秋田県教育庁北教育事務所
　　庄司　伸子　指導主事
　　演習「書き方について」

【参加者によるアンケートから】
・アンケート回答者１４名（受講者：２０名、回収率：７０．０％）
　満足である　　：９名（６４．３％）
　やや満足である：４名（２８．６％）
　やや不満である：１名（７．１％）
・感想
　要録を記入することで、自分の保育を振り返り、こどもの理解を深めていくことに気付かされた。学校にしっかりと読んでもらえるような、一人一人の姿が伝わる文章を心掛けなければいけないと感じた。

②保育士スキルアップ研修Ⅰ
【日時】１２月１３日（金）
【参加者】市内就学前施設職員　１４名
【内容】　講義「園内研究についてⅠ～研究の意義や進め方について」
　　秋田県教育庁北教育事務所
　　庄司　伸子　指導主事
　　演習「園内研究計画の立案」
【参加者によるアンケートから】
【参加者によるアンケートから】
・アンケート回答者１４名（受講者：１４名、回収率：１００．０％）
　満足である　　：９名（６７．３％）
　やや満足である：５名（３２．７％）
　やや不満である：０名（０．０％）
・感想
　園目標や重点目標を具現化するために設定された研究テーマをもとに組織的・計画的・継続的に取組を進めることで研修が充実し、子どもの育ち還元されていくことがよくわかった。研究することで子ども一人一人の育ちにつながってほしいと願いながら、 研究に取り組んでいきたい。

③保育士スキルアップ研修Ⅱ
【日時】　１月１７日（金）
【参加者】市内就学前施設職員　１２名
【内容】　講義「園内研究についてⅡ～参加型園内研修の進め方について」
　　秋田県教育庁北教育事務所
　　庄司　伸子　指導主事
　　演習「研究協議の構想」

【参加者によるアンケートから】
・アンケート回答者１４名（受講者：１２名、回収率：１００．０％）
　満足である　　：１０名（８５．４％）
　やや満足である：　２名（１４．６％）
　やや不満である：　０名（０．０％）
・感想
　「研究協議の内容を構想する」過程の難しさを感じると共に、目的やゴールを明確にして協

議を進めていく大切さがよくわかった。誰と何を話しあうのか、ゴール地点でメンバーがどうあってほしのかをイメージしながら、今日の演習で学んだことを自園での研究協議に生かしていきたい。

④成果と課題

○就学前施設の実態やニーズに応じた研修が必要だと考え、近隣の北教育事務所に情報提供いただきながら各種研修会に御協力を願い、研修会を企画することができている。就学前施設からの参加も積極的で、研修への意欲が感じられる。

●今年度は年度途中で企画した研修が多く、次年度は、早い段階で参加を促せるよう計画的に進めていく。実態やニーズに応じながら、今年度の研修を生かした内容を企画していきたい。

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

①第１回幼保小連携会議

【日時】　４月３０日（火）　１３：４５～１６：３０

【会場】　北秋田市民ふれあいプラザコムコム

【参加者】市内小学校長及び義務教育学校長　７名

市内保育園長　８名

市内幼保連携型認定こども園長　２名

【内容】　情報提供

秋田県教育庁北教育事務所　庄司　伸子　指導主事

今後の方向性について

北秋田市教育支援委員会　学校教育課　成田　正子

講話・質疑応答

「大館市のモデル地区　釈迦内小学区の実践について」

大館市立釈迦内小学校　佐藤　潔　校長

認定こども園向陽こども園　佐々木　夕子　主幹保育教諭

協議・報告

「育てたい子どもの姿と今後の取組について」学区ごとの協議

【参加者の感想】

就学前施設と学校とで協議する場を設けてもらってありがたかった。年度の見通しをもつことができた。

大館市の実践や入学した１年生の実態から、交流の意義や重要性は感じられる。ただし、ビルドアンドビルドとなり、職員の多忙感にならないような工夫が必要である。

②第２回幼保小連携会議

【日時】　２月２８日（金）　１４：３０～１６：３０

【会場】　北秋田市民ふれあいプラザコムコム

【参加者】就学前施設と学校の管理職　１６名

教諭や主任　１６名

【内容】　今年度の成果と課題について

北秋田市教育委員会　柴田　清香アドバイザー

協議・報告

「令和７年度の取組について」学区ごとに協議し、交流計画立案

③幼保小合同研修会

【日時】　７月２６日（金）　１３：３０～１６：３０
【会場】　北秋田市交流センター
【参加者】市内小学校及び義務教育学校　　８名
　　市内就学前施設　　１５名
【内容】　説明「育ちや学びをつなぐ幼保小の円滑な接続について」
　　秋田県教育庁北教育事務所　庄司　伸子　指導主事
　　説明　北管内の取組状況について
　　秋田県教育庁北教育事務所　庄司　伸子　指導主事
　　演習・協議　育ちや学びのつながりを意識した交流活動の工夫について
　　秋田県教育庁北教育事務所　庄司　伸子　指導主事
　　紹介　北秋田市の事例について
　　北秋田市教育委員会　学校教育課　成田　正子
【参加者によるアンケートから】
・アンケート回答者２２名（受講者：２３名、回収率：９５．０％）
　満足である　　：１４名（６３．６％）
　やや満足である：　８名（３６．６％）
・感想
　園も学校も連携を進める以前の話合いの時間が足りないなと感じる。
　小学校の先生と演習もしたことで、単元について教えてもらうことができてよかった。
　保育園での活動がどのように小学校につながるのか、互いの具体的な実践に役立てたい。

④北秋田市幼保小架け橋委員会
【参加者】架け橋委員　８名
　　小学校（校長、教頭、教諭）　　４名
　　就学前施設（園長、副園長、保育教諭、保育士）　４名
　　指導助言　　秋田県教育庁北教育事務所　庄司　伸子　指導主事
【内容】　・共通版カリキュラムについて
　　・モデル地区について
　　・年長児公開保育について

⑤研修等をまとめた広報誌の発行
　教育・保育アドバイザーが「もりのかけはし」を発行し、各学校区の連携の進捗状況や研究授業等について情報提供。

⑥相互参観及び研究協議等への参加の促進
　互いの教育内容、指導方法の違い及び共通点について理解を深めている。
⑦互恵性のある交流活動の継続
　年間計画に基づき、交流活動のねらいや内容を検討し、実施後の振り返りがもたれるようになった。
⑧成果と課題
○これまでの実践と幼保小連携会議、幼保小合同研修会での協議を生かし、子どもたちの育ちや学びを小学校に円滑に接続するための取組が各学校区で展開されている。徐々に育ちや学びの連続性についての理解が深まっている。
●複数園から入学する場合の体制づくりや取組に困難さを感じている学校がある。子どもの育ちと学びを小学校に円滑に接続する意義等について全職員による共通理解を一層図りながら、体制づくりや取組を推進していきたい。

（５）「県との連携体制の充実」
①アドバイザー連絡協議会等への参加を通じて、他市町村の実践や

情報の共有

②北教育事務所との連携

（要請訪問への同行５回、実施市支援訪問１回、アドバイザー支援訪問２回、市町村訪問１回、講師依頼４回の他、日常的に打合せ・相談）

③成果と課題

○アドバイザー配置が年度途中の７月から配置されたということ、北教育事務所が近隣ということもあり、県との情報共有を密にしながら、（１）～（５）の全てにおいて丁寧な支援を受けて事業を進めることができた。

●県による丁寧な支援や適切な指導・助言について、部局間で連携して改善につなげることができるように進めていく必要がある。

３　わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業（令和６年度）の成果と課題

○県の支援を受けながら部局間が連携し、本市の実態に応じた取組をスタートし、就学前施設と小学校との連携体制の基盤づくりにつなげることができた。

●こども課と連携しながら園内研究の充実と職員の意識の向上を図るとともに、日々の保育の実践につなげていく体制の強化が必要である。

△架け橋カリキュラムについては、２月の北秋田市幼保小架け橋委員会での協議を経て、令和７年度４月幼保小連携会議で提案する方向である。市として育てたい子どもの姿や３つの資質能力について、就学前施設と学校の教職員で共通認識をもち、教育・保育の相互理解をした上で、モデル地区や学校区ごとにカリキュラムの作成を進め、教育・保育の質の改善に向けた取組を行っていきたい。就学前施設から小学校への円滑な接続と教育・保育の質の改善を目指し、令和７年度から年長児公開保育をスタートする。部局間の連携をより一層進めていきたい。

実施市町村の具体的取組（東成瀬村）

１　教育・保育の現状と課題

（１）保小連携事業は行っているが、接続期における子どもの育ちや学びについての相互理解までには至っておらず、部局間連携等体制づくりが必要である。

（２）保育園の園内研修は、時間の確保が難しい中でも計画的に行なわれているが、内容の見直しや充実を図る必要がある。

２　令和６年度の目的、重点、実施内容

【目的】

・教育・保育アドバイザーの配置や部局間連携など、保小連携体制の強化を図る。

・園内研修や保小合同研修などで保小の相互理解を図り、東成瀬版「架け橋期のカリキュラム」策定を行う。

【重点】

・保小連携事業推進体制の確立と架け橋期のカリキュラムの策定

【実施内容】

【①教育・保育アドバイザーによる園の支援】

・幼児教育・保育アドバイザー1名を配置

・教育委員会及び健康福祉課におけるアドバイザーの活動内容の情報共有

【②専門性の向上のための研修の充実】

・地域や園種の垣根を越えた学び合う研修機会の提供

・保育園を訪問し、保育参観、園内研修、園運営の相談等に対して、指導助言を行う

【③小学校教育との円滑な接続に向けた研修の充実】

・教育委員会及び健康福祉課の連携による教育・保育の推進体制の充実

・他市町村における取組事例等を参考に、就学前施設と小学校教育との円滑な接続に向けた課題等の把握（通年）

【④県との連携体制及びアドバイザーネットワークの活用】

・県との連携を強化し、事業の円滑な実施のための助言、指導法の共通理解

・就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会、近隣の実施市との連携等を通じて、先行する地域の事例等を参考に、取り組み等への助言、指導等を活用

（１）部局間連携による教育・保育推進体制の充実

・健康福祉課に、こども政策アドバイザー（教育・保育アドバイザー兼務）１名を配置

・教育委員会との連携

教育委員会教育政策監の保育園園内研修への参加など

・小学校・保育園・教育委員会・健康福祉課による「保小連携開発会議」の開催

５月：「村保小連携事業について」「令和６年度年間計画について」

８月：「保小合同研修会について」「保小連携の計画の確認・見直し」「架け橋期のカリキュラムの検討・開発に向けて」

２月：「架け橋期のカリキュラムの検証」「保小連携の全体計画の検証・見直し」（予定）

・保小連携推進委員会の開催

（小学校長、教頭、１年担任、２年担任、保育園長、主任保育士、５歳児担任、アドバイザー教育委員会、健康福祉課）

６月：「保小連携交流事業について」「架け橋期のカリキュラムについて」「連携・交流活動の内容等について」「情報交換」

２月：令和６年度の保小連携事業の評価と課題　など（予定）

【成果】

○令和６年度より、こども政策アドバイザー（教育・保育アドバイザー）を健康福祉課に配置し、教育委員会関連の用務も兼務していることで、保育園と学校教育双方の事情に明るく、保小だけではなく健康福祉課と教育委員会との連携にもつながった。

【課題】

●架け橋期のカリキュラムづくりだけの目的での連携にならないよう、部局間連携を更に深めていきたい。

（２）「教育・保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

・教育・保育アドバイザーが、毎月の園内研修に参加し、保育者の支援を行う。

・保育園を訪問し、子どもの様子を見たり、保育士へアドバイスをしたりする。

・園内研修リーダーへの支援を行う。

◇令和６年度アドバイザーによる巡回訪問･指導に関する具体的な目標（東成瀬村）

派遣実績　計１施設／全１施設　　119 回		
回数	・保育園：私立園６２回）	
	・小学校：（４４回）	
	・その他の施設（７回）	
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）	１園（１５回）
	・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）	１園（　２回）
	・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）	園（　　回）
	・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）	１園（１８回）
	・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）	１園（２３回）

		施設（　回） １校（２３回） １園（　４回） １校（１９回） １園（　４回）
	・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）	
理由	・実施初年度であり、まず今年度は毎月開催される園内研修への支援を主に行い、いずれは必要に応じて園長や保育士の支援・相談にいつでも応じられるような体制を目指したい。	

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

①県指導主事要請訪問
日　時：令和６年７月５日（金）
会　場：なるせ保育園
講　師：南教育事務所　主任指導主事　佐藤　伸剛　氏
　　指導主事　　戸部　俊和　氏
　　幼保指導員　　柴田　久美子　氏
内　容：１，３歳児の保育参観と KJ 法を使った協議
参加者：なるせ保育園職員（保育士、保育補助員、事務員、栄養士）、小学校教員
　　近隣市町保育士・保育教諭（横手市、羽後町）32 人

②園内研修支援
日　時：令和６年９月２５日（水）13：00～
会　場：なるせ保育園
講　師：南教育事務所　主任指導主事　佐藤　伸剛　氏
内　容：「気になる子への支援と環境構成について」
参加者：なるせ保育園職員（保育士、事務員、栄養士）、なるせ学童クラブ支援員　13 人

③園内研修支援
日　時：令和６年１１月２０日（水）
会　場：なるせ保育園
講　師：南教育事務所　指導主事　戸部　俊和　氏
内　容：「ファシリテーター研修」
参加者：なるせ保育園保育士、近隣市町保育士・保育教諭　11 人

④村主催研修会
日　時：令和７年１月２４日（金）
会　場：なるせ児童館
講　師：南教育事務所　指導主事　戸部　俊和　氏
内　容：「乳幼児との関わり方」について
参加者：なるせ保育園フリー保育士、保育補助員、なるせ児童館職員、
　　なるせ学童クラブ支援員、近隣市保育士（横手市）９人

村主催研修

④園内研修支援
日　時：令和７年２月２０日（木）
講　師：南教育事務所　指導主事　　戸部　俊和　氏
　　幼保指導員　柴田　久美子　氏
内　容：「指導計画の見直し」について
参加者：なるせ保育園保育士　９人

【成果】

○村内に１園しかなく、保育に関する視野が狭くなりがちな中で、他市町の保育士・保育教諭に研修に参加してもらったことは、新たな視点や捉え方などに気づく良い機会となったと感じる。また、他園の園内研修になるせ保育園の保育士が参加する機会につながり、自園の研修の良い点や改善点を見つけることができた。

○新たな研修機会として設定するのではなく、既存の園内研修に講師を招くことで保育士の負担感を増やすことなく進められているのではと感じる。

○村の学童クラブ支援員も研修に加わったことで、いずれ学童クラブを利用する児童の情報交換の機会となり、継続した支援につながるのではと感じる。

【課題】

●アドバイザーの園との関わり方として、県指導主事要請訪問等の当日のみならず、その前後の関わりをもつことで、保育の一層の充実に寄与したい。

●アドバイザーが村外の園の保育を参観し、そこで得た情報を園に提供する機会を増やしたい。

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

◆県指導主事要請訪問時の園内研修・協議への、小学校教員の参加

日時：令和６年７月５日（金）

会場：なるせ保育園

講　師：南教育事務所　主任指導主事　佐藤　伸剛　氏

指導主事　　戸部　俊和　氏

幼保指導員　　柴田　久美子　氏

内　容：１，３歳児の保育参観と KJ 法を使った協議

参加者：なるせ保育園職員（保育士、保育補助員、事務員、栄養士）、小学校教員

近隣市町保育士・保育教諭（横手市、羽後町）32 人

◆保小合同研修会の開催

日時：令和６年８月２１日（水）

場所：なるせ保育園、東成瀬小学校

内容：午前　５歳児クラスの保育参観　午後　架け橋期のカリキュラム作成について

参加者：27 人

◆保小連携だより「かけはし　なるせ」の発行（月１回程度）

・教育・保育アドバイザーが、保育園・小学校の活動や授業の様子から、子ども達の学び、育ちについて紹介し、双方で共有し理解を深めていく。

【成果】

○初めて開催した保小合同研修会では、教員・保育士それぞれの立場から活発な意見が出され、育ちの連続性の確認につながった。

○保小連携だよりの発行により、保小それぞれの活動や授業のねらいや学び、育ちについて保小双方の職員で共有することができ、理解につながってきていると感じる。

【課題】

●教員と保育士とが互いの教育内容や保育内容について語り合う機会の充実について、働き方改革との兼ね合いをみながら、模索していきたい。

（５）「県との連携体制の充実」

・県教育・保育アドバイザーによる、アドバイザー支援訪問

・県指導主事の保育園要請訪問への同行

・教育・保育アドバイザー連絡協議会、アドバイザーに学ぶ研修会への参加

・保小合同研修での、県指導主事による指導

【成果】

○アドバイザー支援訪問、県指導主事訪問への同行は、県教委による園への指導と同時にアドバイザーの研修機会となっており、とてもためになっている。

○教育・保育アドバイザー連絡協議会、アドバイザーに学ぶ研修会もまた、アドバイザーの資質向上の機会となっている

【課題】

●アドバイザーが各種研修で得たものを、いろいろな形でもっと園と共有できるようにしていきたい

３　わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業（令和６年度）の成果と課題

【成果】

○架け橋期のカリキュラム策定という明確な目的ができたことで、保小連携事業に関する職員の意識が向上した。また、策定の作業を通して、園と学校で相互に行き来する機会が増え、互いの理解の深まりにつながっている。

○園の職員だけで行っていた園内研修に、アドバイザーが助言者として加わったことで、保育士の視点が広がり、子どもを見取る力の向上につながってきている。

○立地条件を生かしてアドバイザーが頻繁に園に顔を出すことが、炉辺での気軽な相談に応じる機会になっている。

○アドバイザーを介し、他の事業実施市との研修での交流が生まれており、職員の意識や資質向上につながってきていると感じる。

【課題】

●架け橋期カリキュラムの作成で満足するのではなく、実際に活用しながら、村の子ども達の実情に沿ったものへ常に改善していけるようにしたい。

●アドバイザーによる保育者との面談や相談活動の機会は、他の市に比べて少ないようである。園のニーズを踏まえることを最優先にしながら、体制づくりについて考えていきたい。

●保小連携については保護者の理解を得ることも必要であり、保護者向けの連携だよりの発行も検討していきたい。

様式１１（別紙２）